



山
ぎ
や
ま

第52号 令和3年11月
関東氷上郷友会

三協運輸 株式会社

本店住所 埼玉県桶川市坂田字向990-1

コロナ禍に巻き込まれた今年の日本
対策に余念の無い毎日と存じます
衷心より御見舞申し上げます

令和新時代を迎えて「安全・安心・朗らかに」を旗印にご期待に応えて参ります。



本店 新社屋(敷地面積4,000坪、建物面積2,000坪) 平成23年10月1日完成



関東発一関西行の風景
出発直前の大型トラック部隊

毎日200台の車輦群が東海道を
中心に走っております。

〔主要取引先〕 順不同

三井化学(株) 味の素(株) ダイキン工業(株) アサヒビール(株) 三菱商事(株)
キリンビール(株) 沖電気工業(株) 古河電工(株) ハウス食品(株) 帝人(株)
新神戸電機(株) (株)東芝 キューピー(株) (株)ブリヂストン 江崎グリコ(株)

三協運輸 株式会社

代表取締役会長 岸本 勲(氷上町出身)

本 店 埼玉県桶川市坂田字向990-1 TEL. 048 (728) 9380
E-mail : sankyounyu_saitama@h6.dion.ne.jp
本店配車センター 埼玉県桶川市坂田字向990-1 TEL. 048 (729) 0466
大阪支店 大阪府大東市新田中町3-3 TEL. 072 (806) 2821

物流倉庫所在地 東京・埼玉・神奈川・名古屋・大阪



山
ざ
ら

第
52
号

山ざる 第52号 目次

〈表紙〉笹倉鉄平画「浅草寺西境内」／〈扉〉写真Ⅱ徳田八郎衛

ご挨拶……岸本 勲 5

会計報告書……6

祝寿の方々ご紹介……7

《インタビュコーナー》

奥田昌明さん 花粉研究に没頭すべてが繋がりに「チバニアン」誕生……編集部 14

《近況・エッセイ》

東日本大震災10年目の今……八木信行 19

夏野菜の元気吸収大作戦……大畑時子 22

私の履歴書……仲 一聡 24

キョウイクとキョウヨウ……近藤利春 27

南房総をめぐる神話伝説……足立悦雄 31

我が家のツバメたち……関 多加子 34

セ・ラ・ヴィ！……田中正邦 36

丹波で育った私と水泳……竹安正伸 39

《私の職場》

ページをめくるようにシーンを積み重ねる……神 康幸 43

《丹波から》

関口（磯尾）寛治君を偲んで……大野 昶 66

狸穴命水と五台山……余田正博 69

丹波の国蝶オオムラサキ ウイーンで羽ばたく……三浦仁志 73

かおりよし農園から……田中 忍 79

「甲子園で決勝」夢が実現……坂谷高義 82

《丹波ブランド紹介》

その12「小谷製菓」の手焼き瓦せんべい……古西 純 86

《丹波人物伝》

里勝安選手の輝かしい陸上競技歴をたどる……足立敏晴 90

《丹波のまつり》

全国でも珍しい流鏝馬……岡 吉明 96

《丹波通信》

姿を消した藩校、郡役所の建物……荻野祐一 99

《山ざる研究》

四代にわたる江戸時代の香典帳……徳田八郎衛 104

《山ざる文芸》俳壇・詩座・歌壇……46

《MYギャラリー》原谷洋美／山口敏之／近藤利春／岡田昌子……53

《簡単レシビ》丸川宥次郎／足立由美子・足立忠司……57

《丹波を撮る》……徳田八郎衛 59

ふるさとトピックス（丹波新聞）から 井徳正吾……65 BOOKS……108

会員だより……114 同窓会だより……116 インフォメーション……118

寄付者芳名……119 《協賛広告》……120 編集後記……132

ゆるりゆるり
うしが見てゆく 牡丹かな
空の紺
公江洙堂（五維智）
旧芦田村・柏中二二回卒業
書は上田道代さん

ゆるりゆるり
うしが見てゆく 牡丹かな

「空の紺」 公江洙堂（五維智）

〈旧芦田村・柏中二二回卒業〉

書は上田道代さん

ご挨拶

会長 岸 本 勲



コロナ禍に巻き込まれた今年の日本ですが、皆様におかれては、対策に余念のない毎日と存じ上げます。衷心よりお見舞い申し上げます。最善を願ひ最悪に備えよ!!」二〇二〇年『新型コロナウイルスの患者を日本で初確認』悪夢のようなニュースが日本列島に衝撃を与えたのは一月十六日のことでした。中国武漢市への渡航歴のある人が、国内の検査で初めて陽性になったことを伝えるニュースでした。「いよいよ来たか!!」ですが、日本政府の中で深刻な事態と捉えた人は皆無と云っていいだろうと思います。当時に伝える朝日新聞でさえ「時時刻刻」では、厚労省は現時点でヒトからヒトへと感染するリスクは低く過度な心配は必要ない、としていました。今を思えば信じがたい緩い予測でした。しかし、即、世界は地獄に叩き落とされました。日本では官僚に依存して乗り切ろうとした安倍首相が信じがたいリーダースhipの欠如を露呈してしまいました。感染国からの入国禁止措置という重要政策を採らず、ウイルスが拡大した欧州からの入国禁止が決定的に遅れ、日本国内に無症状感染者が蔓延する事態を作り出してしまいました。経済対策も財務省に丸乗りした政府にコアな支持者からも失望の声が飛びました。政策決定を含め後手後手に回った日本の有様に表現しがたい

怒りを持った国民は多いと思います。その怒りの根源がどこにあるのかを確かめる余裕のないまま人々は日々の生活に追われているのです。

さて、コロナ収束のカギとされるワクチン開発や接種体制について触れてみたいと思います。医療先進国であるはずの日本で何故国産ワクチンの開発が遅れているのか。国産は年内供給見通せずの状態です。欧米では、驚異的なスピードでワクチンの実用化に成功しております。ワクチンの開発は産官学の力を結集して取り組むべき重要な国家の危機管理であります。国家としてワクチン製造技術の所有は不可欠です。迅速かつ大量のワクチン確保が必要です。欧米ではワクチン接種の担い手確保も進んでいます。医師任せでなく救急救命士、薬剤師、獣医師、助産婦、また医療資格のない一般ボランティアでも「訓練を受ければ注射が出来るようになっていきます。日本政府も早急に手を打つべきです。

8月下旬に入り感染対策に手詰りが目立って来ております。デルタ株が猛威を振るい新規感染者は連日2万人超となりました。重症者は2千人に迫る勢いです。第5波でのデルタ株急拡大は止まる気配がありません。この様な状況の中では、今秋の総会は困難と判断し、正副会長で相談の結果、総会中止と決定致しました。昨年も中止せざるを得なかっただけに残念でなりません。

来年の126周年記念総会に期待して、今年度中止を御連絡申し上げます。皆様におかれては、呉れ呉れも御自愛下さります様、お祈り申し上げます。

会 計 報 告 書

(令和2年7月1日～令和3年6月30日)

関東水上郷友会
 会計担当副会長・谷口 浩章
 理事・原谷 洋美

(単位：円)


収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	金 額	摘 要	科 目	金 額	摘 要
繰 越 金	1,457,985	郵便貯金 657,985	出 版 費	913,145	『山ざる』51号
		定額貯金 800,000	通信・印刷費	133,737	総会・役員会案内等
		振替貯金 0	総 会 費	0	総会関係支払
年 会 費	374,000	187名	会 議 費	0	役員会等
総 会 費	0	-	支 払 手 数 料	0	振替手数料
会 議 費	0	-	消 耗 ・ 備 品 費	66,440	事務品・広告費・慶弔費
寄 付 金	256,500	66名	繰 越 金	1,518,965	郵便貯金 718,965
広 告 料	515,000	44名			定額貯金 800,000
冊 子 代	28,800				振替貯金 0
そ の 他	2	利子			
合 計	2,632,287		合 計	2,632,287	

以上

監査の結果、上記のとおり相違ありません。

令和3年7月26日

会計監査

山本喜則 

谷 敬三 

祝寿の方々ご紹介

郷友会では毎年の総会で80歳を迎えられる会員に祝寿のお祝いをしておりますが、コロナ禍故2年も総会が開催できませず「山ざる」誌上でのお祝いとなりました。申し訳ありません。今年その記念の年に当たられる44名の方に以下の項目でアンケートを依頼しましたところ13名の方から回答を頂きましたのでご紹介します。(誕生日順)

- ① 生年月日
- ② ご出身地
- ③ 上京の年月日
- ④ 上京の動機
- ⑤ これまでに最も印象に残ることは
- ⑥ 祝寿を迎えられてひと言

対象年、昭和16年・辛巳・1941年〜昭和17年・壬午・1942年2月。日ソ中立条約調印。南部仏印進駐決定。アメリカ石油の対日輸出全面禁止。東条英機が首相となる。真珠湾奇襲。マレー半島上陸作戦成功。レコード曲「月月火水木金金」

が広く歌われる。日劇での李香蘭の公演に約10万人が押し寄せ。小学校という名称が国民学校と改称される。音楽では、ドレミファソラシドをハニホヘトイロハに改める。通信簿は、甲乙丙丁から秀優良可となった。金属類特別回収令。乗用車のガソリン使用全面禁止。国民勤労報国協力令。スポーツでは、野球は巨人が優勝、相撲は1月場所双葉山、5月場所羽黒山が優勝。競馬はセントライト号が初のクラシック三冠達成。たばこ(ゴールデンバット) 10銭、

新聞購読料月1円20銭、映画封切館55銭、ビール57銭、白米10kg 3円32銭、アイスクリーム製造中止、配給制でラーメンは姿を消す、封書4銭、葉書2銭、銭湯おとな6銭、鉛筆1本10銭、15銭、ランドセル9円80銭。

栗田(旧姓渡辺) 功様

- ① 昭和16年1月8日
- ② 兵庫県水上郡水上町朝坂
- ③ 1953年
- ④ 東京の私立中学(早稲田中学)に入るため
- ⑤ 東京に行っていた兄が帰って来て「オイ、オマエ東京の早稲田中学に行くか」と声をかけてくれたこと。
- ⑥ 80歳を迎えてまだどこも悪い

祝寿の方々ご紹介

所がなく、丈夫な身体に生んでくれた母に感謝する毎日です。小学校まで毎日50分+50分歩いてかよったのも基礎体力を育ててくれたものと思います。帰途、古墳のある小山に登って矢尻をひろったり。

好本信子様

- ①昭和16年3月7日
- ②兵庫県丹波市柏原町柏原438の1
- ③昭和41年3月28日
- ④丹波での田舎暮らしより、都会生活に憧れ、当時お見合い結婚で、姉に理想の人を伝えていた。条件に合った人と出会いは、結婚したが、一番大切な性格が合わず、今も苦労し

ていたが、大病を患い（2019年）以後変わって来たので、別れずに娘が間に入り仲介してもらっている（横須賀市内に在中）。

⑤横浜で家を建てたいが、資金がないのでどうしたものか悩んでいた時代、4DKのマンションが抽選で当選した時の喜びでした。

⑥まだ80歳と4ヶ月しか経っていませんが、あと20年欲が深いですけれど元気で子や孫の成長を楽しみたいものです。コロナ禍から早く抜け出られますように、日々祈っています。皆様も健康には御留意下さい。

細見次郎様

①昭和16年6月19日 戦争の前でざわざわした時代だったと思います。

②氷上町小谷 狭い谷間に10数軒が住まいする山陰（かげ）の村です。

③昭和39年10月東京オリンピックの年。任地は北区赤羽地区浮間という所。近くの戸田競艇場まで見に行きましたよ。

④会社の勤務任命による。昭和50年に栃木県へ転勤。以降、埼玉県加須市に住んでいます。

⑤仕事（研究職）、ゴルフやお能のおさらい、楽しい事があったが、一番は不食の生活習慣に慣れて来て、身も心も軽くなり、病も悩みもなく、健

祝寿の方々ご紹介

やかにいられる今の生活のことです。

⑥ 80才を迎えて思うことは、宇宙に偏在するエネルギーそのもので、自由で幸福にいられる自分であることです。

正呂地悟様



① 1941年

(昭和16年)

6月24日

② 兵庫県丹波

市氷上町横田

③ 1960年

(昭和35年2月) 大学進学のため初めて上京。国分寺のアパートで4年過ごしました。その後、中小企業金融公庫に入庫。勤務地は熊本(東京五

輪の年)でした。それから、札幌、旭川、大阪(万博の年)、松江、神戸、本社庶務部(先妻帰寂)、熊本、大阪、松江、静岡、本店融資部、静岡(平成8年退職)を渡り歩き、伊豆伊東に、居を構えホテル暖香園で2度目の御奉公をし、10年を過ぎたので退職。関東氷上郷友会に関東ではないが、入会させて頂きました。

④ 1980年8月に先妻との死別(享年34歳、急性骨髄性白血病)1972年に結婚し、3人の子どもを授かった(長女10歳、次女8歳、長男3歳でした)。それから41年子どもたちはそれぞれ家庭を持ち孫も4人、一番上の子は、今年社会人になりました。

⑤ 古希(元氣あふれる澆刺の年)

を迎えた時、「やつと人生のスタート、人生は長い旅路を行くが如く、嵐もあれば晴れる日もある。雨、風を恐れること勿れ、晴天にも安んずること勿れ、次は傘寿を目指せ。その時、少しはお役に立っているかと思うなら米寿(まだまだお米が食べ足りぬ齡)卒寿(人生に卒業は無いはず)どうか長生きしてね。」若い子どもにこんな祝辞をもらったものでした。今の妻とは31年。そんな、こんなで傘寿を迎えました。

(写真は、私達夫婦と体型が似ている我が家の猫たち。向かって左側が妻、右側が私です。想像しながら笑って下さい)

祝寿の方々ご紹介

堂本 敏子様

- ① 昭和16年6月28日
- ② 水上町加茂
- ③
- ④ 結婚の為
- ⑤
- ⑥ 足腰も弱りましたが、なんとかその日を過ごしております。

小西 允子様

- ① 昭和16年9月8日
- ② 山南町北太田（出生は大阪市、空襲を避けるため山南町北太田に住む）
- ③ 昭和40年3月
- ④ 夫の勤務地が東京のため結婚を機に上京。以後転勤のため

異動。横浜、宮城、仙台、千葉etcへ転居。以後、子ども達の教育のため単身赴任にし、現住所（横浜市）に定住（昭和50年より）

⑤ 色々な土地に住み知り合いに恵まれ又各地で友人が多数出来たに親しくおつき合いが出来ます。長年続けている趣味に没頭でき、生活出来る事に幸せを感じます。各種美術家協会に所属し全国的に巡回展示に選ばれ活動できた事。皆々様にお世話になり喜びを感じています。

⑥ ここ数年は病院にお世話になる事も多くなりましたが、子ども達、いろんな人々に助けられ感謝する日々ですが、これからも多くの方々に感謝し

つつ体に気をつけて一日一日楽しく大切に生きたいと思っています。

前田 守様

- ① 昭和16年9月30日
- ② 水上町常楽
- ③ 昭和37年2月27日
- ④ 転勤（京都本社から東京店）昭和37年2月、まさか、関東に永住とは思いませんでした。何年かたって又、関西へ帰るつもりであったが、結婚、住宅等があつて現在に至る。（住めば都です）
- ⑤ 退職後、妻と、エジプト旅行でギザの町からヤシの木(?)越しに三大ピラミッドが見えた瞬間には感動した。

祝寿の方々ご紹介

⑥退職後も健康で好きなゴルフ、卓球、畑等スポーツに親しんでいる。傘寿をむかえ体力が大いにおとろえるが、早寝、早起きで健康年令の維持に頑張っている。

影山一恵様

①1941年11月2日

②山南町

③1960年4月3日

④兄を頼って上京、働きながら洋裁学校に通う為

⑤洋裁学校卒業後、ピエールパルマン・オートクチュールのアトリエにて洋裁の仕事に就き、厳しい審査の末、昭和天皇の皇后様が外遊の際のお洋服の縫製、皇室の方などのお

洋服の縫製、厳しい指導の元、夢と希望を伴いながら青春を過ごしたこと。

⑥私が迎えた年令を余り意識しないように、今もって日々迷いながらも、私の後に曲がりくねった道はあれども、私の前には残された細い道なれど信じて歩むのみです。

堀井隆川様



①昭和16年
11月30日
(1941年)

②丹波市山南

町岩屋3石龕寺

③昭和40年3月25日

④丹波市(氷上郡)山南町岩屋

3石龕寺に二男として出生。

柏原高校を卒業し、高野山大学(和歌山県)へ進学。高野山大学を昭和39年3月に卒業後、奈良県生駒山宝山寺の管長に弟子入り。私立高校(西大寺・正強学園)に勤務と兼務(1年間)。昭和40年3月末に上京。東京都北区東十条にある私立成立学園高校国語科奉職(8年間)。高野山真言宗 青葉山真照寺を新寺建立(初代一世)し住職。

教職と僧職の両立は、無理と理解・判断し住職として専念。布教・教化活動に尽力する。三回に亘る(行政指導)山林伐採と造成工事にて公園墓所と本堂・客殿・庫裡へ住職及び家族の居間を落成(平成18年)。以後出来る限り、既成寺院に近付くべく、境内構

祝寿の方々ご紹介

築物として、鐘樓門、仁王門を竣工。落慶式を終え、現在に至る。

⑤◇奈良市西大寺町の私立正強学園高校（国語科）に大学卒業後奉職できたこと。（奈良県生駒山宝山寺に勤務と共に）

◇大学卒業時（昭和39年）に東京オリンピックが開催され、東海道新幹線（国鉄）が走り出したこと。

◇昭和59年6月に第一回目、新寺（青葉山真照寺）の庵が落成。寺号公称奉告法要ができたこと。

◇平成19年5月16日第2回目寺基移転（別地）にて、本堂・客殿・庫裡が完成。落慶法要が管長さまを導師に迎え、挙行できたこと。

⑥〇「心に念じていれば、いつかは、花ひらく」という言葉が好き。

〇『天・地・人』の中、特に良い人に恵まれることにより、何を目差すにしても遠い丹波の地を離れていても、希望が叶えられるものだ。

〇(Time)時、P(Place)所、O(occasion)場合、の勝縁を常に弁えて、チャンスとすること。

高野節子様

①昭和16年12月20日

②兵庫県氷上郡春日町多利南（現丹波市）

③昭和39年10月

④結婚のため

⑤甲乙つけがたしです。

⑥元気で80歳の節目を迎える事が出来有難い事です。

これからも健康に留意して、感謝の気持ちを持って日々を過したいと思っております。

芦田美代子様

①昭和16年12月20日

②柏原町石田

③昭和55（1980）年10月4日

④夫の東京都内への転勤に伴い、昭和55（1980）年に長野県佐久市から神奈川県川崎市へ、昭和63（1988）年に埼玉県川越市へ転居しました。

⑤川越市で山友ができ、60歳ま

祝寿の方々ご紹介

で気心のあった友達とリーダーと共にいろいろな山に登り、「百名山」中78座の登頂を最後にしました。

⑥山友とお正月に川越七福神参りを皮切りに、四季折々北海道から九州までの名勝旧跡訪問を楽しんでおります。

荒木司郎様

- ①昭和16年12月26日
- ②市島町梶原（旧吉見村梶原）
- ③昭和35年（1960年）4月
- ④専門学校入学
- ⑤東日本大震災・二度の東京オリンピック（パラリンピック）、選手の頑張りで感動し、コロナ禍の中やる気をもらえたこと。

⑥これまで大病もなく生きてこられた事、丈夫な体に生んでくれた両親に感謝しています。これからも石原裕次郎の歌にある「我が人生に悔いなし」をモットーに過ごし健康寿命を延ばしたい。

足立敏晤様

- ①昭和17年2月21日
- ②青垣町
- ③昭和58年4月
- ④東京への転勤
- ⑤へ阪神淡路大震災の惨状を目の当たりにして～
平成7年1月17日午前5時45分に発生した阪神淡路大震災は、大都市直下型大地震であった。私は地震発生後、5日

目に新大阪駅まで開通した新幹線で神戸に向かったが、西宮まで交通機関を利用するのが精一杯であった。後は、徒歩で神戸に向かったが、西宮・芦屋・神戸の市街地の惨状は、我が目を疑うものであった。救助活動の拠点となるべき市役所・警察署・消防署の庁舎が倒壊し、街は不気味なほど静寂に覆われていた。天災天国・日本に住む限り地震・台風の影響を避けることはできないのが宿命である。今、現住（神奈川県茅ヶ崎市）する市の3庁舎（市役所、警察署、消防署）は、老朽化していたが最近、新築が実現し大きな安心材料となった。

⑥健康年齢を維持し、与えられた人生を穏やかに過ごしたい。



花粉研究に没頭 すべてが繋がり 「チバニアン」誕生

千葉県立中央博物館

主任 首席研究員 **奥田昌明**さん



毎日、顕微鏡を覗く奥田さん

●インタビューー

安井孝之、坂上勝朗、岡田昌子

——地球の地質時代の名称として「チバニアン（千葉の時代）」が2020年1月に国際的に採用されました。地質時代の名称に日本の地名が付くのが初めてと聞きましたが、そもそも「チバニアン」とは何ですか？

奥田 地球の歴史は46億年に及びます。そのうち数千年前までの歴史的な記録が残っている時代よりも古いのが地質時代です。その時代は地質学的手法でしか研究できません。恐竜がいたジュラ紀や白亜紀などがある有名です。それらの名前は地質時代の地層が発見された地域の地名から名付けられます。ほとんどの時代はすでに名前が決まっており、ヨーロッパの地名が多いですね。チバニアンは千葉県原市の養老溪谷で見つかった地層に名付けられたもので、77万4千年前から

《研究業績とプロフィール》 1970年丹波市山南町生まれ。柏原高校から京都大学理学部に入学。大学院に進み、化石に含まれる花粉を研究し、1998年に理学博士。同年、千葉県立中央博物館に入り、化石花粉の研究を続けた。2016年から国際地質科学連合に具申する「チバニアン申請グループ」に加わり、千葉県原市の地層の化石花粉の解析を担当した。専門分野は第四紀地質学（花粉）・古環境学。



花粉は植物の種類で一目瞭然だという

12万9千年前までをラテン語で「千葉の時代」を意味する「チバニアン」と呼ぶことになったのです。日本の地学史に残る快挙と言われてます。

——日本以外にも競争相手はいたのですか？

奥田 イタリアの南部の地域も同じ時代の地層だと主張し、「イオニアン」として手を挙げました。地層の規模がチバニ안의何百倍もの大きさだったので、当初、私は「イタリアにはかなわない」と思っていました。

勝敗を決めた地磁気逆転の証拠

——なぜイタリアに勝てたのでしょうか。

奥田 地質時代のある時代を代表する地層だと認められるには①時代が特定できること②深い海の底に積もった地層であること③そのころの陸の状態がわかる指標があることの3点セットが必要です。海の底の地層

であることが条件なのは、海は全世界につながっているので世界の海のことを知ることができるからです。池や沼の地層では世界中のことは分かりませんが、養老溪谷がある房総半島はかつて海の底でしたが、その後隆起して半島になりました。水の流れて削られ、溪谷ができる過程で過去の地層が現れました。国際機関の審査過程ではチバニアンとイオニアンは甲乙つけがたかったのですが、時代が特定できる地磁気逆転がチバニアンでは明確に確認できたことが勝敗の決め手です。

——「地磁気逆転」とはどんな現象ですか。

奥田 現在の地球は磁石のN極が北を指し、S極が南を指しますが、地球は過去に何度も逆転しています。N極が南を指すこともあったのです。実は地磁気逆転を世界で初めて発見したのは京都帝国大学の松山基範教授です。100年ほど前に兵庫県豊岡市の玄武洞の玄武岩から見つけ、同じ現象を中国でも見つけ出し、世界同時に起きていたことを立証しました。松山教授の発見は今考ええるとすごいものですが、評価されたのは戦後になってからです。

チバニアン地層では最後に地磁気が逆転した77万

年前の痕跡が確認されました。イタリアの地層は地磁気逆転の痕跡が不十分でした。

——最後の逆転が77万年前だと今後も逆転することがあるのですか？人類が減んだりしませんか？

奥田 いつかは分かりませんが逆転は起こるでしょう。逆転するとしても私たちが生きているうちにはないでしょうし、動植物が減ぶことはありませんからご安心を（笑）。過去の地磁気逆転で動植物が減んだという証拠はありません。ただ渡り鳥が迷ったり、ハイテク機器が故障したりはするかもしれませんので、文明社会には影響を及ぼすでしょうね。

過去の地球環境が分かる化石花粉研究

——奥田さんは化石の中の花粉を研究されていますが、チバニアンとはどんな関係があるのですか。

奥田 地質時代のある時代を代表する地層と認められるには陸の状態が分かる指標がなくてはならないとお



チバニアンの化石花粉の標本

話ししましたが、その指標になるものが花粉です。花粉は大気中を遠くまで飛び、海面に落ちたらゆっくりと海底にたどり着きます。海底に積もった地層の中の化石からは様々な花粉が見つかるのです。花粉を調べるとその時代にどんな植物が育っていたか、どんな気候だったかが分かります。花粉の形は植物の種類によってはっきり異なり、とても調べやすいものなのです。

——花粉と聞けば、花粉症の人は嫌ですが、昔の地球の環境を調べるのはとても都合のいいものなのですね。でもなぜ花粉に興味を持たれたのですか？

奥田 柏原高校を卒業して1年浪人をして京都大学理学部に入りました。そのころは花粉の研究をするとは思っていませんでした。理学部での成績は悪かったので（笑）、物理や化学ではなく地学科に進みました。最初は貝殻の化石を調べたのですが、どうも面白くない。大学院で環境考古学の安田喜憲教授に学び、花粉の研究を始めたのです。花粉からギリシャ時代の気候を調べたりするのが面白くて幅の広い学問だと興味を持ちました。花粉の研究は恐竜の研究のように当たればすごいギャンブルのようなものではなく、いろんな

分野で活用できる潰しのきく研究だと思つたのです。

——丹波でお過ごしの際から理科系の勉強がお好きだったのですか。

奥田 必ずしもそうではありません。小説などを読むのが好きで、どちらかと言うとギリシャ文明など世界史に興味がありました。実は現役生の時の大学受験では医学部を受けました。なぜかと言うと「医者には儲かるらしい」と聞いたからです（大笑）。当時の私は「食っていけるかどうか」で進学先を考えていたみたいですよ。今思うと血を見るのは苦手なので医学部に落ちて良かったと思います。1浪の時には一生懸命勉強しました。その時も世界史が好きだったので文学部という選択肢もあつたのですが、文学部よりも潰しのきく理学部の方がいいかもと考え、理学部を選びました。

——食っていけるといふなら工学部などは考えなかつたのですか。

奥田 それは考えなかつたです。実学的な勉強にはあまりロマンを感じなかつたのですかねえ。

——花粉の研究にはロマンはありますが、食えそうな研究ではなさそうですか……。

奥田 でもまあ何とか食っていけています（笑）。今振り返ると、面白いことに気が付きます。何かすべてが繋がっているなあ、と思うのです。

たつた一人でギリシャの鉱山で石ころの採取も

——どういうことですか。

奥田 修士課程で研究していた1994年5月にギリシャのメガロポリス盆地の石炭の露天掘りの鉱山に調査に行ったのです。安田教授の勧めでしたが、地磁気逆転が見つかるかもしれないという話で「何か楽しそうだ」と思い、手を挙げたのです。現実は違いました。朝5時に起床して炎天下の露天掘り鉱山の剥き出しになつた崖に命綱を巻いて這いつくばりながら石ころを採取する日々でした。ずっとたつた一人の作業でした。結果は地磁気逆転を見つけることはできませんでしたが、もしも見つかつていたら地磁気逆転の学者になつていたかもしれません。

一方で花粉の研究は私に合つていたようで、ずっと続けました。博士論文を書いたのも花粉の研究です。

博士号を取得して、食っていかないといけないと思ひ、



千葉県立中央博物館の前で。左から2人目が奥田さん

就職口を探していたところ、たまたま見つけたのが今働いている千葉県立中央博物館です。ここでも花粉の研究を続け、多い時は毎日10時間も花粉を顕微鏡で調べました。

うまく行くときはどんどん道が繋がる

——そこにチバニアンの研究チーム代表の岡田誠・茨城大学教授から声がかかるのです。

奥田 そうです。5年前のことです。チバニアンを申請するには花粉を調べなくてはならないですからね。

それからはどんどん道が繋がっていき、チバニアンの決定にたどり着きました。ギリシャで地磁気逆転を調べたことが今回、四半世紀ぶりに蘇りました。不思議です。悪い時は何をやってもうまくいかにの、うまく行くときは道がどんどん繋がっていくものです。

——今後も花粉の研究を続けられるのですね。

奥田 地球温暖化の行方が心配です。温暖化の予測をすることに花粉研究は役立ちます。化石花粉を調べると過去の長期にわたる気候変動を知ることができ、過去の気候変動の現実を将来予測に生かせば、予測の精度が高まるのです。期待してください。

インタビュアーの言

安井孝之

「食っていく」にもいろいろある。化石花粉の研究と聞けば、普通は食っていけない、となるのだが、奥田さんは凄い成果を上げて、ちゃんと食っている。何事も長く続けることだと改めて思う。

(氷上町出身)

坂上勝朗

あつという間の3時間でした。時折はさまれる学究・生活信条に、えも言えぬユーモアがあり、この方は、丹波人の特殊変異株かと思わせる、コロナ禍中の楽しいインタビュアーのひと時でした。

(氷上町出身)

岡田昌子

自分の性に合う研究を懲りることなく継続された逞しい精神の持ち主快男子先生は、ど素人の質問にも優しく丁寧に説明して下さり、申し訳ないやらハラハラドキドキと楽しく学ばせていただきました。貴重なお時間をありがとうございました。改めておめでとうございます。

(柏原町出身)



東日本大震災10年目の今

八木 信 行 (板橋区)



2011年3月11日、東京都文京区の大学内で私は会議をしていました。東日本大地震の揺れは、当初は小さかったものの徐々に大きくなり、時間も長く続きました。揺れの後、会議は即中止し、学内の被害状況を確認しました。パソコンが机から落下するなどの物損はありましたが、人的な被害はありませんでした。当日は交通機関がストップしており、夜は13キロ離れた目黒区の自宅まで徒歩で帰らざるを得ませんでした。グーグルマップはない時代です。都内の道は、土地勘もなく歩く人であふれていました。「渋谷に出るには四谷を経由すると近道だ」とか、「津波が来るから大手町や日比谷は経由するな」などと見知らぬ人とも声を掛け合って歩きました。東北太平洋岸で未曾有の惨事になっていることは、当日深夜に帰

宅後、初めて知りました。

被災地に入ったのはそれから1ヶ月半後でした。三陸では船は陸に打ち上げられ、民家やスーパーマーケットはガレキとなり、道路だけは車を通すためにかろうじて片付けられている状況でした。日本酒の蔵元が津波で粉砕され、周囲には日本酒の匂いが漂っていました。破壊された防潮堤のコンクリートに小さなボードが立てかけられ、伝言などが記されていました。周囲に人気はなく、その情報を見る人はいませんでした。岩手県沿岸の大槌には東京大学の研究所が、また越喜来には北里大学があります。その関係者と協力して私は地域の復興に力を入れるようになりました。数日間現地を調査し、その後東京に戻り、学内の関係者や、日本水産学会、さらには日本学術会議などを交えて復興の方策などを相談しました。

2011年当初、復興の議論は、漁船や漁港インフラの復旧、海底のガレキ撤去など、主としてハードウェアが中心でした。そしてそのハードウェアは、1年程度の短期で相当部分が復旧しました。しかしハードウェアは回復したにもかかわらずソフトウェアが回

復しない点が徐々に分かってくるようになりました。つまり、漁船は新船建造などが進み、漁獲物の水揚げ施設や岸壁なども修復が急ピッチで進んだ一方で、水産業の水揚量や売上金額などはそれに呼応するスピードでは回復していません。

これは水産物を買うお客さんが戻ってきていないためです。例えば気仙沼でカツオの切り身をレトルト加工してスーパーに販売している加工場のケースでは、がんばって半年ほどで製造ラインを復旧させたにもかかわらずスーパーが製品を買ってくれないというので



す。福島第一原発事故の風評被害も少しあるかもしれませんが、大きな理由はスーパー側の都合でした。スーパーは基本的に店頭での欠品を避けるよう行動します。このため震災後すぐに九州の力ツオ陸揚港に買い付けに行き、気仙沼産と同じ製

品を作るように頼んだといっています。九州側では専用の加工機械を導入すれば同じ製品は作れるが、新しい設備投資をするからには長期契約にしてほしいと申し入れ、それをスーパ―が受け入れたとのことでした。このため気仙沼が素早く復興しても、スーパ―は九州の水産加工場と長期契約しているため気仙沼産のカツオが入り込む余地はない、との構図でした。

福島県では更に厳しい状況になりました。原発事故直後の2011年3月15日に漁業操業の休止決定をし、1年以上の休漁の後、2012年6月に試験操業をスタートさせました。試験操業とは、漁獲対象魚種を限定し、漁船数や操業日数を制限した上で、福島産水産物であると表示を徹底させて販売することなどを条件に実施する形式の操業です。並行して福島県庁などは福島県海域で採集した水産物の放射性セシウムの測定を続け、その結果1kgあたり100ベクレルを超える水産物の割合は2011～13年にかけて右肩下がりであり、減少し、2014年以降はほぼゼロに近い水準で推移している点が確認されました。これは県庁のホームページなどで公表されています。

つまり2021年現在では福島でも漁船や水揚げ施設などのハード面は回復し、更に放射線セシウムの値も海産水産物では震災前の状況に戻ったといえます。しかしソフト面、特にお客さんが戻ってこないため、現在でも福島県の水産業は極めて限定的な復興に留まっています。そもそも震災前から、日本では水産物の消費量は右肩下がりであり、代わりに肉の消費が伸びている状況があります。全国で水産物の消費が減少し水産物がだぶつき傾向にあり、実際に水産物輸入量でさえも近年は減少傾向にあります。その中で、福島県産の水産物を積極的に買い付ける理由はない、との意見も市場関係者から聞かれます。

被災当初は10年も経てば何とかなるのではないかと、との甘い見通しもありましたが、農業や水産業ではお客さんの方が食の西洋化などで嗜好が多様化し、更にはスーパ―などの都合もからみ、回復が遅れている側面も見取れます。復興はまだ途上段階にあるといえます。また新しいアイデアが必要になっている点で、難しさも増しているといえるでしょう。

(氷上町出身、柏原高校から東京大学に進学。卒業後は

農林水産省で行政官として働いた後、大学に戻り、2008年特任准教授、2011年准教授、2017年教授、現在に至る。専門は環境調和農学、水産学。国連食糧農業機関における世界農業遺産委員会メンバー、日本学術会議連携会員、日本水産学会理事なども務める)

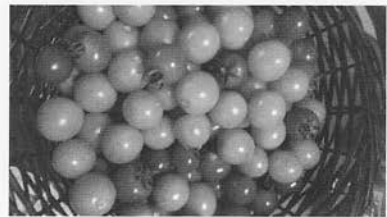
夏野菜の元氣吸収大作戦

大畑 時子 (旧姓芦田・八千代市)

コロナ禍で毎日の生活は制約の多い大変な日々です。私は、週2回の卓球クラブの集まり(近所の同年代十人程)と、我が家の庭で夏野菜の胡瓜・トマト・ゴーヤを育てています。

卓球では体を鍛え、成長する野菜をながめては新しい発見をしたり、野菜へのいとおしさを感じたりしています。

隣人の細やかな心配りで、まず初めに、植え付けの約二週間前の四月初旬には、土を耕し、柔らかくして



堆肥、苦土石灰、油かす、化成肥料を入れて混ぜ込み、水をかけた後黒いビニールで覆い、土地の養生をしました。

次に、四月下旬には胡瓜・トマトの苗を買って、有機肥料を土に混ぜて苗を植えこみ、藁を敷き、黒いビニールをかけました。

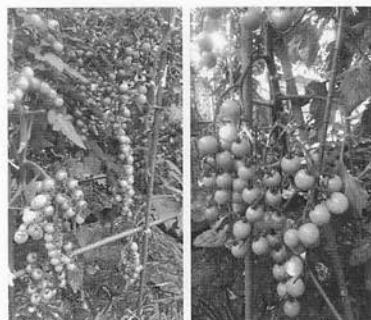
五月の初めには少し風が出て来たので苗木の保護の為、苗一本ずつ行灯のようにビニールで囲いを作って風の対策をしました。

そして、大きくなる前に支柱を立てネットを張り、蔓をはわせて安定させます。

その後可愛い花が咲き、花後には小さい胡瓜が姿をあらわし、一日一日成長していく様子がうれしくて、胡瓜に話しかけながら水遣りをしました。

少し遅れてトマトも黄色い小さな花を沢山つけて、その後に実がなります。

胡瓜は十八節まで葉が繁ると頭を止めて横に脇芽をのぼして枝の形を作ります。



トマトは下から三本目まで芽かきをして根元の風通しをよくします。

胡瓜もトマトもすくすくと立派に育ち、家の前を通る人が庭をのぞいて関心を示される様子を見て、隣人の手厚い指導に感謝する毎日です。

五月の末あたりからは胡瓜が取れ始めました。イボイボの表面が痛い位の身のしまった濃いグリーン胡瓜が二本の蔓から食べきれない程獲れました。

トマトも紅色と黄色の二本の苗が元気に育ち、苗の保護の支えにしっかりと固定して、重い位にたわわにぶら下がり、暑い太陽を浴びて元気に大きくなりました。

「今日もいただきます。ありがとうございます」と声をかけてもぎ取り、おいしくいただいています。

例年なら近くに住む娘の家族が喜んでもぎ取りに来るのですが、今年はコロナのせいで皆と収穫ができませんでした。知

り合いにおすそ分けしましたが、それでも食べきれなくて、大きくなりすぎて棄てるものまで出てしまいました。

年を重ねて外に出歩く楽しみは減りましたが、毎朝南の部屋の雨戸を開けて目の前の胡瓜とトマトの元気な様子を見るのが殊の外大事な楽しみで、家の周りにも元気に楽しめる場所がありうれしいです。

そんなわけで、野菜作りと卓球の仲間とのかかわりは楽しい毎日がおくれていて幸せです。

特に、野菜作りの大変さと楽しみは自身の体験を通して感じていきます。

土作り、幼苗の保護、枝ぶりの誘導、追肥の必要、病気の手当て等、自然と対話しながら、また、胡瓜が枝のどこにできるのか？ いろいろな枝の切り落としは？ トマトの葉の繁り方とか、太陽の光を上手に充てる工夫は？ 等、それなりに頭を使って考えることは多いのですが、いろいろ学びながらも教えてもらって納得できる幸せはありがたいものです。

これからの認知症予防にも役立てていきますように願っています。

東京近郊の小さな庭の畑ですが、それなりに豊かな自然を楽しんで生活しています。

夏野菜が終わるとしばらくしたらホーレン草や小松菜・春菊など葉もの野菜も頑張ろうかな……。

野菜作りのテキストのような文章になってしまいました。

元気なばーばーの　ひとりごとです。

まずは健康あつての毎日です。

どうぞ皆様も健康で愉快な毎日をお過ごし下さい。

(氷上町出身、77歳)

私の履歴書

仲　　一　　聡　　(仙台市)

その一

昭和15年1月　東京都中野区本町通

五丁目で生れました。

昭和17年1月　弟・Tが生まれました。昭和18年4月、3年保育で中野区の宝仙寺幼稚園に通っていました。

昭和19年の冬、東京から和田村に疎開、夜行列車に乗り名古屋駅で乗り換え、兵隊さんからカンパンをもらい、大阪駅着。福知山線・谷川駅で下車、駅前の万年楼で休憩、歩いて和田村へ向かいました。途中の山崎橋の上で、郵便局のTさんの自転車に乗せてもらい独り和田のUさんの家に着きました。Uさん宅は、お隣で、引越荷物が着くまで厄介になりました。

昭和20年8月15日・晴れ　12時頃、艦載機が一機、城山から機銃掃射、ダンダンと討って終わった。死者なし。終戦。

その二

昭和22年2月　弟・Yが生まれました。

和田小学校　5年生の時、学校の廊下から用務員室を書いた絵が、大阪府文具展で賞を頂き、有田先生(谷村)に連れられ大阪のデパートに見に行きました。母が美容師になるため大阪にいたため会えた。Fさん宅(角屋)に兄弟3名、3カ月寄宿。

和田中学校　出来たばかりの木造校舎は気持ちが良い



かった。軟式テニスを楽しんだ。日曜日の夜は小学校の体育館で柔道と剣道を弟のTと楽しんだ。

柏原高校 1年生（担任…安部先生） テニス部に入るが硬式ラケットが買えない為やめた。

2年生（担任…家島哲次先生） 弁論大会に出て4位になる。バレー部のマネージャーになったが夏の篠山遠征の先輩の旅費の処理が分からず弁償してやめた。

3年生（担任…荒木大三先生） 弟・Tが1年の12月に東京の都立高等学校に転校、私は腎臓病にかかり1ヶ月休学、2月に上京、卒業式は欠席、卒業証書は貰えず。

上京、受験、浪人1年、W大入学、昭和37年結核で休学、親父の伝で結核予防会・清瀬療養所（結核予防会結核研究所付属療養所・塩澤正俊所長）に8カ月入所。ここで入院仲間の彼女と出会い8年後就職と同時に結婚。

昭和38年復学、昭和39年卒業、同年大学院修士課程に進み、昭和41年修士課程修了（指導教授…堀家文吉郎教授 財政金融論）。

弟・TはK大、昭和43年卒、日本冷蔵、ビジネスインターナショナル社へて独立 インダストリーフォークス社

その三

秋田県知事小畑勇二郎氏が元首相田中角栄氏の日本列島改造論で秋田湾岸地区開発を進め、向浜地区工業団地に企業誘致。計画は昭和40年に始まった。昭和42年に天塩川製紙（日本通運、三井物産）、全国購買組合連合会 東北パルプ等が段ボール原紙生産で動きだした。日通事件、三興製紙の進出、紆余曲折の結果、秋田県の誘致企業、東北製紙（株）は昭和45年3月16日に創立した。

東北製紙株式会社

本店 東京都千代田区神田淡路町2丁目7番地

工場 秋田県秋田市新屋町字砂奴寄1番地 敷地面積 660000㎡

設立 昭和45年3月18日

株主 三井物産（株）、高崎製紙（株）、全国購買組合連合会（レンゴ）、十条製紙（株）等

資本金 20億円



出資比率 三井物産 42・5%
 高崎製紙 40% 全購連 5%
 十条製紙 5%等
 生産量 クラフトライナー 2
 30000t/y (1989年)
 (写真参照)

例えば、昭和41年、親父の仲一夫(全国購買組合連合会Ⅱ現全農)から、かつての上司吉田正氏(元全購連の常務理事、元衆議議員 長野県第4区選出当選2回 元協同乳業(株)会長)を紹介された。

吉田先生から天塩川製紙(株)の元専務・中村信氏を紹介され、支えるようになる。織井齊元全購連常務理事、笠原大二元全購連常務理事、元全農直販社長、落合幸文元全購連監事、元共済連専務理事(私の東北製紙への身元引受人)いろいろな方の力添えにより、東北製紙を創る手伝いが出来たと
 思います。

東北製紙(株)に昭和45年4月1日に採用され、平成

7年1月31日まで働いた。平成7年2月1日から三井物産の関係会社 共同ゴールドパッケージング(株)で平成9年6月まで働き、平成9年6月、岩手県一関市の日本製紙の関係会社 北上製紙(株)で段ボール原紙、新聞紙の製造。一貫して販売部門で働き、平成13年6月で退職。32年2ヶ月でした。

その四

これから、仲家とは何者ぞ？

九州・福岡県三井郡大刀洗町山隈の旧本籍を訪ねて20年間仙台―丹波―山隈を訪ねました。

仲家の墓は8畝、墓石は94基、前面に蔵魂神社・奥宮(地番：春園)合わせて1反。蔵魂神社には、別名：ムラさん神社と呼ばれているので大蔵村主が祀られている。50m東に、老松神宮があり、菅原善主(菅原道真の伯父・遣唐使)が祀られている。家紋は梅、仲家の家紋は梅鉢。前面の鳥居には官庄 仲喜左衛門宗利の名が刻んである。

仲家には、家系図がありません。これからは古田武彦氏の「古代は輝いていた」P265、大刀洗町史P107、108、太田亮氏の姓氏名家系大辞典の仲、高



橋、大蔵各項を参考にします。これは663年朝鮮・白村江の海戦で倭国（筑紫国⇨海人族⇨天族）と百済の連合軍が唐と新羅の連合軍と戦い4戦4敗で敗れた。勝った唐と新羅の連合軍が当時の九州・倭国（筑紫）を中心に合計12000人の軍隊を送り込んでいます。菅原家がかつての王族の長であろう。唐の將軍・劉仁願——劉建——大蔵——高橋——仲

劉建は坂上、大蔵、内蔵の三人の子を儲けています。大蔵系高橋の自家筋は男子無く、豊前の大友家（新羅

系？）の一人を受け入れた。仲家は分家である。大刀洗の仲家の墓所から西1800mの所に下高橋官衙遺跡があります。東西150m、南北175m 正倉院です。蔵13棟、屋4棟が建っていました。その東側に郡（評？）庁、曹司院が建つてい

ました。（写真参照）

今年もコロナウイルスのワクチンの効果を見て、福岡県三井郡北野の西方寺を訪ねてみたいと思います。

（81歳 山南町和田出身 2021年3月21日）

キヨウイクとキヨウヨウ

近藤 利 春（厚木市）



「定年後はキヨウイクとキヨウヨウが大事です。」、シニア向けセミナーの冒頭で、講師の話がある。それは「今日行く所と今日の用事でず。」という。昨年、私は退職した。サンデー毎日ではよくならないらしい。定年でもう一つ、永六輔さんの「これからは楽しいことしかしません。」を思い出す。しかし、楽しいことが即答できない。ゴルフはやらな

い。旅行も、観光地巡りなど長続きしそうにない。学
び直しも学ぶだけに意欲がわかない。絵を描くのは好
きだが、教室や展覧会などには興味がない。これは会
社勤めより難しそうだ。

振り返ればいろいろあった。丹波の農家に生まれ、
兄が家を継いでくれている。学生時代、理系を選択し
たものの、何をするかはこれからだった。ところが、
大学卒業はオイルショックの年。面接までいったM社
に落ち、学生指導室の会社案内に片っ端から目を通し
た。

何とか条件の合う京都の会社に三年お世話になる。
同期が辞めていく中、新聞の公募で東京の家電メー
カーソニー株式会社に中途採用された。当時、私に
とって関ヶ原を越えると未知の世界。「いつか関西へ
戻るか」、郷愁の思いもあった。学生の頃から、社会
人経験をもとに教師の道もあると考えていた。三十を
前に、三回教員試験を受け、補欠合格をいただいた。
部長に呼ばれ「仕事を続けてくれないか。」と、「君が
どうしても教師になりたいなら応援する。」と言われ
る。悩んだ末に採用通知に委ねることにした。結局、



ドバイで豪州エンジニアと私 (右)

通知はこな
かった。

吹っ切れた
のか仕事に没
頭する。プロ



私とスティービーで発表品新製 (右端)

用のオーディオ時代には、
スティービーワンダーの
自宅スタジオに開発した
デジタルレコーダーを設
置した。邸宅でボディビ
ルダの様なガードマンに
出迎えられ、薄暗いスタ
ジオへ案内される。作業
していると、スティー
ビーが女性と現れ、身体を揺らしながらキーボードを
弾く。瞬間、カメラに手をかけたが、シャッターは思
いとどまった。初めての海外出張で、一人で六カ国を
まわるという大仕事の最初的一幕である。

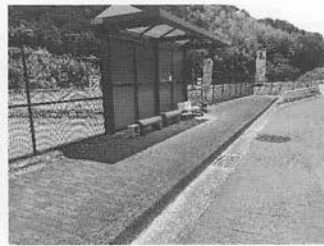
放送システム時代には、ドーハのアルジャジーラ局
に入札した。資料を作りながらドバイから広大なドー

八空港へ飛び、ホテルでは礼拝音楽の流れる中、チームとプレゼン準備をする。局内はカメラ持込禁止。アールジャジーラはその頃、テロのニュースで注目を浴びており、終わってタクシーに乗り、ようやく息をついた。

貴重な経験をさせてもらったソニー株式会社には、再雇用の定年までお世話になり昨年退職した。さて……キョウイクとキョウヨウに戻らないといけない。定年を前にして、たまたま手にした書籍の著者が、いい顔をされていた。紐解くと、かつての広島暴走族の話がある。当時その地域の人は、土曜の夜から日曜の朝まで眠れない。暴走族と機動隊の追跡が何年も続く。その暴走族がトイレ掃除で変わっていった。警察、学校、地域の人々が長年解決できなかった暴走族が無くなる。さらに、道を外れた若者が正業に就いた。また、新宿歌舞伎町の街頭清掃では、ゴミ拾いから、店のお兄さんが見入る中、側溝のグレーチングの中まで徹底掃除していく。辺りの空気が透き通ってくる。掃除をはじめてから、新宿の犯罪件数が半減したという。これはただごとではない。



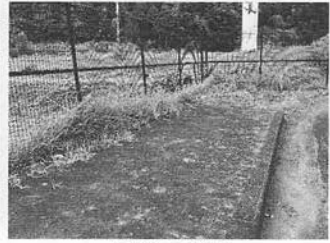
最近のバス停



地域のバス停

様子を見てみたくなり、掃除に学ぶ会の「羽田街道おもてなし清掃」に参加する。ベテランから若者まで、真摯に掃除に取り組まれている。「ゴミの多い羽田街道を掃除して、海外からのオリンピック来訪者を迎えよう。」と、志は高い。掃除のあと感想を話し合い、

拍手がおきる。みんな温かい。「ゴミを拾って掃除する。」これなら自分も出来るのではないかと思った。タバコの吸い殻を拾うことから始めた。場所を地元のバス停に定め、毎週掃除することにする。しかし、「人の足元のゴミが拾えるか。」……一番のハードルは他人の眼を気にする自分にあった。なるべく人の居ない時間に掃除をしていた。書籍の著者は「誰もみちゃいないですよ。」と



ちがやの群生



ちがや草取り

あっさり言われる。「吸い殻一つでも拾えば、そこを通る仮に百人が気持ち良く通れる。そして、吸い殻が川から海へと流れ、廃プラになるのを防げる。」と聞き、続けている。初めは気が重いとときもあるが、掃除をするとなぜかすつきりする。

もう一つハードルがあった。それは春から夏にかけて出てくる雑草だ。根が固く、草取りは一度に数十センチしか進まない。しかも

半年かけて一通り取り去ったものの、数ヶ月でまた出てくる。調べてみると「ちがや」だ。強い生命力があり硬い土に根を張り生育する。河の堤防強化に利用されているという。地下茎が残っていると再生してくるそう。気をとりなおし、最初から地下茎を掘り出し

ていく。また数十センチずつ。今年ようやく、届く所は取り去り春を迎える。改めてバス停を眺めてみると清々しい姿になっている。

思わぬ出会いもある。おばあちゃんが近寄り、話しかけてきた。バス停は散歩コースだそう。身より話からはじまり、「散歩しながら、少しずつ綺麗になっていくバス停を見るのが楽しみ。」と言われた。また、バスから降りてきた近所のおじさんは、私の住まいを聞いてお礼の言葉をかけてくれた。やはり、喜んでいただけると嬉しい。気がついたら、バス停掃除は小さな楽しみとなつている。キョウイクとキョウヨウの二つがみつかったのかもしれない。いつまで続くかわからない。とにかく続けてみようと思う。気楽に、一つずつ。

（春日町出身、柏原高校昭和47年卒、姫路工業大卒、令和2年ソニー株式会社退職）

南房総をめぐる神話伝説

足立悦雄（千葉市）



「君去らず 袖しが浦の立つ波に
その面影を 見るぞ悲しき」

景行天皇御代、九州熊襲を平定した日本武尊（ヤマトタケルノミコト）は、休む間もなく東征を命じられた。相模原焼津での火責めには草薙剣で乗り切ったが、三浦半島から房総上総国への走水の海（現浦賀水道）を渡る時、海神の怒りをかい海が荒れて渡ることが出来なかったが、同行していた弟橘姫（オトタチバナヒメ）は荒れる海に身を投げて海神を鎮め、日本武尊は無事に上総国へ渡ることができた。冒頭の和歌は日本武尊が上総の地を去り難く弟橘姫を偲んで詠ったものである。

終の棲家千葉に引越して早や十年が経った。この間、関東の観光地をはじめ東北、北海道などへ出かけ

様々な土地を訪ねたが、昨年はコロナ禍で遠方への旅を控えざるを得ず、専ら地元の近場を訪ねた。

以前訪ねた時にはあまり気にしていなかった神話伝説だったが、ロマン溢れる物語に何故か魅かれるようになり、伝説に関係する場所や神社を再び訪ねてみた。



走水神社から浦賀水道を臨む



三浦半島の走水神社

三浦半島の横須賀市走水には、日本武尊と弟橘姫を乗せた船が上総に向けて出奔した港として走水神社が鎮座し二人を祭祀している。

現在この神社からは浦賀水道を眼下に、東京湾を往來する大型貨物船が引つ切り無しに航行しているのが臨まれ、神社周辺は静かで大変風光明媚な場所である。

上総国の金谷に着いた日本武尊は、弟橘姫を



木更津市の八劔八幡神社

忘れ難く暫く上総国に逗留し、その宿舎とした場所が現在木更津市にある八劔八幡神社で、源頼朝が戦勝祈願した神社でもあり、頼朝御手植えの樹齢八百年以上の蘇鉄の大木が存在する。

また、大坂冬の陣で徳川方に味方したこの地の船頭たちに感謝して、家康が寄進した銅製の鳳凰「胴鳥」はこの神社の社宝である。また、家康はこの木更津の人たちに江戸日本橋に木更津河岸の設置を許し、江戸と上総の渡船権利を与える等、様々な権利を与えている。尚、関東三大新神輿（深川富岡八幡宮と浅草鳥越神社）と言われている大神輿も所蔵されており大変由緒ある立派な神社である。

話を戻せば、身を投げた弟橘姫の櫛が流れ着いた富津市の岩瀬海岸には、弟橘姫の石像が建立されており、岩瀬海岸を臨める小高い場所には姫を祭神とした吾妻神社が建立されている。



岩瀬海岸の弟橘姫



二宮町の吾妻神社

吾妻神社は南房総の多くの町にもたくさん鎮座しているが、小田原市の隣二宮

町にも鎮座している。この神社は、東征を終えた日本武尊が大和への帰途小高い丘から相模湾を臨み、「吾妻はやー！」（我が妻よ！）と叫び、弟橘姫を偲んだ場所であり、その山を吾妻山と名付け吾妻神社を建立した。現在は「吾妻山公園」として多くの人に親しまれ

ており、眼下には相模湾を一望し、西には霊峰富士山を眺望できる素晴らしい場所である。地元では弟橘姫の櫛が相模湾の浜に流れ着いた場所として、景行天皇が神社を建立したとしている。弟橘姫が入水した場所は浦賀水道なので、古事記、日本書紀では千葉の漁村



二宮町吾妻山から望む霊峰富士山

に流れ着いたと記しているが、地元二宮町の伝説では櫛も袖も相模湾の各漁村に流れ着いたとして袖ヶ浦という地名が相模湾にはいくつもあるとのことである。

その他にも、千葉上総の木更津、君津、袖ヶ浦、富津などの地名由来もこの伝説と関係があり、例えば富津は布留（袖のこと）が漂った津という意味の布留津がもとになったとされ、木更津は冒頭の和歌の「君去らず」から「君去津」となり、木更津になったとされ、君津も同様「君去らず」から、また袖ヶ浦も弟橘姫の袖が漂っていた海ということから名付けられたとされて

いるが、東京湾にも袖ヶ浦の地名はあちらこちらにあるようで、この伝説が広く親しまれているのが分かる。

その後、日本武尊は関東を平定して帰路に就くが、滋賀県の伊吹山の山神に崇られて伊勢の能褒野で死去した。そのとき詠んだのが

次の和歌である。

「倭は国の真秀ろば たたなずく青垣山籠もれる 倭しうるわし」

この時、日本武尊の魂は白鳥となって飛び立ち、倭・河内に降り立ったので、その場所に日本武尊の陵を造って祀った。また、その白鳥は弟橘姫を偲び上総国鹿野山九十九谷まで飛翔したという。現在この場所には白鳥神社が鎮座して日本武尊と弟橘姫を祭祀している。九十九谷は今なお美しい山々の稜線が連なる正しく「たたなずく青垣」を呈しており、日本武尊



鹿野山九十九谷からの眺望

の故郷「倭」を模している。

因みに、日本画家巨匠東山魁夷が昭和二十一年に発表した出世作「残照」は、この地の神野寺に籠もり九十九谷の美しい山々を描いたものである。以前はこの神社からこの九十九谷の山々を眺望できたと思われるが、現在は神社の周りを

ゴルフ場が囲んでおり神社からは直接観ることができない。二十数年前にこの地でプレイしたことがあるが、この時にはこの山々や神社の存在すら知らなかった。

美しい山々を抱える我が故郷丹波市青垣町もひよっとしてこの和歌の「青垣」を拝借して名付けたのではないだろうか。

日本武尊は実在の人物ではないが、多くの日本人に大変人気のあるヒーローで、各地に日本武尊のロマン溢れる伝説と多くの祭祀された神社がある。

これからもいろいろな場所を訪れて古代ロマンを追い求めていきたいと思っている。

(青垣町出身 77歳)



撮影・岡田昌子

我が家のツバメたち

関 多加子 (長野県諏訪市)

毎年春先になると、ツバメがやって来ます。



ご近所にもたくさんさんのつばめのカップルたちが、毎年巣を作る場所

にやって来ます。

我が家にもいつものようにやって来しました。

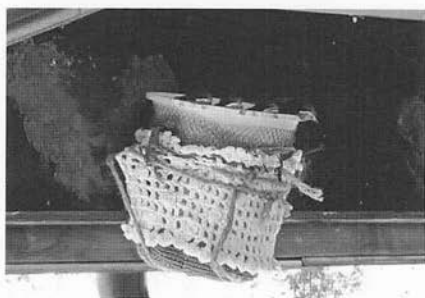
賑やかな話し声が、一日中聞こえてきます。

今年は、初めにカップルらしきツバメが2羽でやってきました。

「今年も巣作りを始めるかなあ」と思っていました。

ところが、雌のツバメがどこかに行ってしまった。他の雄がやってきて、横取りされてしまったようです。

さあ大変です。我が家の雄は、必死で朝から夕方まで喉が枯れるのではないかと思うほど泣き続けていま



す。まるで、「おーい。どこいちゃったの。早く帰ってきてえ。」と叫び続けているようです。

2〜3週間たった頃によそへ行った雌なのか、新たな雌なのかがやって来ました。

「よかったね。」

やっと巣作りが始まりました。

今年は卵を5個産んだようです。ひなが孵つて親も忙しくなってきました。

ところが、またまた大事件。雛が入った巣が屋根の上に落ちてしまいました。

「お姉ちゃん。巣がないよー。落ちてるよー。」

娘が飛んできました。ベランダの柵を乗り越え屋根の上を歩いて巣の落ちていた所まで行きました。

「大丈夫。雛はまだ生きてるよ。下の方になつているのがつぶされてないとい

いけど。」

そう言うと娘は、すたすたと屋根を歩きベランダの柵を乗り越え、庭までひとつ走り。

植木の鉢に枯れ草を詰めて大急ぎで戻ってきました。またまたベランダの柵をひよいと乗り越え、雛たちの元へ行くと落ちて壊れた巣をその鉢の中へとそおーつと入れ、元の場所に取り付けようとなりました。が、くつつけるものがありません。どうしようか？それで私が作った手提げ袋の中にその鉢を入れもともとあった壁の釘に括り付け何とか止めることができました。

問題は、人間が触つたものを親ツバメが受け入れてくれるかです。（本当は自然界の出来事に人間が手を貸してはいけないのかもしれませんが）

訝しげに巣の傍に来た親も、必死で鳴く子ツバメの声に餌をあげ始めました。

「よかったね。」子どもの為に本来なら近づくこともないだろう壁を乗り越え、ご飯を運び続ける親ツバメの姿に、娘と二人で「親の鏡だね」と子を思う親の愛情に感動しました。

それから、子ツバメたちは、5羽全てが巣立ちをし
て、大空を舞っています。

巣立ち始めの頃は、夕方になると帰ってきて、巢に
は戻りませんが、軒先に泊まって夜を過ごし、朝には、
また大空へと飛んでいきます。

「お帰り。今日はどこに行ってきたの？自分で餌も
穫れるようになった？」

「行つてらっしゃい。元気でまた戻つておいでよ。」

黄色の嘴が親と同じような色に変わつて、今はもう
戻つて来ません。

「元気にしているかな」「また来年いらつしやいね。」

コロナで心沈む今日この頃ですが、ツバメたちとの
語らいの中で、楽しく、忙しく過ごす毎日です。

今軒先には、2回目の巣作りが始まり、卵を温めて
いるようです。

旅立ちに間に合うのかを心配している昨今です。

なにせ他のツバメたちより、2〜3週間遅れの子育
てですから。

（市島町出身、高校卒業後学生時代を含め21年間東京に

拠点を置き、その後、夫の実家長野県諏訪市に。現在は
家業の農業と地域中学校のボランティア・コーディネー
ターをしています。現在家族は、夫、娘、二人の息子と
長男のパートナーです。）

セ・ラ・ヴィ！

田中正邦（渋谷区在住）



前回といつても、もういつのこと
だったか思い出せもないが、前回
の投稿ではパリでのホームステイ先
の「おじさん」のことを書いた。今

回はその続編というか結末めいたことを書いてみよう
と思う。人の人生には色んな転機があると思うが、私
にとつては1976年から1978年にかけてのフラ
ンス留学、そしてホームステイ先での生活体験がそれ
である。この時期のフランスとの関わりが私自身のそ
の後の人生のみならず家族それぞれの人生の方向性を



オーカッサンとニコレット (1992年)

決めてしまったかのようだ。

私がある後フランス語教師となり今現在も子供のような大学生、特に1年生たちと向き合っていることは当然の帰結なのかもしれない。教師生活の仕上げの段階でもっぱらオンライン授業のみというのは味気なくもあるが仕方のないことだ。Zoomの画面に映る自分の老いた顔、学生たちが課題提出にあたって、翻訳アプリを使っているのではないかと疑心暗鬼になっている自分の心も醜くなっている。

1978年に帰国後も私は「モラトリウム」的生活を続け大学院の修士課程・博士課程をのらりくらりとやり過ごし、1989年に遂にとうるかやと憧れの「フランス政府給費留学生」となり二度目の留学生活に踏み

出した。もう36歳、留学生という呼称が全くふざわしくなかった。妻と二人の子供もいた。留学先はトゥール、パリからTGVで1時間ほどのフランスの眠ったような地方都市。研究はそっちのけで、二人の子供の一日二度の学校への送り迎え。まだ一言もフランス語がしゃべれず慣れない幼稚園へ行くのを嫌がる長男を力づくで連れて行ったりと、あつという間の二年半だったが、家族が得たものは計り知れなかった。

妻は早速、語学学校に通い始め、帰国するころにはトゥール大学に在籍していた。長女は渡仏時においては小学2年だったが、フランス語が全く話せず小1からのスタートとなった。フランスは日本よりも就学年齢が早く、赤ちゃんみみたいな5歳になるかならないかの小1生とクラスメートになって面食らっていたが、カトリックの尼僧だった校長先生から校長室でマンツーマンの語学特訓を受け、帰国時には年齢に見合ったクラスに入っていた。長男は幼稚園の年少組から年長組までを体験したが、朝方から夕刻までフランス人に囲まれていたこともあり、日本に帰る頃には子供同士でのコミュニケーションは出来るようになっていた。



ホーム先のシャトーで (2007年)

年度末の学芸会ではフランス中世の歌物語『オーカッサンとニコレット』に出演するまでになつていった。

一方、私自身の研究生活はありきたりのものでしかなかつた。博士予備論文は何とか通つたが、博

士論文の執筆というと先が見通せない状態だつた。今となつてはもう少し辛抱強くフランスで頑張つていれよと思うこともあるが、そんな時、指導教授から非常勤講師のポストがあるとの連絡を受け、渡りに船とばかりに日本に帰つてきてしまった。1992年のことである。

小学・中学・高校と子供が成長していくさなかの家庭は、あわただしいもので時の流れが加速していく。受験・入学・卒業の連続だ。私たちもその例にもれな

かつた。そして妻までもがそうしたサイクルに加わつていた。帰国後、大学院に進学した。妻の勉強する姿は子供達には良いお手本になったようである。親の背を見て子は育つ、と。妻は今では私の同業者であり大学でフランス語を教えている。

長女、長男とも帰国後もフランス語学習を細々と続けてはいたが、以前のレベルには戻れなかつた。環境が変われば、忘れるのも早いということだ。しかし、子供の頃に獲得した正確な発音、リスニング能力は大学で再開したフランス語学習では大いに役立った。長女は大学2年次末での学科選択で仏文科を選んだ。私は英文科の方を一応勧めてはいたのだが。理由を聞いたら、小さい頃フランスにいたし、お父さんもお母さんともフランス語の仕事をしているからというものだった。今から思うと賢明な判断だったと言える。長女はその後ジュネーヴ大学そしてストラスブール大学に「フランス政府給費留学生」として留学し、博士号を取得した。フランスでの公開論文審査の時は小さい頃のピアノの発表会の時と同じくらいドキドキした。今では都内の私立大学で教鞭をとっている。ストラス

プール生まれの配偶者は別の大学でフランス語を教えている。長男は法学部に進み非難されることの多い官僚の道を選んだ。入省後しばらくして省内の奨学金を得て、歴代大統領を輩出している「国立行政学院」(ENA)をフランス語で受験し、2年間の留学生活を送った。現在はパリの日本大使館で一等書記官として任に当たっている。

その後の私そして私の家族とフランスとの関わりがこれで説明できただろうか。楽しみ尽きて哀しみ来る……。あれほど私を慈しんでくれたホームステイ先のムッシュもマダムも亡くなってしまった。これが人生なのかもしれない。 C'est la vie!

(昭和28年生・氷上町出身)



撮影・岡田昌子

丹波で育った私と水泳

竹安 正伸 (練馬区)



私と水泳との出会いは、ふるさと丹波での少年期の川遊びでした。川遊び(水泳)の場所は、JR下滝駅から徒歩7分、篠山川の流れる上久下橋の下。上久下橋は、当時も今も変わりなく、上久下小学校の校門の手前に架かっています。昭和36年8月19日(小学5年生の時)上久下橋ピアー(橋脚)で、近所の3人の子供と一緒に、夏休みに泳いだ時が、この写真です。

夏になると学級の体育授業としての水泳、当時はプールなどの施設は、未だありませんでしたので、学前のこの橋の下で泳いでいました。(卒業して数年後小学校にもプールが出来た)また、出身の青田部落の夏休みの水泳も同じだったこともあり、篠山川の上久下橋の下で水泳に明け暮れ、真っ黒に日焼けした肌



上久下橋下のピアにて (小学5年生)

スリル満点。急流での水泳は水流の抵抗などそれなりに難しいところもありそれが上達に繋がりました。古くから桜の名所の川代溪谷、近年(2006年)丹波で初めてテイタノサウルス系化石が発掘された上滝の恐竜の里公園(発掘のニュースで知った時は「あー、昔、泳いでいた所か、なる程、あの岩場なら考えられる」とすぐに思いました)JRR下滝駅近くの隠れた観光スポット「つり橋」の下。そして出身青田の神楽舞いのある大歳神社付近に流れる川。疲れ知らずで泳いだ時期で、まさに、通り過ぎていく毎日が新しいあの

で楽しく遊泳した日々が今も懐かしく想い出されます。その後、私の中高時代は、魚取り目的も加わり橋から泳ぐ範囲は広がりました。上久下地区を流れる篠山川の上流は川幅が狭く、水位が深く岩場の急流が多く、潜りには



上久下橋で泳いでいる風景(昭和36・8・19)

雄大な荒波の中数キロを悠々と完泳した事はその後自信になりました。

丹波を離れた近年、帰省すると上久下橋の上から見下ろし当時を偲ぶと四季折々の色んな情景が浮んでまいります。初夏6月頃には、ゲンジボタルの光が飛び交う夜景はとても幻想的でした。次に秋の紅葉も、清らかな川面に写る黄色に色づいた木の葉の瑞々しさ。反面、昭和34年(小学3年生)の伊勢湾台風の時、記録的な増水で、橋の中央付近まで、凄まじい濁流で生きた心地はしませんでした。そして多くの日常の朝、

頃でした。

一つ付け加えますと、柏原高校の時の水泳の想い出として、一年生の夏期恒例の行事である日本海の諸寄海岸ちろよせでの海水浴。印象的なのは、自信のある者のみ参加する「遠泳」というのがあり、日本海の

橋の上から見られる霧の湧く様な風情は丹波特有の情景として忘れ難い。

現在の私の水泳についてですが、本格的には東京に住み着いた45歳の頃から70歳過ぎた今日まで毎週1〜2回のペースでプール通い、かれこれ25年間のスイミング歴となりました。何でもあまり長続きしない自分としては何故こんなに長く水泳が続けられているのか？まず、第一は、水泳後の爽快感の魅力に取憑れ「また行こう」と思うこと。それに長続きの秘訣を一つご紹介しますと、同じプールだと飽きがかかるのであちこち違うプールへ行く事により気分転換を計ることが出来ます。

さらに、丹波の幼き頃の川遊びに近い水泳体験が「私と水泳の相性の良さ」も多分に影響していると思います。何と言っても、水泳を含む水中運動のメリットを真に実感しているからです。

敢えて、皆さまもご存知の事でしようが水中運動の3つのメリットについて述べさせて頂きます。水中の大きな特徴として①水の浮力②水圧③水の抵抗が挙げられます。

①水中運動は体を楽に動かせます。浮力で体が胸まで浸った状態で1/10程度となり、筋肉や関節への負担が軽くなり、腰や膝の痛みも軽減するため陸上よりも楽になります。

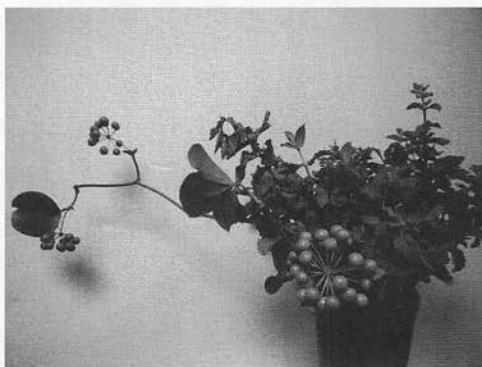
②心臓に負担がかかりにくい。水圧で心拍数や血圧が下がりが心臓に血液を戻す静脈の血行が良くなりむくみ解消や老廃物の除去に効果があります。

③陸上より運動量がアップ。水の抵抗を活用して運動の強弱が調整可能となります。同じ動作で単純に比較すると陸上よりも水中の方が800倍の抵抗を受けます。まず無理なく水中ウォーキングから始め短時間10〜20分でも効果があると言われております。水中での心地良さを感じるだけでも、日頃のストレス解消になると私はお勧めしたいです。

通常は、都内の公共施設プールを利用しております。ただ、このところのコロナ禍の影響で、プールも時短を余儀なくされております。以前は千駄ヶ谷にある東京体育館の室内プールをよく利用していました。このプールは昭和30〜40年代山中毅、田中聡子が世界新をマークした記念すべきプールとして有名です。50m

プールで水深が2 m以上あるため、途中止まることが出来なく、泳ぎ切る水泳力が必要なのです。これだけ深いプールは中々ありません。スイマーにとって、素晴らしく最高のプールだったので東京五輪で建て替えになってしまいました。現在は、専ら仕事帰りや休日に、1〜2時間スイミングと水中ウォークを続けています。具体的な目標としては、25 mプールで40往復、クロール中心に目安の距離は1 km、平均ストロークは21回となっております。若い頃はノンストップで30分前後のタイムを出し、70歳のこの頃でも45分程度でしょうか。流石に、その日の体調次第で途中休憩を入れたり、時には、早々に切り上げることもあります。が、あまり気にせず、スイミングが短かつたら水中ウォーキングを長くするなど工夫しております。要は現状維持が精一杯と思いつつも、70歳は単なる通過点であると考えて、サラッと気軽な気分です。通っている『今』を楽しみながらより長く水泳を続けることが、大切であると考えているからです。

(昭和25年生、山南町出身)



撮影・岡田昌子

私の職場

映画プロデューサー
じん やすゆき
神 康幸



WOWOWドラマ「コヨーテ、海へ」にベースリスト役で出演（左）、ドラマー役は堤幸彦監督

ページをめくるように シーンを積み重ねる

意気揚々と柏原駅から東京に向かったのは、45年前のことだ。大学進学祝いで、父親が大野洋品店に頼み込み作ってもらった、ブルーの一枚のスーツを着て汽車に乗り込んだことを、今でも憶えている。大好きな音楽や映画の仕事で国境を越えて仕事ができる人間になりたい……などと夢想していた。

しかし、上京早々にしたたかに打ちのめされた。丹波での存在感など大都会では全く通用しない。自分より遙に魅力的で知識が豊富な人間が山のようにいる。大学でもバイト先でも「関西弁が気持ち悪い」などと言われ落ち込んだ。無為無策のまま1年が過ぎた頃、ふとしたことで、毎日新聞が「日本の大学生をアメリカの大学に短期留学させる計画」を立ち上げたことを知った。これだ！と直感した。今のように誰もが海外に行ける時代ではなかった。だったから、自分が行こう。行って、アメリカを自分の目で見てみたい。

血洗い、日雇いの肉体労働、家庭教師、ウェイター、雑誌のライター、2年間でバイトを掛け持つて費用の数十万円をまかない、僕がアメリカに向かったのは1979年6月。ニューヨーク州立大学に3ヶ月留学した。スーツケースと白のガットギター。NYの街角で日本の歌を歌い、

めくるめく出会いがあった。そんな経験を武器にして就職戦線に臨み、大学卒業後、CBSソニー（現・ソニーミュージックエンタテインメント）に入社することとなった。

これが、僕の原因風景である。配属は出版部で、入社後は全国の書店営業。1ヶ月で革靴がボロボロになった。24歳の時に音楽雑誌「GB」の編集者へと異動。当時はオフコースやチューリップの全盛時でニューミュージック時代と呼ばれていた。そうこうしているうちに、フォーク&ロックにフィットしないアーティストが登場してくるようになった。副編集長と26歳の僕、新入社員の女性3名で「パチパチ」という新雑誌を創刊することになった。

副編集長は編集長に昇格し、部数維持のため、チェッカーズ、吉川晃司、尾崎豊の3アーティストを担当。「神くんは、誰でもいいから新しいタイプのミュージシャン取材して、



ネパールに撮影前のロケハンの旅で。シェルパのツンベ君と

ページ埋めて」と。今にして思えば、非常にいい加減な命令だが、これが僕の人生の方向を決定づけることになっていく。夜な夜なライブハウスに顔を出す。編集部に届いたデモテープを聴く。街角で歌っているバンドと会話する。まるでニューヨークに留学している時のようにエキサイティングだった。

そんな日々の中で、僕は、BOWWYや米米CLUB、レベッカなどと運命的に出会っていった。雑誌の特集を作り、単行本や写真集を作り、特にBOWWY写真集はベストセラー1位も獲得。20代という体力が有り余る時期とは言え、3つの音楽雑誌の副編集長を兼ね、会社のソファア

ために働いているのかわからなくなっていた。仕事は絶対調だったが、30代に入つてすぐの時期に次の道へ進もうと決めた。今にして思えば無謀極まりない判断である。

ありがたいことに、フリーになつた僕にはレコード会社から次々と仕事の依頼があつた。BOWWYからソロになった氷室京介、布袋寅泰。イエロー・モンキー、長渕剛、今井美樹、X JAPAN。特にLUNA SEAとそ

の弟分であるSIAM SHADEとは、僕が著者の単行本を出版し、ミュージックビデオをプロデュースするなど、90年代を疾走することになった。また様々な場面で出会ひがあり、後に有名な映画監督になる堤幸彦さんを始めとして信頼関係を結べたクリエイターたちと90年代半ばに「オフィスクレッシェンド」という会社を立ち上げることにした。

の仕事など自分に来るわけがないと思つていた。会社の仕事もほぼ音楽系の仕事がメインだった。当時の音楽業界はバブル。人気アーティストのCDは、ミリオン超えも珍しくなく数百万枚も売れる場合もあつた。当然、映像にも力が入る。1曲のビデオに数千万円の予算も付く時代に突入していた。僕たちが作つた映像も、凄い迫力を持つことになる。それを映画業界やドラマ業界のプロデューサーが見ていたのである。次々と話が舞い込んでくるようになった。僕の映画プロデューサー・デビューは2002年の「soundtrack」。僕の盟友であつたLUNA SEAのSUGI NOと若き柴咲コウ主演の映画である。脚本を作るということは初めての作業だったが、編集者としての体験が生きたと思う。本を読むように、ページをめくるようにシーンを積み重ねていけばいい。これは、今でも同じ感覚でやっている。主役のキャ

ステージが終われば、企画書を作って配給会社を口説く。口説いて得た予算に合わせてスタツフイングをして見積もり書の作成。ロケハンをして脚本を微調整して、後は撮影の無事を祈るのみ。

撮影の時など、プロデューサーは暇なもんだ。モニターは見ているものの、トラブルが起こった時に謝りに行くことぐらしか仕事がない。大変なのは、撮影後だ。どんな編集にするのか。どんな音楽をつけるのか。宣伝はどうする。ポスターはどうする。主題歌はどうする。関係者が多く議論百出で頭が爆発しそうになる。しかし、そこをまとめるのがプロデューサー。僕はそれをしつか



映画「ミラクルシネマ」のチラシ
2022年春公開予定の映画「ミラクルシネマ」のチラシ

りとやれているのだろうか？

そんなことを迷う暇なく、その後、次々と映画や連ドラをプロデュースしていくことになった。門外漢の暴走とも言える勢いで。数年前、ハタと気づいた。もうすぐ還暦じゃないか。僕たちがチャンスをもたらったように、今度は、僕たちが若い世代にチャンスを与えるべきなのではと。映像コンテストを立ち上げた。

「未完成映画予告編大賞」MFC「CAN」。完成していない映画の「3分間の予告編」を作ってもらうコンテスト。縛りは、必ず「地域名をタイトルに入れること」。東京中心の映像製作の現状に風穴を開け、地方に埋もれている才能を発掘したかったからだ。第3回グランプリの「ミラクルシネマ」という映画が来年の2月に全国公開になる。主演は桐谷健太。キャスト&スタツフの95%は沖縄在住。1970年代にタイムスリップする物語なのだが、

「紫」「コンディショングリーン」の楽曲がフィーチャアされた音楽映画に仕上がっている。

僕もそろそろ引退するべき歳になつてきているが、この歳で、こんな音楽映画をプロデュースできたことが感慨深い。柏原高校に通っていた10代の僕は、こんな63歳を想像すらできなかった。コロナが収まれば、映画のチケットを持って柏原の母親に会いに行こうと思う。そして、小中高と僕の親友だった足立圭三くんのお墓に、チケットを手向けたい。圭三くん、こんなの作つたよと。

(柏原町出身)

オフィスクレッシェンドが制作した主な映画
TVドラマ

映画 「ファーストラブ」「約束のネバーランド」「明日への記憶」「劇場版SPEC」
TVドラマ 「桜の塔」「#リモラブ」「ハケ

ンの品格」「金田一少年の事件簿」「モテキ」
URL:<http://www.crescendo.co.jp/index.html>

俳壇……………

金子 徹(富士市)

新緑の瑞々しい季を迎えました。窓外の白樺林に目を遣りながら、手首の大切さを痛感しております。九十八歳三か月の生有る印に届けさせていただきます。

久呉 道子(富士宮市)

—富士の嶺—

庭の樹木富士の裾野に芽吹きけり

松籟や何をか言はん春の潮

令和なる大氣の町や大鳥居

春の雪戸惑ふことの多き齡

花は葉に吉野の町家風通る

柏餅そのあとつづく昔の話

恵方巻北北東の子の住居

鎖編み指の記憶やレース襪

※

「行きたくても行けない」というコロナ感染拡大の今日、ふる里はますます遠くなりました。

—望郷五句—

明けて九十胸突き八丁年果てる

新雪を着けしばかりの目覚め富士

束の間の望郷の日よ路の藁

試練か業か問わる命題二月尽

啓蟄やコロナ下にして人の出よ

※

せめて椿山荘のホタルの夕べに、平穩な時をし
のびました。

坂上勝朗(板橋区)

—夏三題—

かりそめの闇に螢の椿山荘

遠花火携帯電話上の空

反り合はぬ猫にも餌やる昼寝覚め

※

八十歳も半ばを過ぎますと、山川や草木の変化への感動よりも、人の世の出来事や世の移り変わりへの郷愁が多くなるもので……一月から五月までの拾い書きです。

大野 沙年（丹波市）

桐枯葉よろず天使のごと降り来

人生の今こそ佳境山笑ふ

強かに疫病は去らず四月来る

花冷やミャンマーの報きかばなほ

四月尽このご時世を死なず居る

※

さまざまな緑が美しい季節になりました。今年はこの団地に、エゴの白い花が多く咲きました。樹の下はまるで米粒を撒き散らしたように。

藤田 玲子（入間市）

転職を告げし息子やエゴの花

捲き爪は父に似ており柿若葉

白牡丹細見綾子の庭惚う

山墓地に鳴けるウグイス幼くて

マスクして歌う賛美歌くぐもりぬ

※

先日ようやく二度目の接種を終えて、ほっとしています。昨夏、ちょうど寿命がつけかけた携帯

をスマホに替えて、カメラがわりに楽しもうと思

っていました。今年ワクチン接種でこんなにも

スマホが役立つとは!! 目黒区はスマホ限定で

ラインで区役所とつながり、予約も簡単、スマホ

がなければ悲鳴をあげるところでした。

今夜、パリの女子高生が俳句を作っているのに刺

激されて作ってみました。

上田 道代（目黒区）

ひとはひととあえず鳥群れ騒ぐ梅雨空に

サレジオの塔ながめつつ接種待つ

真夜中の腕の痛みや雷鳴遠く

久々の外気に触れてあじさいの色空の色

人心置き去りにして五輪の闇アスリートの夢



撮影・原谷洋美

詩 座 (或ひは視座) ……

コロナ漬けの毎日です。浮かぶはコロナ関連の
短歌ばかり。短歌と言うより川柳ですが、いわば
憂さ晴らしです。

上 高子 (世田谷区)

外交は マスクワクチン 平和なれど

我に任せよ 何をえらぶか

オンライン 国際会議 自宅から

トイレフラッシュ 海原越えて

ウイルスの 禍福はあれど 人類が

わかったはよし 同船仲間

コロナ行く 地球の果てに 追い込みて

ワクチンをもて 打ち勝たせたまえ

尾と身あり 頭が見えぬ 対策は

無理が通れば 道理引っこむ



撮影・原谷洋美

歌壇……………

坂上勝朗（板橋区）

年を取る程一年が早く過ぎるようです。あつと言う間に九十歳の峠です。越えて何年生きられるでしょう。

足立 美都子（春日部市）

転勤し過ごせし街をなつかしむ仙台七夕桜

島火山

目に見えて脚の衰え早まりぬ卒寿の坂を目の前にして

春日部の街路樹「百合の樹」晩秋に丸刈り

されて花は咲きえず

台風の影響なくて彼岸花権現堂堤にひとし

お赤し

真夜中に浮かびし短歌は書き留めておかね

ば二度と思い出せない

※

昨年の本欄には弟妹皆元氣と書きしたが……弟

三題。

ゆくりなくもいまはの母を共々に呼び続けたる弟し逝く

弟の小さき尻をば背負ひつつ母と茶摘みし

時のいとほし

兄ちゃんも御身大事にではまたね残るメー

ルに一周忌早や

※

コロナの為に人の生活が変わるのが不気味です。

荻野哲男（狭山市）

妻逝きて一人暮らしになれたけどふと夢に見る優しい笑顔

人間の別れもいつかは来るものの何か一言話したかった

黄みどりの色さわやかな茶の芽つむ人の

帽子にトンボが休む

初夏つばめ元氣に頭上を宙返りコロナが何ぞと言うが如しに

ナス、キュウリ、カボチャ、トマトと庭に

植え夏の小さな楽しみを待つ

※ 長く続く足の痛みに加え、昔の病気まで次々起こり身心疲れています。ただたくさん良い言葉を言ってくれる人形や、アパートが建ち細長くなった空を見上げて癒されています。

木呂子恵美子（清瀬市）

十五年寄り添いくれしユメ人形「大変だねえ」と言葉優しき

花めでつつ静かな終りを望みしが身心の痛みに唯祈るのみ

細長き我が庭の空移ろいて今宵は三日月星と共に居る

前回は電話で締切られたワクチンの予約とれたと娘よりメールあり

※

つい最近、実弟の訃を受くも介護年令・遠距離・コロナと考えると出向けず、悔しい思いをしましたが、故里は遠くにありて思うものとなりましたが、寄稿できることは丹波と繋かれる嬉しさです。

山本述子（さいたま市）

新米の届き想ふは懐かしき家族総出の秋の取入れ

ひな祭り路のたうなど天ぶらに蛤汁に菜花一房

この春も河津桜は花ざかりテント張られず人も疎ら

青空に白きこぶしの並木道車椅子押す足元弾む

幼くて茶葉摘み蒸すを手伝ひき手揉みの後に新茶を啜る

出来たての新茶の香り今も尚旨味とともに我が舌にあり

※

不思議なもので、不自由なコロナ禍での生活にもだいに慣れてまいりました。出不精に一層の拍車がかかったかとも……。ワクチンの接種が終息への希望になっています。

田中一美（八王子市）

虹が出た二重に出たと忙しくライン飛び交ふ自粛のなかに

コロナ禍によきこともあり「業平」「源氏」
読み了しこと

久しぶりカタツムリ見る紫陽花の中より出て
二匹？三匹？

ワクチンの二回の接種に安らぎぬあと暫くの
辛抱かとぞ

叢にホタルブクロがひっそりと咲く夕どきの
なつかしきかな

※

新潮文庫の自分が著者になれる一冊『マイブツ
クー2021年の記録』を、歌日捲りにしてい
ます。

原谷 洋美（杉並区）

買い初めは色とりどりの花屋にて命ひしめく
種袋買ふ

天神かはた姉の面か特牛こつていの背負ひてゆかな梅
の匂へば

硝子戸のグウォーンと鳴くは突風かいな十年
目の余震とふ闇

青鷺は枯蘆の辺に動かざり日は静かな池の

面にある

大安をえらび免許証返納す天晴れ老後を歩い
てゆくぞ

ボート漕ぐ男の子呑み込み鯉のぼりアマビエ
となり高く泳げよ

やがて蝉 朝のとほくに聞こえ初め姉の寢息
のかそかまざれる

俳壇・トピックス……

久呉道子様が「第二十二回全国『水』の俳句大
会」で特選を受賞されたとの報を受けましたので、
ご紹介いたします。

新緑の候、見渡す大自然は素晴らしい様相を呈
し、今のひとときを尊く思わしめます。

昨年、丁度リハビリを終えて帰室しました折「珍
しい大虹ですよ！」とナース。二十人が二十分程
私も久し振りで視界に消える迄立ちつくして見つ

めました。余りにも美しいので神秘さをも感じました。お盆が済み、生きてお盆祀りをさせて頂いた有難みを想いで、あの虹は只事ではない気がしました。躊躇っておりましたが、投句致しました処、特選受賞の報。今年一月に転居先に賞状と選評が届き、ロビーに掲げて頂きました。

新緑や森遠巻きの楓の丘 道子

特選 湾に根の大きいなる虹神渡し

選評 池田琴線女(うぐいす主宰)

「神渡し」は陰暦十月に吹く西風。出雲へ送り出す神々へ順風な西風「神立風」と歳時記には書いてある。掲句は厳密に言えば「虹」と季重なりと言うことになるが、私は、湾に架かる幻想的な虹が神々を出雲へ送る道案内の橋のように思う。颯爽と神渡しに乗って出雲へ向かう神々に手を合わせたい。因みにこの作者の年齢をみて驚いた。九十七歳四か月とある。ご長寿で作句されるお姿に喝采をお送りしたい。

賞状

特選

湾に根の大きいなる虹神渡し

久呉道子様

「第二十二回全国『水』の俳句大会」に応募されたあなたの作品が頭書の成績を収められました。よって、これを賞します。

令和二年十一月三日

全国「水」の俳句大会実行委員長
NPO法人 水フォーラム 21

理事長 中本正明

撮影・原谷洋美

My Gallery

原谷洋美さん（山南町出身）

レイアウト・岡 吉明



柿渋紙を切り抜いた型紙を、牡丹刷毛を用い、岩絵具で色刷りをする型染めは、今で言うステンシルです。染色作家の、友人の母上様から手すさびに習って50年、妙にしっかりと気持ちに沁み、年賀状や季節の挨拶に作り続け楽しんでます。オリジナルの図案は難しく、包装紙や広告、挿絵などをアレンジする下手の横好きです。

My Gallery

山口敏之さん（氷上町出身）



マーストリヒトのカーニバル

マーストリヒトでは毎年カーニバルが盛大に開催されます。

元々キリスト教の謝肉祭でしたが今は仮装パレードがメインになりました。

暗く長い冬があけ、春の訪れをお祝いするため、大人も子供もこの日を待ち望んで仮装を全力で楽しみます。

ちなみにオランダ語ではカーナバル。ちょっとなまります。



2012年3月から2020年10月末まで8年半近くオランダの南の端、マーストリヒトに単身赴任致しました。

生まれて初めての海外赴任でしたが、ヨーロッパの文化に触れる良い機会になりました。

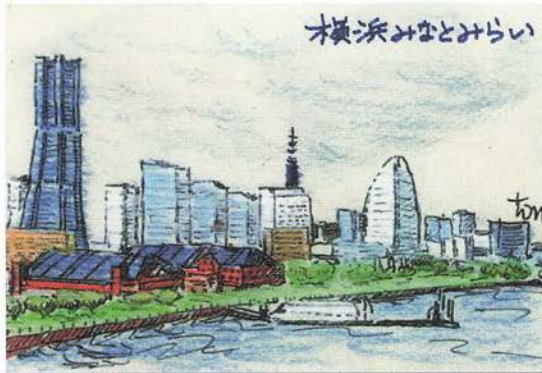
My Gallery

近藤利春さん（春日町出身）

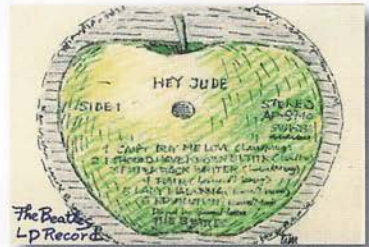


「せんみ風」は厚木市七沢地区(現住所)に明治から伝わる凧です。毎年地域の小学六年生が卒業制作し、凧揚げをしています。凧づくりをサポートしました。

七沢は丹沢大山の麓で丹波の田舎の様な所もあります。温泉も有りますのでお時間あればお越しください。他、趣味で、イラスト入り絵ハガキを描いています。



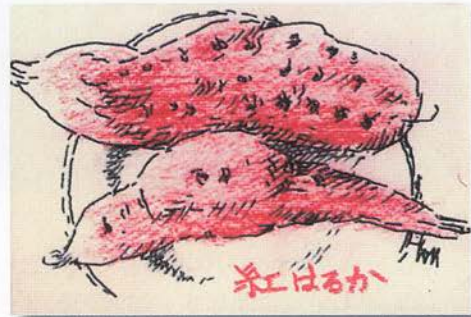
ランドマークタワー・赤レンガ倉庫、なかなかいいですよ



"HEY JUDE" ビートルズのLP 学生時代のアナログレコード、ときどき聴いています♪



実家の畑から直送、おつまみに最高♪



丹波の自家栽培、自然な甘さがうまい！

My Gallery

岡田昌子さん（柏原町出身）



塩原温泉の桜



目青不動尊にて



薔薇



薔薇



チューリップ



ポピー



那須・コテージ風ホテルの敷地内



目指すは笹倉鉄平画伯の物語性&写真家ロバート・メイプルソープの花の繊細さ。
大志は先達の足元に及ばずも落差の大きさは何のその、めげずに花や風景の写真を撮っては楽しんでいます。軽いのが一番で、コンパクトカメラとスマホにての撮影です。

簡単レシピ 男のレシピ

丸川宥次郎



紫蘇ジュース

材料

赤紫蘇 1袋 300～400g

砂糖 600g～1kg

酢 500ml

水 2リットル

作り方



①紫蘇は太い茎は取り除き葉と細い茎だけにする

②水で良く洗う

③鍋に2リットルの水を入れ沸騰させる

④紫蘇を入れ約10分煮る

⑤紫蘇の赤い色素が抜け緑色になる

⑥砂糖を入れる。溶けたら火を止める



⑦ボールの上にザルを乗せ、紫蘇の葉をマッシャーで絞り、絞った紫蘇の葉は別に置き置く。絞り汁は鍋に戻す



⑧鍋にザルを置き中にクッキングペーパーを入れ、煮汁を濾す

⑨酢を入れる。すると赤黒く濁った煮汁が一瞬に綺麗なルビー色に変わる

⑩ピンカボトルに入れ保管する。長期保存する時は冷蔵庫に入れる

紫蘇のエキスと酢と砂糖が入っていますので、夏バテなどの疲労回復の即効剤です。是非作ってお楽しみ下さい。

取り置きしておいた紫蘇の葉は細かく切って電子レンジで乾かしてそのままでもまたフリカケにして食べて下さい。せっかくの食物繊維ですので無駄にしないように

簡単レシピ 女のレシピ

足立由美子（料理） 足立忠司（文・撮影）

鮭とホタテのタルタル

(1) 材料（薄切りバケット 12 個分）

サーモン（刺身用）：100g
ほたて（刺身用）：50g
玉ねぎ（角切り）：大さじ 3
キュウリ（角切り）：大さじ 3
ピクルス（角切り）：大さじ 3
アボカド（角切り）：大さじ 3
ディル（ハーブ）：おこのみで



(2) 調味料

マヨネーズ：大さじ 2
オリーブオイル：大さじ 1/2
クリームチーズ：大さじ 1
粒マスタード：大さじ 1/2
醤油、塩、コショウ、レモン汁：少々



作り方

- ・(1) の各材料（ディル以外）を5mm程度に角切りします。
- ・角切りにした各材料をボールに入れ、(2) の調味料を加えて混ぜます。
- ・コップ等の内側にラップを貼り、混ぜ合わせた材料を入れ、形を整えお皿に移します。
- ・バケット（軽く焼いたもの）、ディル、お好みの付け合わせを盛りつけます。



バケットにタルタルとディルを乗せて頂きます。材料を刻み、調味料と混ぜれば出来上がりでお手軽です。さっぱりしており、夏場の食欲減退時に、軽食としてワインやお酒を飲みながら召し上がってみては如何でしょうか。また、材料、調味料は、お好みでアレンジして下さい。

丹波を撮る

写真：上島成和、文：徳田八郎衛

変わる丹波変わらぬ丹波(1) 加古川の水運1 阿江家文書(1)

「一」播州高砂の湊より丹後宮津御領栗田の湊迄大川式拾六里有之此内式拾式里者 従先規高瀬舟往来仕候 残而四里丹波氷上郡之内式里半川浚井壱里半陸地道普請仕候得者 右丹後宮津領栗田の湊より北海西大廻大阪迄海上参百式拾八里余所を内海内川纒四拾五里に而海上破船之無并川筋御百姓衆只今迄取払に被致雜穀家徳米或ハ近國山々ニ捨り有之候雜木ヲ炭薪挽板ニ仕大阪江川舟積登：
(後略)」

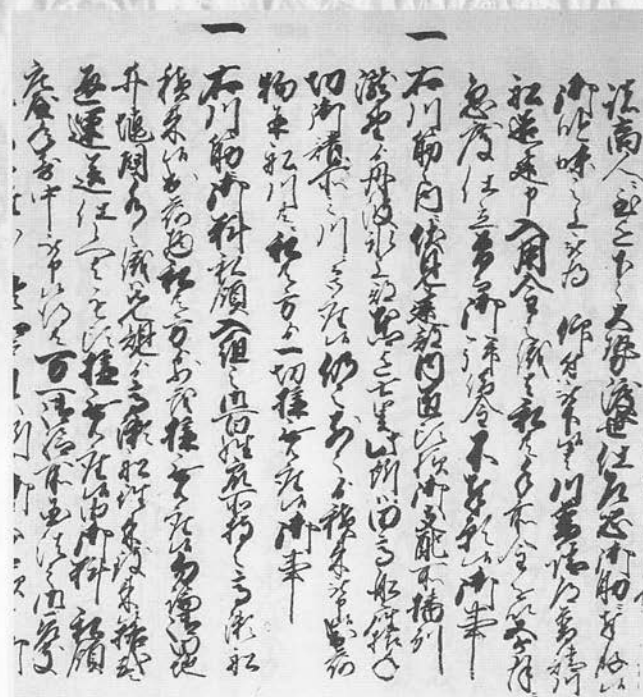
丹波の書

一播州高砂の湊より丹後宮津御領栗田の湊迄大川式拾六里有之此内式拾式里者 従先規高瀬舟往来仕候 残而四里丹波氷上郡之内式里半川浚井壱里半陸地道普請仕候得者 右丹後宮津領栗田の湊より北海西大廻大阪迄海上参百式拾八里余所を内海内川纒四拾五里に而海上破船之無并川筋御百姓衆只今迄取払に被致雜穀家徳米或ハ近國山々ニ捨り有之候雜木ヲ炭薪挽板ニ仕大阪江川舟積登：
(後略)」

この願書の要旨

宝永3年(1706)江戸の町人岡村善八は、丹後国栗田(くんだ)より由良川・和久川を丹波国天田郡榎原まで漕上し、穴裏峠を人馬で陸送、丹波国氷上郡東芦田で舟に積み替え、加古川を播磨国高砂湊へ、さらに大阪に至る輸送ルートを描き、京都奉行所に願ひ出る。①「播州高砂の湊より丹後栗田の湊まで大川二十六里あるが、その内二十二里は既に高瀬舟が往来している。残る四里の内丹波氷上郡東芦田村より本郷まで二里半は川浚えをし、榎原より東芦田村まで一里半は陸路峠道を普請すれば、栗田の湊より西回り航路を大廻で大阪迄海上参百式拾八里余の難所を通らず、内川、内海でわずか四十五里にて、海難の心配もなく大阪に着ける事が出来る。そうすれば諸商売荷物や川筋百姓衆が手元に置いている雑穀や自家用米、また山に捨て置いている雑木を炭・薪・挽き板にして大阪へ積み登れば…(後略)」。(上島成和著「古文書の語る加古川水運」より)

変わる丹波変わらぬ丹波(2) 加古川の水運2 阿江家文書(2)



「一 右川筋之内ニ伏見建部内匠頭様御支配所播
 州瀧野より丹波水上郡本郷迄七里 此所は田高
 船座拾年切御請所之川ニ而御座候
 乃至之前々より積来被申候出荷物并 船川共に
 私共方より一切構無御座候御事」

願書の要旨

「② 本郷より瀧野まで四里の川に、伏見奉行の建部内匠頭様の支配の田高船座がある。この船座は拾年季で請負制となっており、高瀬舟による鮎運が行われている。この船座が扱う荷物、船、川ともに私どもは一切構わない。」

「③ 右川筋には、幕領や諸大名の領知が入り組んでいる。それぞれの領知の百姓衆が所有している高瀬舟が以前より扱ってきた荷物について少しも拘わらない。勿論、井堰、用水のきまりは守り運送する…（後略）」（上島成和著「古文書の語る加古川の舟運」より）

丹波を撮る

写真：上島成和、文：徳田八郎衛

変わる丹波変わらぬ丹波(3) 加古川の水運3 各地の遺跡



←氷上町本郷船座跡に建つ「川裾大明神大 lantern」。本郷は、前期織田藩の時代（織田信包、信則、信勝）には織田藩領であり、貧乏な織田藩にとって本郷船座が上納する運上金（営業税）一貫目は、貴重な財源であったと思われる。慶安3年（1650）の信勝の他界後、本郷は天領となり、運上金は京都奉行に上納された。

→本郷より下流の加古川本流（本郷川）は、河川改修、特に徹底した護岸工事で変ってしまった。しかし犬岡あたりの上流（佐治川）では、まだ高瀬舟時代の流れの面影が残っている。



←山南町和田字中町の鶴牧藩和田代官所跡。上総国市原郡椎津村（市原市椎津）に陣屋を置く譜代大名で、上総・安房で八千石、丹波（大半は氷上郡、あと船井郡・天田郡に少々）で七千石の領知である。残された「丹波御領分様子大概帳」が、本郷に近い村々だけでなく鹿場や上垣、文室のような遠隔地からも年貢米が本郷河岸へ運ばれ、和田村周辺や稻継、稻畑からは下流の田高河岸へ運ばれたことを伝えている。



←西脇市黒田庄町船町の田高船座跡。船町・田高・石原三か村井堰があり、本郷川を下る船は積み荷を引き揚げ、堰下の田高座の船に積み替え、「田高川」と名を換えた加古川本流を下り瀧野船座へ向かった。上瀧野村の鬮龍灘で再度積み荷を引き揚げ、瀧野船座の船に積み替え、「瀧野川」を高砂へ向かう。

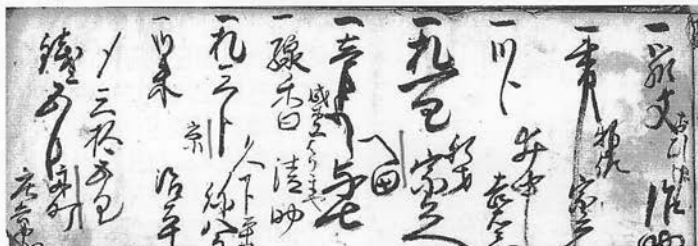
変わる丹波変わらぬ丹波(4) 加古川の水運3：柏原町母坪の徳田家香典帳



↑加古川支流の柏原川を遡って高瀬舟8艘が母坪の船座へ入港したと伝える文献は1794年刊行の丹波志のみで、それも「昔のこと」と記されているが、1757年の徳田家二世の葬儀では旧小川村、旧和田村等の加古川下流からの参列者は、近隣の柏原、成松よりも多く、加古川水運による交流を示唆している。黒田庄の船町からも銀1匁を携え安兵衛が参列している。



↑1777年の二世妻葬儀でも船町から松次郎が銀5匁を、安兵衛が1匁を携えて参列した。以後、三世(1805)や四世妻(1815)の葬儀でも船町からの2名参列は定着する。母坪へ高瀬舟が入港しなくなったにも拘わらず、強い連帯が存在したことを示唆している。

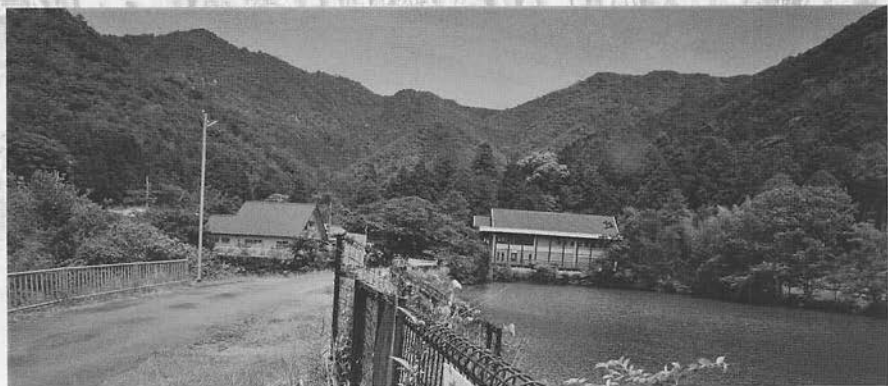


↑四世妻(34歳の夭逝)葬儀でも船町からの会葬は続く。京からの参列は、三世の弟が白木屋へ婿入りしたためと思われるが、迅速な計報伝達には驚く他はない。

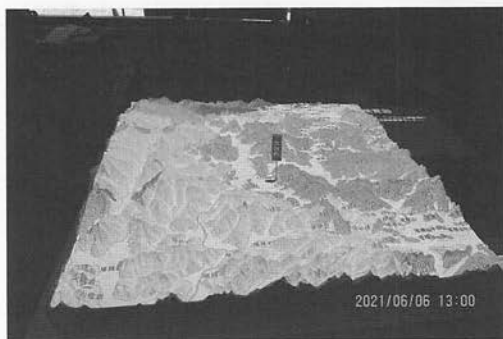
丹波を撮る

写真・文：徳田八郎衛

変わる丹波変わらぬ丹波(5) リニューアル終えた水分けフィールドミュージアム(1)



↑石生駅から徒歩で高谷川沿いに進むと峬部神社社務所(左の建物)に隠れて見えないが、柏原寄りの大型駐車場から進めば千代田池傍のミュージアムが迎えてくれる(右の建物)



←「知る人ぞ知る」氷上回廊を地理学・地形学だけでなく地質鉱物学から見た鳥観図である。産総研のシームレス地質図に基くパノラマだが、地名や山名を欠くのは残念だ。この他にも「川の争奪」、「宇宙から見た氷上回廊」などの展示が続く。



←「最も楽に中央分水界を越せる街道」として、国道175号線を取り上げ「現代の氷上回廊」と位置付けている。以前の水分け資料館にはなかった判りやすい解説だが、近畿・中国地方で一番早く(明治32年)中央分水界を越えた民営鉄道が阪鶴鉄道(今の福知山線)だったことも付記して欲しかった。何しろ海拔95mと低いのだ。

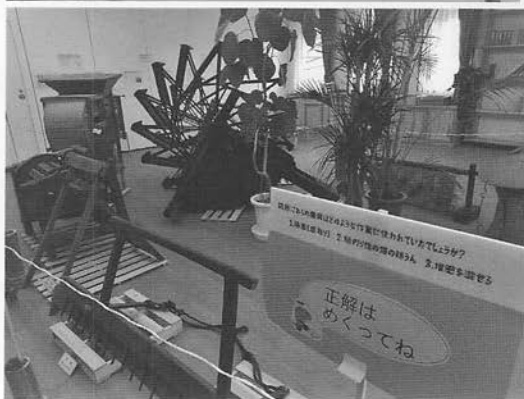
変わる丹波変わらぬ丹波(6) リニューアル終えた水分けフィールドミュージアム(2)



← 以前の水分け資料館では、船頭と水夫の人形及び米俵を載せていた高瀬舟だが、ミュージアムでは人物像は排し、現実的な積み荷に換えている。川を遡る時や難所では、二人の水夫は下船して綱を引っ張ったから、この方が現実的な展示といえるだろう。「米俵は2俵しか載らなかったの？」と落胆(?)した入館者もいた。



← 2階はセミナーや特別展示のコーナーで、ゆったりしている。参考文献は、今から充実されるのであろうが、今のところ加古川・由良川流域の市町村誌(史)ばかりで、中には北海道のものもある。加古川水運や氷上回廊については立派な先行研究が明治時代から行われており、ネットでの閲覧も可能なので、一工夫お願いしたいところである。



← 「クボタの耕運機」などがお目見えする前の、昭和20年代では未だ活躍していた農機具も展示されている。しかしこのままでは春日民俗資料館の二番煎じとなるので、ミュージアムの本来のテーマである、氷上回廊をめぐる生態系や林業・水産業の資料及び器資材、あるいは本州で類似の水分け名所に関する資料なども是非展示して頂きたいものである。

ジャズダンスで市島から
全国大会へ

ジャズダンスは全国的に盛んだが、我が郷里、丹波でも盛んなようだ。丹波市立竹田小学校6年生の須原滯菜ちゃんは8月に神奈川県で開催される全国大会に出場する。福知山で同じダンススタジオに通う女の子とペアを組んでの全国大会出場。

須原滯菜ちゃんは柔軟性を生かしたアクロバティックなダンスが得意。その大胆なダンスで多くの人を魅了する。全国大会には関東在住の郷里出身者にも応援に行つてほしいが、この「山ざる」が発行されるときには既に終わっているのが残念。

コウノトリ ただ今
丹波でデート中!?

コウノトリと言つたら豊岡市だが、実は水上町にもコウノトリはいる!豊岡で誕生したオスが、島根県雲南市で誕生した

メスとともにデートで丹波に飛来している。丹波はデートにいい土地なの?地元では「このまま居付いてくれたらいいのに」と願っているが、はてさて、どうなることやら。

朝霧深い丹波でバナナ?
そんなバナナ!?

丹波市でもバナナが栽培できる?柏原町のある農家が種苗会社からバナナの苗を取り寄せ、ビニールハウスで植えたところ、4年目にしてバナナが実つたという。丹波の寒さでも温かさを保てば熱帯原産のバナナが育てられる奇跡!。

今年のお正月は丹波の地
ビールで乾杯はいかが?

全国各地で地ビールが人気だが、我々が丹波にも地ビールがある。丹波市柏原町のクラフトビール「HAZY IPA」副原料に酒粕を使い、ホップな香りとまろやかさが売り(分類上

は発泡酒)。コロナ禍で創業以来最大の危機を迎えた酒蔵が打開策として打ち出した新機軸。故郷を救うために晩酌にどうでしょう?申込みは丹波市柏原町母坪「ひかみや」。谷垣裕二郎代表 ☎0795・73・0968。

老舗割烹 コロナ禍で業
態変えて一転、存続へ

江戸後期創業の丹波市きつての老舗割烹「辻判」。黒井にあるこの店も今コロナ禍で苦しむ。一時は閉店も考えたが、評判の良かった秘伝のタレを武器にうなぎ専門店として出直すことに。これで創業200年超の暖簾は保たれることに。老舗が生き残ると聞くとちよつとした安堵がありますね。

女子野球の聖地
決勝戦だけは甲子園で

春日町が高校女子野球の聖地であることは何度も伝えたが、今年も第25回全国高等学校女子

硬式野球選手権大会が丹波で開かれる。つかさグループいちじま球場と、ブルーベリースタジアム丹波(春日スタジアム)で熱い予選が戦われる。今年は決勝戦は甲子園。「いつか決勝戦は甲子園でさせてやりたい」という希望が実つてのこと。

松山英樹選手と丹波は
実は深い関係が!

丹波とプロゴルフフー松山英樹選手が深い関係にあることをご存知だろうか?丹波市市島町の住友ゴム工業市島工場は松山選手のゴルフボールを製造している。松山選手自身も何度も市島に足を運び敷地内のゴルフ科学センターで試打を行つている。松山選手がボールに求めるのは、「澄んだ音」。同社はバター時の打音を周波数レベルで解析し、求める音に近づけた。もしかしたら帰省した時にあなたも松山選手とすれ違っているかも?



撮影：徳田八郎衛 大岡橋から下流を見る

丹波から

関口（磯尾） 寛治君を偲んで

大野 昶（山南町）



齢を重ねたせいか、このごろ、新聞の最初に目を通す個所は「悲しみの園」欄である。

先日、旧知の関口寛治君の名前が目が止まった。コロナ禍の昨今、葬儀にも参列できないので「山ざる」の紙上を借りて、みなさんと彼を偲んでみたいと思い一文を認めた。

磯尾（旧姓）寛治君と私の出会いは古く、昭和26年にさかのぼる。当時、磯尾寛治君は柏原中学校の3年生、私は柏原高校の1年生でバスケットをやっており、バスケット部の主将が磯尾君の次兄の良平さんであった。そんな縁で、我々と柏原中学校で交流する機会があったのが出会いの最初であった。

そして1年、寛治君が柏原高校に入ってきて、当然

のようにバスケット部に入り一緒に2年間を過ごした。その頃から私は彼のことを「寛ちゃん」と呼ぶようになった。当時、柏原高校には体育館はなくて屋外（地べた）で練習をしていた記憶がある。（雨天の時は床のブカブカする建物でやっていったと思う）

2年後、私は卒業して「寛ちゃん」と出会う機会はなくなつた。

1年を経て思わぬところで「寛ちゃん」と再会することになる。柏原高校を卒業した彼と出会つたのは、京都学芸大学（現・京都教育大学）の入学式であつた。

当時の京学大は4年課程と2年課程があり、「寛ちゃん」は4年課程の特修美術科へ、私は2年課程の社会科へ入学したのである。それぞれの課程は学舎が離れており顔を合わせる機会はまったくなかつたし、私は寄宿舎に入寮して、伏見の学舎まで通学していた。

ほぼ1年を経て、「寛ちゃん」が寄宿舎へ私を訪ねて来て、「4月から寄宿舎へ入れるように口をきいてほしい。『寄宿舎へ入るとガラが悪くなる』と父親に言われて、1年間は柏原から通つたけれど疲れた。」と言

うので、なんとかしてみたら4月から同じ部屋で起居することになった。これも奇遇といえは奇遇であつた。

しかし、二人は学舎が違つたので朝食時間は別であつたし、私が出かけた後出会うのは、夕食時か夕食後、就寝する時ぐらひであつた。聞けば、特修美術科では実習の時間が長くあるようであつた。それに学習している内容も異なることもあり、同じ部屋にいても二人で長く語り合う機会は少なかつたように思うが、バスケットからの心のつながりは強かつたのかも知れない。「寛ちゃん」とは、その後長いつき合いとなつた。

大学を卒業した二人はそれぞれの教職の道を歩むわけだが、彼は高等学校の美術科教師として、私は小学校教師として定年までを無事に努め終えた。

彼の話し振りはもの静かで穏やかで暖かみのある、私にはない包容力を持つていた。いつも心して聞いたものである。たぶん、彼の教え子たちも。だから、彼の教えを受けた多くの子たちは絵が好きになり、今、各地で丹波でも、絵を描き、絵を教え、生き生きと活躍しているのであろう。

そして、「寛ちゃん」にはもうひとつの顔がある。それは、彫刻家の初代・磯尾柏里さんの三男としての顔である。大学へ入るまでの「寛ちゃん」は彫刻の片鱗も見せなかったが、「寛ちゃん」が学んだ特修美術科とは、やはり彫刻に関わりがあったのである。

「寛ちゃん」は、教壇に立ちながら彫刻家としての才能を発揮し、日展作家として優れた作品を残してきたことは周知のことである。三丹一といわれる柏原の厄神祭には丹波の洋画・彫刻・陶芸・織物・郷土人形などの芸術家たちの作品展が開かれているが、その会場で年一回、「寛ちゃん」と会うのが楽しみであった。私にはないものを持ち合わせている「寛ちゃん」から話を聞くことは本当に貴重な時間であった。互いに体の不調を慰め合うのにも大切な時間であった。最後は一昨年であっただろうか、また会えると思っていたのだが。華々しくなくても日展作家として凛と生きた「寛ちゃん」のご冥福を祈りつつ

『そのうちに語る日ぞあれ枯葉舞ふ』 大野沙年

(柏高六回生)



撮影・岡 吉明

狸穴命水たぬきあなめいすいと五台山

余田 正博 (市島町)

一 狸穴命水

我が郷里に狸穴命水なるものがある。銘水ではなく命水と書く。

そのむかし(9世紀始め)、名僧



弘法大師が全国布教の道すがらこの地を訪れた。当時は夏の日照り続きで渴きを潤す術もなく疲労困憊していた。当地の老婆が乏しき飲み水を分かち与えた。大師は蘇生の思いで旅を続けることができた。

大師は五台山を越えて今の氷上町へ行く途中であつ



た。大師は五台山の中腹で振り返り、謝恩の念を込め手に持っていた杖を山腹に突きさし祈念した。

するとそこから突如清水が噴出した。以来この水は冷たくて味も良くどんな干ばつが来ても水量・水質共に変わらず湧き続けたという。里人はこの水を狸穴の水と言ひ、弘法清水とも讃え、今日に至るまで余田の里人(※注)の民話として語り継がれてきたという。

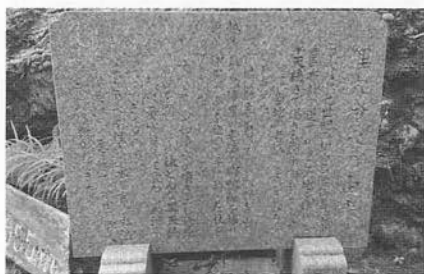
後年里人は大師の功績に感謝して大師像と碑を作り今も守り伝え老人会が大切に維持管理している。

以前は里人が死ぬ間際に一口飲みたいとよく言つたそうだ。遠く阪神や京都からもこの美味しい水を求めて訪れる人が後を絶たない。

平成26年8月の丹波市豪雨災害時、土砂が像の足元まで攻めてきたが不思議にも像は無傷で助かった。

二 命水と水道

後年その水を使って前山さきやま



むら 村水道が出来またそれが町村合併で町水道になり丹波市の水道として引き継がれた。ところが二十六年八月の丹波市豪雨災害でその設備は貯水槽、ポンプ室水管等が壊滅的な被害を受け再生困難となった。約二ヶ月断水となり近隣都市から給水車の応援を頂いた。その後この水道は廃止となった。

新水道は下流の竹田地区から上がってきている。今では水道水にも慣れたが切り替え時には味の違いに閉口したものである。

三 五台山

五台山は丹波市一番の標高で655mあり展望と渓谷に恵まれた美しい山〔ふるさと兵庫50山〕にも選ばれている。共有林が多く、中学・高校生時代に村の大人に連れられ日役に出たものである。杉やヒノキを植林し夏には下草刈りにも行った。その作業は数年間続いた。休憩時には谷川まで降りて冷たく美味しい水でのどを潤して作業を続けた。五く六十年経ち今では大木に育った人工林が6年前の大豪雨で倒木・山崩れ等の大被害をもたらした事は皮肉である。谷沿いの太い



立木が根こそぎ倒れ土砂と共に大量下流に流され、今回大きな災害の元となった。共有林のため植えたままの状態ですぐ伐の維持管理が出来ていなかったのが原因ともいわれている。災害復旧工事も不完全で今に至っている。

災害前は登山道も整備され登山愛好家にとって人気のコースになっていた。また、五台山祭りを毎年開催し水上町と合同で登山や山頂でイベントを開催していた。

過疎化する当地区で地域活性化のためにNPO【いきいき前山】を立ち



上げ、その活動の一つとして森林の徐間伐や作業道整備をして自然保護活動している。その活動を評価して、読売テレビが京阪神からボランティアを募り大型バスでご支援頂いている。

《里山再生プロジェクト

In丹波》として「愛は地

球を救う！」24時間テレビの収録は今年で4年目、都合10年間ご支援いただける予定である。

地元小学生から高校生まで参加いただき一大イベントとなっている。植樹には当五台山の植生である《ウリハダカエデ》を使用している。広葉樹等の植林を続け自然林の形に戻していきたい。

四 命水と農業

当地区では五台山の清らかな源流を利用して米作りや有機野菜等の農業に励んでいる。コシヒカリは、その清らかな水のお陰で味が全然違う。初めて食した人



はもちもちとして粘り気のある食感と味に驚く。同じコシヒカリでも数段違いがある。やはり水が大きく作用しているようだ。

五 今後の課題

高齢化が一層進む中で農作業や山に携わる住民



はなくなりつつあり、このまま放置を続ければ集落は限界に近づきつつある。特に山は生活に必要な水の源である。今まで先人たちが営々として育んできた自然をどう維持し後世に繋いでいくかの答えが未だに見つかっていない。

六 番外 豪雨災害 余話

豪雨災害で社寺仏閣も大きな災害を被った。ところが神社はすべて被災を免れた。我々が氏子の大原神社は参道は被害を受けたが本殿、社務所、境内も無事だった。折杉神社は裏側と左側面まで土砂が押し寄せたが本殿・社務所とも無事であった。当地区の祠や山中の小さなお稲荷さん等すべて無事であった。不思議なことであった。

ところが寺院に関しては、各地で大きな被害を受けた。筆者の檀那寺の宗福寺は、裏山が崩れ土砂が本堂に流れ込んだ。位牌堂及び開山堂は全壊した。仏具も多数壊れた。また隣の東昂寺の本堂は全壊し、未だに再建ができていない。

名刹で名高い石像寺も被害が大きく、立派な庭園も

無残な姿になった。三輪地区の臨泉寺も裏山が崩壊した。ところがよく見ると、お寺さんは自身が被害を被ったが、そのことにより下の檀家を守ったように思える。不思議な対比であった。このことに気づいている人は少ない。社寺については、公的補助や援助はないので、檀家の構成員が力を合わせ自力再建した。

*注) 余田は余田の庄といい、前山村の上半分6集落をさす。余田城があり光秀にほろぼされた。

(柏原高校卒(15回生) 谷村実業(株) 元専務、兵庫ラジオカレッジ丹波市友の会会長)



撮影・岡田昌子

丹波の国蝶オオムラサキ ウィーンで羽ばたく

兵庫県立丹波の森公苑
森づくり課長

三浦 仁 志（春日町）

関東水上郷友会の皆様のおかげとある兵庫県丹波地域の取り組みについて報告させていただく機会をいただき感謝申し上げます。



(写真1) 第一エッジ内の河合雅雄先生

【河合雅雄先生の追悼】

去る5月14日、人間の由来をサルからひも解くサル学者、世界的権威の霊長類学者、河合雅雄先生（京都

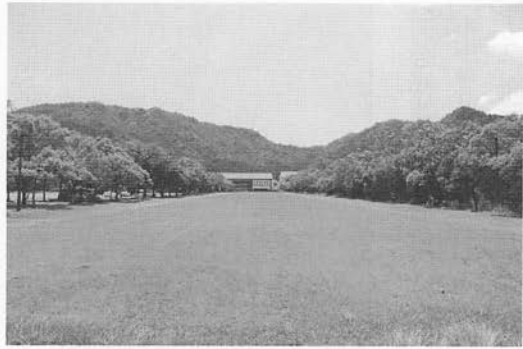
大学名誉教授・写真1）が逝去されました。謹んでご逝去を悼み、心からご冥福をお祈り申し上げます。

河合雅雄先生は京都大学霊長類研究所教授、(財)日本モンキーセンターを開設され所長に就任される一方兵庫県が進める「丹波の森構想」実現化のため平成8年4月丹波の森公苑初代公苑長に就任され、人と自然と文化が調和した地域を「丹波の森」と呼び、大切に守り育てていこうとする兵庫丹波地域の人々の思いを大切に、兵庫県立丹波の森公苑の礎を築かれました。平成17年6月公苑長退任後は、名誉公苑長として兵庫丹波の地域づくりの活動を温かく見守り続けてこられました。

【オオムラサキと河合雅雄先生】

丹波の森公苑創設時、河合雅雄公苑長は動物（昆虫）が棲息する森（山遊びⅡ森の文化）の実現に向けてエノキ200本とクヌギ500本の苗を植栽されました。（櫻が計画されていた）

エノキは国蝶・オオムラサキをはじめ多くのチョウや玉虫厨子で知られるタマムシの他多くの昆虫の食樹



(写真2) 丹波の森公苑600mに及ぶエノキ並木

建物の周囲と裏山には500本のクヌギが配植され日本一の規模を誇っています(写真2)。

さて、丹波地域のシンボルといえば、いろいろあるのですが、その中でも里山がまず浮かぶのではないのでしょうか。その里山のシンボル「国蝶オオムラサキ」取り組みの一部をご紹介します。

であり、クヌギは樹液を食するオオムラサキをはじめとするチョウやカブトムシやクワガタムシなど多くの昆虫が集まります。エノキは正面玄関まで600mにわたりエノキ並木が、700人を収容できる大ホールと、研修室などの

【これまでの取り組み】

創設時に植樹されたエノキ・クヌギが成長しクワガタ・カブトムシ・タマムシ・ゴマダラチョウが棲息するようになり、丹波の森公苑森づくり課(以下「森づくり課」という)では国蝶・オオムラサキの飼育展示を発案し、平成19年2月平面積10m×10m高さ3mのケージが完成し橿原市立橿原昆虫館、神戸大学、京都大学の指導の下に飼育展示を開始しました。

平成21年7月に第1回放蝶会を開催、令和元年7月第10回記念放蝶会を開催(平成30年は丹波地方記録的豪雨のため中止)、河合名誉公苑長、県民局長、丹波市長、丹波篠山市長始め大ホールほぼ満員の652名(内阪神間432名)の参加者がありました。

平成21年7月ウィーン13区ハイנטツ・ゲルストバツハ区長が来苑(写真3)し、オオムラサキの飼育展示を案内し大変興味を持たれました。平成25年友好提携20周年記念として辻理事長(丹波市長)がエノキ苗を贈呈植栽しオオムラサキを交流のシンボルにしたいと挨拶されました。

平成27年ウィーン13区シルケ・コバルド区長から、

ムラサキの会が平成28年2月に贈呈を始め、平成31年2月贈呈した幼虫がウィーン市の国立シェーンブルン動物園で同年7月に羽化、初めての産卵、1齢幼虫約200頭が孵化し、飼育されていきました。そのウィーン生まれの幼虫が無事越冬し、令和2年7月上旬にウィーンで初めて羽化しました。同園では8月オス7頭、メス3頭が元気に羽化しました。この様子は、NHKウィーン支局瀬津支局長が取材され、日本でも全国放送されました。その後、産卵しましたが孵化に至



(写真3) 丹波の森公園第一ケージにて ウィーン13区長一行来苑

同区内にある世界最古といわれる国立シェーンブルン動物園において飼育するオオムラサキの提供依頼書を受けました。そこで、(公財)兵庫丹波の森協会和兵庫丹波オオ



(写真4) 2019年日本大使館ロゴマーク入り説明板

りませんでした。(シェーンブルン動物園では無精卵と判断していますが、オオムラサキの会では無精卵になる要因の解析も含め原因究明されています。)


令和3年に入りコロナ禍が始まりシェーンブルン動物園へ越冬幼虫の供給不能となり、シェーンブルン動物園のエノキの肥培管理を促しコロナ禍終息後のプロジェクト継続を考えています。

前後しますが令和元年は新設された展示ケージの説明板(写真4)に、在日本大使館から日唄修好150周年記念のロゴマークが授けられ、また大使館のニュースレター8月号に国蝶・オオムラサキが掲載され、その内容がメディアからオーストリア国内に紹介されました。

(参考1) 国蝶オオムラサキのウィーンでの飼育の経緯

2009年 (平成21年) 7月	ウィーン市13区長一行9名が丹波の森協会来訪。兵庫県立丹波の森公苑内のオオムラサキを視察。
2011年 (平成23年) 7月	丹波地域からの訪問団(兵庫丹波の森協会主催)がウィーン市13区を訪問した際、13区側からオオムラサキを区内で飼育したい旨の要望。
2013年 (平成25年) 7月	兵庫丹波の森協会理事長が、提携20周年を祝うためウィーン市13区を訪問。「オオムラサキを交流のシンボルにしたい」と挨拶。
2015年 (平成27年) 10月	ウィーン市13区区長より、兵庫丹波の森協会と兵庫丹波オオムラサキの会宛に、オオムラサキ幼虫送付の要請書が届く。
2016年 (平成28年) 2月	【第1回目】幼虫30頭贈呈。飼育施設で7頭羽化。オオムラサキ幼虫30頭を、兵庫丹波オオムラサキの会会員が、ウィーン市13区に持参。
7月	6月末から7月にかけて雌雄7頭が羽化したが生産卵に至らなかった。
2017年 (平成29年) 1月	ウィーン市13区長より、兵庫丹波の森協会と兵庫丹波オオムラサキの会宛、再度オオムラサキ幼虫を送付してもらう旨の要請書が届く。
2017年 (平成29年) 3月	【第2回目】幼虫30頭贈呈、死滅。オオムラサキ幼虫30頭をウィーン市13区に持参。
2017年 (平成29年) 7月	【第3回目】卵38個贈呈、死滅。

2017年 (平成29年) 12月	【第4回目】幼虫40頭贈呈、死滅。ウィーン訪問団の訪塊にあわせ、オオムラサキの卵38個を持参。38個全卵が孵化、うち12頭の幼虫が健全にウィーン産エノキを食し、3頭が2齢に脱皮成長したが死滅。
2019年 (平成31年) 2月	ウィーン市13区関係者の訪日にあわせ、幼虫40頭を贈呈。関係者がウィーンに持ち帰るも全滅。
2019年 (令和元年) 5月	【第5回目】幼虫60頭贈呈、専用ケージで27頭羽化。オオムラサキ幼虫60頭をウィーン市13区に持参。全ての幼虫が冬眠から覚める。
6月	うち30頭が生育。専用展示ケージが整備される。(日壊修好150周年を記念)
7月	中旬から蛹化。
2020年 (令和2年) 7月	中旬から羽化が始まる。最終的にオス16頭、メス11頭が羽化。交尾、産卵を確認。下旬、幼虫が孵化(約200頭)。同園にて越冬育成飼育。越冬幼虫が育ち蛹化。中旬にウィーンつ子成虫第1号が誕生。産卵は確認したが未受精卵のため？幼虫確保に失敗。その後コロナ禍のため幼虫交流を中断し、基本に戻りエノキの肥育に傾注。

(参考2) 公益財団法人兵庫丹波の森協会 

丹波地域では、昭和63年に地域住民が行った「丹波の森宣言」を契機として「丹波の森づくり」に取り組みはじめ、30年以上が経過しました。その丹波の森づくりの推進団体が(公財)兵庫丹波の森協会です。現在、ウイーン13区との交流や生物多様性を育む里山づくり、兵庫県立丹波の森公苑(他に県立丹波年輪の里・県立ささやまの森公園・県立丹波並木道中央公園)の運営などを行っています。その一環として、オムラサキの飼育にも取り組んでいます。

丹波の森宣言

丹波の自然と文化は、現在及び将来にわたる住民共有の財産であって、これを維持発展させることは私たちに課せられた重大な責務です。

今、私たちはこの責務を強く自覚し、お互いに力を合わせ、自然や文化を大切にしながら、これらを生かした「丹波の森」づくりを次のように進めることを宣言します。

1 丹波の健全な発展をそこなうような自然破壊は行わず、森を大切に守り育てます。

2 丹波の自然景観を大切にし、花と緑の美しい地域づくりを進めます。

3 丹波の文化景観及び歴史的遺産を大切にし、個性豊かな地域文化を育てます。

4 丹波の素朴さと人情を大切にし、安らぎと活力に満ちた地域づくりを進めます。

※ 昭和63年8月、住民代表による「1000人委員会」を組織し、「丹波の森宣言」が起草され、1000人大会で満場一致で決議された。この丹波の森宣言は、丹波地域全世帯と企業に配布され21616世帯の同意署名を得て採択された。

(参考3) 兵庫丹波オムラサキの会

兵庫丹波オムラサキの会は名誉会長として河合雅雄名誉公苑長に就任頂き1001名の会員により平成23年2月発足しました。現会員107名 会長足立隆昭(事務局・丹波の森公苑森づくり課)。

主な活動

調査活動…オオムラサキの分布調査（1～3月越冬幼虫）

食樹であるエノキ・クヌギの分布調査

啓発活動…多くの市民にオオムラサキを認知してもらうために小学校での学習支援

（学習支援校…丹波篠山市・丹波市の小学校36校中22校で飼育・学習のみが7校）

団体および企業の飼育展示支援

交流活動…研究機関（大学・博物館など）・国内のオオムラサキ飼育展示団体

丹波地域環境パートナーシップ会議

会員研修

イベント…放蝶会（丹波の森の住民および阪神間の住民…7月7日前後の土・日曜日）

絵画展（小学生から「国蝶オオムラサキが舞う里山イメージ画」令和2年192点）

特別企画…ウイーン13区、王立シェーンブルン動物園と国蝶オオムラサキ飼育交流



撮影・岡 吉明

かおりよし農園から

かおりよし農園 田中 忍（氷上町）



毎年、紫黒米しこくまいを通してお世話になっております。

氷上町香良で野菜と水稲の專業農家を営んでいる田中忍と言います。

私は2012年春まで大阪市にて機械設計専門の設計事務所を開設していましたが、リーマンショック以降徐々に仕事量が減少し、以前より興味を持っていた農業に転職しようと、市島町与戸でブドウとブルーベリーの果樹園を営んでいた友人（高校、大学の同期生）で既に当時脱サラ就農していて、2007年から何度か農業体験を兼ねて手伝いに行っていた）の家の離れを間借りし、一緒に果樹園を行なっていました。

その傍ら、与戸の有機農家の高見一郎さん、康彦さん父子より水稲、野菜の研修を、下竹田の余田忠男さんより古代米（紫黒米しこくまい）の研修を受けておりました。

2014年春に氷上町香良に農家住宅を購入して移り住み現在に至っております。

2021年現在、コシヒカリなど主食用うるち米約1・7ヘクタール（1町7反）、紫黒米しこくまいなど古代米約60アール（6反）、露地野菜雑穀合わせ約25アール（2・5反）栽培しております。

市島にいた頃から丹波有機農法研究会（丹有研）に入会しており、有機JAS認証は取得しておりませんが、野菜は全て有機無農薬にて栽培、水稲は有機減農薬（除草剤のみ使用、殺虫剤系農薬不使用）にて栽培しております。

有機肥料は旨みにこだわり、堆肥、腐植酸土壌改良材、アミノ酸肥料（魚粉主体）、有機石灰、天然ミネラル肥料などを使用しています。

今年は、主食用うるち米の栽培品種は、コシヒカリ、ミルキークイーン、あきたこまち、きぬむすめ、つきあかりの五種類を栽培しております。古代米は紫黒米しこくまい、赤米、緑米、香り米の四種類、および白もち米を栽培しております。雑穀は小粒大豆三種類（白、黒、青）と丹波大納言小豆を栽培しております。



主力商品（紫黒米・七穀米・十穀米）

古代米に関しては、紫黒米を単一原料米として販売しているほか、複数の古代米と小粒大豆、大納言小豆などをブレンドして五穀米、七穀米、さらに国内産のもち麦を加えた十穀米などとして販売しております。数年前から、関東水上郷友会様の総会に合わせ紫黒米を大量にご注文いただいておりますが、ここ数年は健康ブームの影響で玄米食の人が増え、玄米を食べやすくする目的でこれらの雑穀米を購入される方が増えているので、売り上げは伸びてきております。

主食用うるち米も、親戚や京阪神の友人、関東水上郷友会会員の方などにご購入していただいておりますが、地元丹波や京阪神の食料品店で1〜3kg入りの袋を買われた方から「kg当たりの単価を下げて10kgや20kgで購入したい」というご要望が増え、またこれらの方からの口コミで毎年、10kg袋、20kg袋の宅配によ

る注文が増えてきております。

昨年11月にJ Aひかみの広報誌に私の米作りに関する記事が紹介されてから、さらに注文が増え、4月上旬に主食用うるち米は売り切れてしまいました。コロナの影響で大口顧客の飲食店さんから取り置きのコシヒカリのキャンセルがあり、それを一般の方にご購入いただいているところです。

家内には家事やアルバイトの傍ら、お米の小袋詰めや出荷作業を手伝ってもらっていますが、屋外での作業はもっぱら私一人で、去年水稲面積が2ヘクタールに近づいたあたりから仕事が追いつかず困っていましたが、お客さんの方から、稲刈り体験（コンバイン体験）やトラクター体験をしてみたい、農業体験をしてみたいといったご要望があり、日帰りや1泊2日、2泊3日などで手伝いに来てもらっております。アルバイト料は出せませんが、宿泊と食事は提供させていただいております。

今年も水稲面積増加に伴い稲刈り時の作業がさらに膨大になるので、宿泊でどっぷり仕事を手伝っていたく代わりに今年の新米をお持ち帰りいただく取り決



農業体験希望者の方たちの応援を得てキュウリ支柱立て、ネット張り、植付け作業

ろです。

去年の年末は、アパレル業界の方数名が「コロナ禍で売上激減していて農業への業種転換を考えている」ということで相談にいられました。

先日、高校生の子供さんがいる伊丹市や西宮市のお母さんたち3人が「息子が将来農業を志しているので一度農業体験させてほしい」と、それぞれの子供さんと一緒に野菜の収穫、トラクター体験をしにいられました。夏休みにも来られるそうです。

地元ではご高齢の農家さんが農業をやめ、子供さん

めを数名のお客さんと交わらせていただきました。

水稲以外では、畝たて作業、野菜苗の移植、夏野菜用支柱立て、草刈り、電気柵張り直しなどを手伝ってもらっています。写真は、キュウリ用支柱立て、ネット張り、苗の植付け作業を手伝っていたいただいているとこ

も都会で生活していて実家の農業を継ぐことなく毎年耕作放棄地が増えてきている中、少し明るい兆しが見えてきているような気がします。

ただ、二ホンオオカミ絶滅後年々数を増やしているシカ、イノシシなどによる獣害、温暖化による害虫増加に起因する被害が年々増加していて、その対策に費用がかさみ新規就農のハードルを上げている懸念もあります。私自身音を上げそうです。

WHO（世界保健機関）が言うように全世界の人口80億人を養う食料はすでに不足しており今後気候変動や紛争の多発で益々食糧難の時代に突入するということとが本当ならば、微力ながらそれを回避する一助になりたいと願う今日この頃です。

（昭和35年大阪市城東区生まれ。52歳から丹波市へ、現在に至る）



撮影・岡田昌子

「甲子園で決勝」夢が実現

全国高校女子硬式野球連盟会長 坂谷高義（市島町）



8月23日午後5時、阪神甲子園球場で、日本の球史に残る一戦が始まった。第25回全国高校女子硬式野球選手権大会の決勝戦である。このとき、私たちの長年の夢が実現した。よくぞここまで来たものだと思いだった。

時をさかのぼる。

第1回の大会は1997年、東京都福生市で開催された。「女子硬式野球の父」と言われた四津浩平氏（故人）の尽力によるものだった。女子硬式野球の礎をつくるために東奔西走し、私財を投じることも惜しまない人物だった。翌年、私たちの仲間が四津氏に出会い、その情熱に感動したのがきっかけになり、「春の選抜大会を市島町で開催したい」と四津氏に申し出

た。

2000年4月1日、この年に完成したばかりのスポーツピアいちじまで第1回選抜大会を開催した。参加したのはわずか8チームで、ソフトボール部による急造のチームもあった。高校女子硬式野球の黎明期だった。

その後、四津氏から「夏の大会も市島町で開いてほしい」との依頼があり、2004年から春の選抜大会に加えて、夏の大会も開催するようになった。丹波市が女子高校球児の聖地となった始まりである。（14年から選抜大会は埼玉県に移管した）



決勝戦の様。丹波市提供

市島で開いた初めての夏の大会には10チームが出場した。その後、参加校が増え、25回目を数えた今回の大会には過去最多の40チームが出場した。さらに今大会は、決勝戦が甲子



決勝戦の様様。丹波市提供

園で開催されることになった。もちろん初めてのことである。

私は5年前に全国高校女子硬式野球連盟の会長に就任した。以来、女子にも甲子園の土を踏ませてやりたい、甲子園で決勝戦をさせてやりたいと、日本高校野球連盟の八田英二会長や竹中雅彦前事務局長に直訴してきた。なかでも竹中氏は前向きな姿勢を見せてくれた。さらには、全日本女子野球連盟の山田博子会長が私たちの思いに共鳴し、強力に後押しをしてくれた。こうした関係者の支えがあり、決勝戦を甲子園で行うことが実現した。高校女子硬式野球のすそ野が広がり、女子球児が増えると共に実力も格段にアップしたが、甲子園実現の背景にあることは言うまでもない。

今大会は7月24日に開幕した。主催は、丹波市と、私が会長を務める全国高校女子硬式野球連盟である。



決勝戦の様様。丹波市提供

準決勝までは、スポーツピア いちじま（つかさグループ いちじま球場）と春日スタジアム（ブルーベリースタジアム丹波）で行った。決勝に進んだのは、神戸弘陵学園と高知中央。両校ともに準決勝を2-1で制した。神戸弘陵は過去にも優勝経験のある伝統校なのに対して、高知中央は創部3年目の新鋭校だった。

準決勝を行ったのは8月1日。決勝は当初、男子の決勝戦前日の休養日にあたる22日の予定だった。ところが、ご承知のようにこの頃、連日、雨が降った。このため日程が二転三転し、21日になって、23日にナイターで行うことが決まった。できるならば真夏の太陽の下でプレーをさせてやりたいかった。しかし、甲子園で決勝ができたこと自体を良しとすべきなのだろう。新型コロナ禍の中にあつて大会が開けたこともありが



決勝戦の様相。丹波市提供

たかった。昨年は、春・夏ともに大会が開けなかったのだから。試合ができないまま高校を卒業した当時3年の球児の無念さを思うと、いまだにいたたまれない。

決勝戦は観客を制限した中で行われた。丹波市からは、大会会長でもある林時彦市長をはじめ、関係者ら約30人が甲子園におもむいた。全員がPCR検査を受け、陰性が証明された上での観戦だった。スタンドにいる人の姿はまばらで寂しかったが、熱戦が展開されたグラウンドからは選手たちの裂帛の気迫が伝わってきた。試合の結果は神戸弘陵が4―0で勝ち、5年ぶ

り2度目の優勝を果たした。

試合終了後、グラウンドで閉会式が開かれた。大会副会長である私は講評を述べることになっていった。キャッチャーのポジションのあたりに置かれた台の上に立ち、マウンドをはさんで一列に並

んだ両チームの選手に対した。スタンドから見る風景とは全く違い、グラウンドは意外に小さいものだなと思ったりしたものだ。決して冷静でいたわけではなく、宙に浮いたような心持ちだった。

講評では、「丹波でのあなたたちの準決勝での戦いぶりは、今も私の脳裏に焼き付いている。すばらしいプレーを見せてくれ、感動を与えてくれた。そして今日、夢のように思っていた甲子園での決勝が実現した。これは多くの人の尽力の賜物だ。今日のことを一生の思い出にしてください」と述べた。あらかじめ原稿を書いていたわけではない。台の上に立つて浮かんた言葉を書いたのだが、不思議と言葉が口をついて出た。選手に「一生の思い出にしてください」と言った私だが、私にとっても一生の思い出になった。

決勝戦の翌日、一般紙をはじめ、特にスポーツ新聞の各紙が決勝戦を取り上げ、大々的に報じた。スポーツ報知では、社会人野球クラブチームの茨城ゴールデンゴールの選手兼監督でタレントでもある片岡安祐美さんの観戦記が載った。その中には「男子だけでは

なく、女子にも甲子園を目指す権利が与えられました。夢のような時代になりました」とあった。同紙にはまた、「2004年の第8回大会から開催されている兵庫・市島町（現丹波市）は女子高校野球の聖地になっている」とも書かれていた。

記事にもあるように丹波市は女子高校野球の聖地である。これは胸を張って言える。ただ、やはり高校球児にとっては甲子園というのは特別な存在だ。女子にとっても、球児である以上、それは変わらない。

来年も決勝戦を甲子園で行えるかどうかは、この原稿を書いている時点では決まっていない。しかし、実現を望む気持ちは切である。甲子園の土が踏めるとなれば、女子硬式野球の熱はいっそう盛り上がるだろう。全国高校女子硬式野球連盟の会長を務めている私だが、ネームバリューのある人に会長職を譲りたいと思ってもいる。これも女子硬式野球を今以上に盛り上げるためである。私は喜んで裏方に回る。イチローさんが会長職を引き受けてくれたら最高なのだが、と勝手に妄想している。

1997年の夏に開かれた第1回大会は、5チーム

の参加にとどまった。それが今では甲子園で試合が行えるまでになった。まさに「夢のような時代」になったのだが、私や丹波の仲間にとってはまだ実現していない夢がある。それは、丹波地域の高校に女子の硬式野球チームができ、大会に参加してくれることだ。このとき、私の夢は完成する。

（元市島町スポーツ交流活性化協議会会長、元丹波市体育協会会長、元丹波市議会議員、75歳）

〈構成・丹波新聞社社長 荻野祐一〉



撮影・岡田昌子

丹波ブランド紹介

その12「小谷製菓」の手焼き瓦せんべい

優しい味を末永く

女子硬式野球のお土産にも

古西 純

(丹波新聞社)

「これが代々の焼き印。2000個ほどあります」

市島町上牧で手焼き瓦せんべいの味を守り続ける「小谷製菓」さんにお邪魔した。3代目小谷哲也さん(35)の母で、営業や配達を主に担当している典子さん(67)に工場へ案内してもらい、目にしたのは、手作りの棚にずらりと並んだ鉄のオリジナル焼き印。四角や丸の土台に、逆さに刻まれた文字と、それぞれ特色あるデザイン。いろいろな型を眺めているのは楽しく、小谷製菓の足跡を一覧カタログで見せて頂いたような感動があった。

戦後まもなく創業

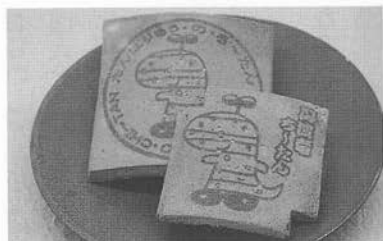
さて、まずは小谷製菓の歴史についてご紹介したい。創業は、戦後間もない昭和23年(1948)。戦地から戻り、福知山市の鉄工所で働いていた初代の武さんが、せんべいを焼く鉄板をたまたま入手。近所の人に小麦粉を持ってきてもらい、せんべいにして加工賃を受け取っていたのが商売の始まりだったそうだ。その



工場に並んだ代々のオリジナル焼き印

資金を元に小麦粉を仕入れ、店を始めたという。

典子さんによると、「初代はお菓子の本を見ながら独学でせんべいを研究した」という。「いろんな失敗もあった」と創業当時のことを聞い



丹波市のマスコット「ちーたん」のせんべい



旧6町の名所を焼き印にした「観光せんべい」

ているそうだ。武さんと妻の栄子さんが切り盛りしていたが、高校を卒業した2代目の健治さんも店を手伝い始めた。その後、結婚した典子さんも加わる中で、じよじよに仕事も増えていった。

「観光せんべい」誕生

昭和40年代、現在も販売されているロングセラーのヒット作「丹波ふる里観光せんべい」が誕生。旧6町の名所旧跡が焼き印になっており、お土産として人気が出た。武さんが丹波県民局の職員と話をする中で生まれたアイデアだという。焼き印せんべいはその後、

いろいろな方面から発注を受けるようになる。会社のロゴを記したものや、結婚祝いのお返しの花嫁せんべい、丹波市のマスコットキャラクター「ちーたん」のせんべい……。オリジナルの瓦せんべいが次々と生まれてた。

とりわけユニークなのは、今年（第25回）は初めて決勝戦が阪神甲子園球場で行われたことで話題を呼んだ、「全国高等学校女子硬式野球選手権大会」の記念せんべい。地元の丹波市立スポーツピアいちじまでお土産として販売されてきた。

「北海道から『おいしかったので送ってほしい』と注文が入ったこともあるんですよ」と典子さん。選手が大会出場記念のお土産に買って帰り、それを食べた



人気のそら豆入り「フライ」



いろいろな焼き印とせんべい
(一番左が女子野球)

おじいちゃんが『懐かしい』と喜んだのだそうだ。全国大会の記念品となったことで、『海を渡って』小谷製菓のせんべいが届けられることになった。昨年はコロナ禍で大会が中止になり、残念ながら今年も物産コーナーの出店はなかったが、来年はぜひ復活してほしい。

なるべくソフトに



回りに配達や営業に飛び回る典子さん

小谷製菓の瓦せんべいの特徴を尋ねると、「瓦せんべいはかたいという印象があるので、できるだけソフトに焼き上げています」（典子さん）とのことだった。「カステラ生地を圧縮したイメージ」とお聞きし、なるほどと思った。

地元で愛される定番

味は、初代の頃から今まで変えていない。小麦粉、砂糖、新鮮な卵、ハチミツのシンプルな材料（膨張剤、

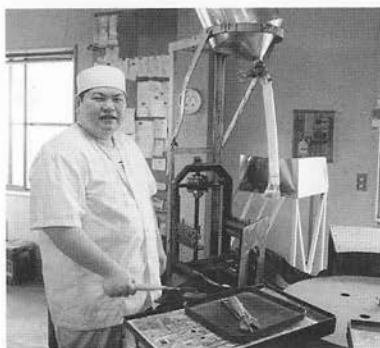


島市バザールフレッシュ販売コーナー

ブドウ糖、パ
ニラエッセ
ス（少量）で、
約70年間、優
しい手作りの
味が受け継が
れている。

ちなみに、オリジナル焼き印のせんべい以外に、昔ながらの定番商品は8種類ある。四隅に砂糖をかけた「四方」、そら豆入りの「フライ」、ピーナッツ入りの「角玉」、シヨウガヤのりの風味を効かせた「生姜」、「青丸」。形は、丸、四角、瓦型、くるっと丸まったものなどいろいろ。砂糖やのりは1枚1枚手で付け、丁寧に作られている。

丹波市内では、フレッシュバザール（市島、春日、氷上、山南店）、コープ柏原、道の駅「丹波おぼあちやんの里」などで販売され、昔ながらの手軽なおやつとして地元で親しまれている。



「祖父、父の味を守りたい」と話す3代目の哲也さん

一昨年から3代目に
せんべいを焼くのは、体力のいる仕事だ。鉄板で焼くので、夏場は特に室温の高い工場内での作業になる。気温によって焼き時間などの微妙な調整がいり、勘に頼ることも多いそうだ。

3代目の哲也さんは高校卒業後から手伝っており、この道15年以上になるが、本格的に任されたのは、健治さんが亡くなった一昨年から。人口減少が続く地域で事業を継続する難しさはあるが、「なくさないでほしい」という地元の人からの後押しもあり、跡を継ぐことを決めた。丹波市内で瓦せんべいのお店は、山南

町和田の「いづみや製菓」と2軒だけになって
いる。

家族や親族、
地域の人たちの
思い出がたくさ
ん詰まった手焼
き瓦せんべいの



小谷製菓

店。哲也さんは「祖父、父の味をこれからも守っていききたい」と優しいまなざしで語った。3代目小谷製菓の物語はこれから始まる。

85
・0678
【小谷製菓】市島町上牧663-1 電0795・

里 勝安選手の輝かしい 陸上競技歴をたどる

足立 敏 晤（茅ヶ崎市）



1 はじめに

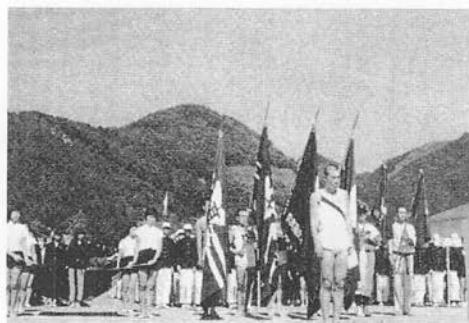
里 勝安氏は、丹波市氷上町の生まれで、昭和30年代に陸上競技で活躍した選手である。4人兄弟妹は、ともに文武両道に優れ、中でも長兄・里 勝安氏（以下「里君」という）は天賦の才能に恵まれ、多くの名場面を残した。その彼が21世紀を目前にこの世を去ってから、すでに21年の歳月が流れた。願わくは里君が指導者として、後進の発掘に尽力してくれることを期待したが、それは見果てぬ夢であった。「山ざる誌」の貴重な誌面をお借りし、丹波市が生んだ昭和のヒーロー・里君の陸上競技歴の一端を紹介させていただくことにする。

2 東中学時代から柏原高校時代にかけて

① 里君の陸上競技選手としての活躍は、東中学2年（現・氷上中学）のときの、第7回氷上郡中学校駅伝競走大会の活躍から始まった。駅伝競走は山西コース・6区間（青垣町旧遠阪中学↓柏原町崇広小学校前）で競われたが、彼は第1区に起用され、2年生でありながら見事に区間賞を獲得した。これが彼の華々しい陸上競技人生の始まりであった。

翌3年生の時は、

青垣中学校グラウンドで開催された第十回郡中学校陸上競技大会で長距離2種目（1500・5000m）を圧倒的な力で優勝した。当時、5000mはスタートして校外の道路を走ったが、彼は17分



華々しい活躍を見せる、里勝安選手の壮行会



1964年東京五輪の最終聖火ランナー候補に挙がった里勝安氏

15秒で2位以下を全く寄せつけず圧勝した。白いハンカチを握りしめ颯爽と走るフォームは、まさに「ハンカチ王子」と呼ぶにふさわしい雄姿であった。

この優勝にはどうしても触れておきたいことがある。5000mの距離に対し、審判の先生方は、設定のコースに距離不足があったとして、素晴らしい記録を参考記録にされたことである。2か月後に山東コース（旧・竹山中学↓柏原町崇広小学校前）で行われた第8回郡中学校駅伝競走大会、第5区5200mの最長区間を17分09秒で走破し、母校・東中学校の初優勝に大きく貢献した。前記2つの記録を比較するとき、参考記録と判定されたのは、彼の桁外れの好タイムに、審判員の先生方が慌てて距離不足と申されたことしか思えない。

私は、青垣中学の卒業生であるが、自校で初めて開催される郡中学校陸上競技

大会に先立ち、教師に率いられた同級生が、巻き尺と竹竿を用いてコースの距離測定したのを、はっきり記憶している。計測に携わった同級生の距離測定に誤りがあったなどは、今もって信じられず、参考記録としたのは、彼の圧倒的な速さが逆に審判員の先生方の判断を誤らしめたと思えない。

続く丹有・県・近畿大会においても、優勝を含め数々の好成績を残し、兵庫丹波に将来性豊かな距離ランナーがいることを世間に印象付けた。

② 柏原高校に進んでからは、天賦の能力に彼の不断の努力に拍車がかかり、全国で覇を競う選手へと羽ばたいた。高校2年と3年の主な成績は、次のとおりである。

高校2年

・インターハイ兵庫県大会 1500、5000〇〇
優勝

・インターハイ近畿地区大会 1500〇〇 優勝

・下関インターハイ 1500〇〇 2位

・国民体育大会（富山県） 1500〇〇 2位

・県駅伝大会で柏原高校チーム 〇〇 第5位入賞

高校3年

- ・春の陸上サーキット・リレーカーニバル（神戸・王子陸上競技場）50000〓優勝
 - ・同右のリレーカーニバル 16000リレー〓優勝（メンバー〓山下文隆・谷垣忠廣・里雅行・里勝安）
 - ・インターハイ兵庫県大会 800〓優勝 1500〓優勝 5000〓2位
 - ・インターハイ近畿地区大会 800〓2位 1500〓3位
 - ・東京インターハイ 1500〓3位
 - ・国民体育大会（東京都）1500〓優勝へタイム4分0秒5 大会新記録
 - ・県駅伝大会で柏原高校チーム〓第4位入賞（里君は第1区区間賞獲得）
- 当時、兵庫県高校陸上競技の長距離は、姫路・飾磨工高が中心的存在であったが、里君はこれに臆することなく堂々と競い合う活躍で、母校の名を確固たるものにした。高校3年の秋の国体では、陸上の格闘技と云われる1500mで優勝し、念願の全国の頂点に立った。

高校時代で特に記憶に残るのは、2年の下関インターハイである。5000mのレースで足をスパイクされ、痛々しい包帯姿の帰校であった。この怪我は、その後の選手生命に悪影響を及ぼすのではと、心配されたが杞憂に帰したのは幸いであった。

また、当時、読売新聞社主催の西日本縦断府県対抗駅伝（下関↓大阪間）があったが、柏原高校から里勝安、山下文隆の両選手が、兵庫県チームの高校生区間に起用され活躍した。

3 早稲田大学時代から神戸製鋼まで

里君は、早稲田大学へ進み、高校時代の良きライバルであった岩下察男選手（宮崎）は中央大学、黒田栄次選手（埼玉）は東京教育大学（現・筑波大学）へと進み、3人は大学でも関東学生陸上、インカレ、日本陸上選手権、箱根駅伝等で常に競い合う良きライバルであった。

里君の主な成績は、次のとおりである。

日本陸上競技選手権

・昭和36年1500m 3分58秒0 優勝



第39回箱根駅伝大会 往路2区 早大・里勝安(2年)、区間2位の記録で6位から3位へ押し上げた(1963年1月2日)

東京―箱根間往復大学駅伝競走

昭和39年1500m 3分54秒9 第3位

・1年 復路第9区(24.7キロ) タイム11時間25分29秒 チーム成績12位

・2年 往路第2区(24.7キロ) タイム11時間18分45秒 チーム成績10位

・3年 往路第2区(24.7キロ) タイム11時間18分37秒 チーム成績7位

・4年 往路第5

区(24.7キロ)

タイム11時間

32分01秒 チーム

成績6位

※4年時は早

稲田大学競走部主

将を務めた。

実業団・神戸製

鋼では、関西実業

団駅伝等で活躍し

た。

4 五輪聖火最終ランナーの候補

里君は、昭和39年に開催された東京オリンピック大会の聖火最終ランナーの候補に挙がったとされるが、広島への原爆投下の日(昭和20年8月6日)という象徴的な日に、広島県三次市で生まれた、早大の後輩・坂井義則選手が栄光の聖火最終ランナーに決まった。坂井氏のプロフィールを見てみると「……オリンピック組織委員会は他の選手に決まっていた聖火最終ランナーの地位を、象徴的な日に生まれた坂井義則に託した……」とあり「決まっていた他の選手」とは、里勝安君のことをいうのだろうか……、残念ながらそれを知る術がない。(坂井義則氏平成14年9月逝去 享年69歳)

5 今も忘れ得ぬこと

① 中学三年の郡駅伝大会は、我が青垣中学に三連覇の夢があり、コーチの教師から「もし、君達が三連覇すれば優勝旗が取り切りになる」と言われ、練習に励んだが里君の激走の前に完全に夢は打ち砕かれ2位に終わった。大会終了後、コーチの教師は「彼

は、5200mの最長区間を、まるで1500mを

走っているかの速さだった」と感嘆されたのが忘れられない。この駅伝で丹波新聞社から区間賞のメダルを授与された三年生は、1区山下文隆（東中）・

3区徳田直三郎（青垣中）・4区（拙者）・5区里勝安君の4人であったが、最も身体を鍛え込んだはず

の里君が一番先に鬼籍に入るとは、天のいたずらと思えない。幸い他の3人は平穏な余生である。

② 昭和34年の晩秋、当時、明石市在住であったベル

リン・オリンピック（昭和11年）長距離で鳴らした名選手「村社講平氏」が、柏原高校グランドで特別に里君をコーチされた。里君にトラックを周回させるとともに、そのときすでに五十台半ばになっておられた村社氏自身が、予め宣告したタイムでピタリ、トラックを1周され、依然衰えない健脚に見守る我々が驚く一幕もあった。姉崎岩藏校長先生、コーチ・植田憲雄教師はじめ、在校生がグランドをぐるりと取り囲む中、村社氏は講評で

「彼が東京オリンピックの卵には違いないが、代表選手になるかどうかは、これからの成長にか

かっている」

と申されたことが印象的で、見守る者一同、その言葉に大きな期待を抱いたことが忘れられない。

（注）・里君は、オリンピック強化選手に指定され、最終選考会まで出場したが惜しくも敗退し、期待した日の丸のユニフォーム姿の雄姿を見ることは、残念ながら叶わなかった。

・村社講平 平成十年七月逝去（享年九十二歳）

③ 里君が実業団神戸製鋼に所属した時期、私は神戸市内J.R六甲道駅前の和食店で、偶然、彼と再会を果たした。親しく談笑する中で、箱根駅伝に話しが弾み、次のようなことを聞かせてくれた。

「早大4年の時、往路の難関・第5区箱根の山登りを誰が走るか決める段階で、険しい山登りを嫌って、誰も手を挙げないため、結局、自分（主将）が走らざるを得なくなり山登りに挑んだ」と、當時を懐かしむように語ってくれた。彼との

再会はこれが最初で最後となった。

④ 里君の陸上競技歴を振り返ってみると、中学2年

の時は、前述のとおり青垣町遠阪から同町佐治までの第1区を走り区間賞に輝き、中学3年では、青垣中学校のグラウンドで開催された郡中学陸上競技大会の長距離2種目の優勝を成し遂げた。日本陸上競技選手権の覇者に輝いた里君は、私の故郷「青垣」の地から巣立って行ったのだと思うと、なぜか私まで誇らしい気持ちにさせてくれる。

6 おわりに

私は里君と、柏原高校で三年間、同じクラスで机を並べたが、彼は新聞に名前が載る有名人になっても、決しておごるような態度もなく謙虚で誠実な高校生であった。私は、常々「里選手は丹波市にとつて百年に一人出るか出ないかの名選手でないだろうか」と申し立てているが、来年は里勝安君の生誕後、八十年目の節目になる。彼に続き日本陸上競技界で、大活躍する丹波市生まれの選手が出るのを待ち望むのは私だけではないまい。

里君は、陸上競技の一線を退いてから、石生郵便局長として地域に貢献していたが、2000年11月、二

十一世紀を目前にして、残念ながら病により永眠した(享年58歳)。

また、陸上競技の選手であった実弟・雅行氏も、亡き兄の後を追うように早世したのは、思いもしないことであった。今は亡き里兄弟の御冥福を心からお祈りし、本稿の結びとさせていただきます。

以上

(参考文献)

- 日本陸上競技連盟七十年史(県立神奈川図書館蔵)
- (日本陸上競技連盟)
- 東京オリンピッククへの鎮魂歌(岡 邦行)
- 柏原高校百年史並びに創立一二〇周年記念誌(柏陵同窓会)
- 丹波新聞(氷上郡中学校駅伝大会の抜粋記事)(丹波新聞社)
- 読売新聞(東京)箱根間往復駅伝の抜粋記事(読売新聞社)

(昭和十七年生、青垣町出身/元さいたま地方検察庁事務局長)

丹波のまつり

全国でも珍しい流鏑馬やぶさめ

岡 吉明（朝霞市）



柏原八幡神社の秋の例祭（10月最終土日）は厄神さんに次いで、楽しく華やかな思い出のお祭りですが、我が柏原町南多田自治会は、神輿や、造花で飾りつけられた短冊の巡行に参加し、更にこの祭の最大の神事である流鏑馬を氏子として担当しています。

流鏑馬が行われるようになったのは鎌倉時代からと言われていますが、その起源は定かではありません。一方、文禄4年（1595）の八幡神社社殿造営記録には、例祭の記述はありますが、「流鏑馬」の記述はありません。しかし、元禄8年（1695）8



月15日付の織田家日記には流鏑馬が記録されています。

流鏑馬は武家社会成立後に定着した武家文化。柏原に武家社会が栄えたのは慶長3年（1598）の織田信かね包が柏原に国替えになった時に始まります。

織田家が八幡神社の例祭の儀式の一つに「流鏑馬」に関わりを持ったのではないかと推測されます。

南多田が流鏑馬を執り行うようになったのは、明治の初め、祭礼経費などの事情で廃止の話が出た時、南多田（当時は多田村）が引き受けを申し出たと伝



えられています。

丹波のまつり



流鏑馬乗り子は小学5年生で、腕白だった自分も出来るものと思っていました。父が戦死で片親だ

一般に流鏑馬は「的」が固定され、射手は馬を駆けさせながら矢を放ちますが、柏原の流鏑馬は離れた的と正対し、止まっている馬から矢を放ちます。

三個の的は固定せず、「的受け」役が放たれた矢を当てに行きます。当てた数が多いほど「五穀豊穰」につながるかとされています。

先ず大人が2本、騎乗の子供が1本の矢を放った後、乗子が乗った馬が的に向かって走りまわります。これを3回繰り返して、2回目、3回目も同様にして合計9本の矢を射ます。

だったので（当時・現在は不問）選から外れ残念に思った記憶があります。

他の地域にもあるかも分かりませんが先ず他ではない珍しい流鏑馬神事だと思っています。

* 柏原八幡神社

社伝によれば、舒明天皇の御代（629～641）に出雲連が入船山（八幡山）に素盞鳴尊（すさのおのみこと）を奉祀したのが創始と伝えられています。

その後、萬寿元年（1024）に入船山周辺の3か所から霊泉の湧出を奇瑞とし、後一条天皇の勅意により国家鎮護の社として京都の石清水八幡宮より御分霊を勧請し、丹波国「柏原別宮」として創建されました。

境内には兵庫県指定重要文化財に指定されている三重塔と釣鐘が現存し、神仏習合当時の景観を今日に伝える全国でも極めて珍しい神社です。

厄除けの神威が高く、毎年2月17日、18日に斎行する厄除大祭は「丹波柏原の厄神さん」と親しまれ全国各地より多くの参拝者で賑わい、17日深夜に執

り行われる「青山祭壇の儀」は日本最古の厄除神事
で、往古の道饗祭みちあえのまつり、疫神祭えきじんさいの遺風を今に伝えていま
す。

●御祭神

誉田別命（応神天皇）

息長帯比賣命（神功皇后）

比賣命（多紀理比賣命、多紀都比賣命、市杵島比
賣命）

●社殿

現在の社殿は天正13年（1585）に羽柴秀吉に
よつて再々建されたもので、三間社流造りの本殿に
入母屋造の拝殿を接続した複合社殿です。

この建築様式は「権現造」の先駆けとなる建築様
式として貴重で、大正2年に特別保護建造物に指定、
現在は国の重要文化財に指定されています。

●三重塔

現在の三重塔は文化10年（1813）〜文化12年
（1815）にかけて建立されたもので、全国で神
社に塔が現存する18例の1つに数えられる貴重な建
築です。

現在は兵庫県の指定重要文化財に指定され、古来
より柏原のシンボルとして親しまれています。

*流鏑馬（鏑流馬、やぶさめ）

疾走する馬上からの鏑矢かぶらやを射る、日本の伝統的
な騎射の技術・稽古・儀式のことを言う。馬を馳せ
ながら矢を射ることから、「矢馳せ馬やばせうま」と呼ばれ、
時代が下るにつれて「やぶさめ」と呼ばれるように
なったといわれる。

現代では、武田流や小笠原流などの流派が古来か
ら伝承する流鏑馬や、各地神社の神職や氏子または
保存会などに受け継がれた流鏑馬が、儀式や祭典と
して実施されている。その他、馬上弓術をスポーツ
競技として規格化したものや新造の馬上弓術の儀式
が、流鏑馬と称され実施されている。

参照 ふるさと南多田風土記（南多田自治会発行）、

丹波市観光協会広報（ホームページ）

（柏原町南多田出身 旧姓松下、PCC大洋）

姿を消した藩校、 郡役所の建物

萩野 祐一

(丹波新聞社社長)

『柏原高校百年史』にこんな記述がある。「氷上の人の向学心と質実剛健の気風をもたらしたのは、8代藩主・信敬と儒学者・小島省齋であった。この二人を抜きにして、「教育の氷上郡」を語ることはできない」――

氷上郡は、山間の地にありながら古くから教育に熱心だった。そんな「教育の氷上郡」の礎を築いた信敬と省齋の二人に関わりの深い木造の建物が2007年、柏原から姿を消した。解体されたのである。解体された部材は今、柏原町上小倉にある丹波市所有の物品庫に眠っている。正確に言うと、この原稿を書いている7月末の時点では「上小倉物品庫」で保管されているが、この物品庫が業者に売却されることになったため、8月には青垣リサイクルセン

ターに移される。

そんな「流浪」を余儀なくされたこの建物について『山ざる』誌上に書きとどめておきたい。この建物は、安政5年(1858)に開校した柏原藩校「崇広館」であり、明治に入ってから氷上郡役所として活用された。江戸末期から明治の時代、教育と行政の中枢を担った貴重な建物なのである。

名君とうたわれた柏原藩主の信敬は、藩校の「又新館しんかん」を開いた。しかし、わずか18歳で死去。次の藩主、信民の時代になって「又新館」は廃校となった。このことを憂えたのが省齋だった。

省齋は文化元年(1804)、青垣町佐治の煙草商の家に生まれ、母ひとり子ひとりの赤貧の中で育った。向学の志を抑えられず、23歳にして京都に出て、3年間、学問に励み、帰郷。佐治で塾を開いた。その評判は柏原藩主の耳に届き、柏原藩儒として採用された。藩の財政改革などを進める一方、藩を担う人材を育成するため教育の必要性を藩主に説いた。豊かな見識に加え、「丹波聖人」とも言われたほど

に高潔な人格の省齋に心酔した一人が信敬だった。

省齋と同じく、子弟の教育に前向きだった信敬の遺志を受け継ぐべく、省齋は、藩主・信民に藩校を復活するよう進言し、安政5年、崇広館が開校した。校名は、易経の「崇徳廣業」から採り、柏原藩陣屋の北西隅（現・県柏原総合庁舎テニスコート）に建てられた。

弱小の藩で、財政の窮迫していた柏原藩である。藩校の開校は容易ではない。それでも藩校を建てる



明治後期頃、移築前の旧崇広館の建物が写っている写真。2階部分の見える左端の建物が旧崇広館。

という美拳に共鳴した領民たちが義援金を出し、資材を提供し、あるいは自ら労力となって「崇広館」がたち上がった。

明治初期の古絵図を見ると、崇広館は平屋の

木造で6室あり、襖を取り外すと一つの大広間になったようだ。濡れ縁を周囲にめぐらせた。崇広館の前には、省齋が名づけた「尚徳門」という門があった。

10歳以上の藩士の子弟らが通った。督学、教授、助教、句読師の職制があり、四書五経などの素読を中心に学んだようだ。省齋も講義をすることがあったろう。そんなとき、子弟たちは省齋から直接、学べるにあつて胸をはずませ、尚徳門をくぐったに違いない。

明治4年（1871）、廃藩置県により藩校としての存在には終止符が打たれるが、明治6年2月6日、崇広館で「崇広館小学校」の開校式が挙行された。

今の柏原町内だけでなく、石生や山南町の上久下地区も学区とし、6歳から入学でき、女子も学べた。15歳以上であつても志のある者は入学が認められた。門戸は広いものの、相当な学費を支払わなければならない。そんな壁があるにもかかわらず、231人もの子供たちが入学した。これだけの大量入学があ



解体前の旧崇広館（旧水上郡役所）

建物や敷地を購入し、校舎に充てた。同時に崇広館小学校は、崇広小学校へと改称した。

明治11年、郡区町村編成法が制定された。これにより、これまでは単なる名称に過ぎなかった「郡」が行政区となり、郡役所が置かれることになった。翌12年1月、小学校校舎だった旧崇広館が水上郡役所として生まれ変わった。余談だが、旧崇広館の所在地は「柏原町1番地」だった。番地からも柏原の

つたのは、教育を重んじる風土があったためと言えるだろう。

とても旧崇広館だけでは生徒を収容しきれないため、当時、

水上郡を治めていた豊岡県から柏原藩陣屋跡の

中心であったことがうかがえる。

水上郡役所には、郡長の下に庶務、学務、勸業、衛生、兵事、租税、出納の各係が置かれ、郡長の指揮にしたがって郡内の行政事務を執行した。明治15年には2階部分が増築された。1階の和風建築と同一化するようしながら、明治期の流行であった洋風建築を取り入れた。1、2階合わせて330平方メートルの広さがあった。

このときの水上郡長が、「明治の鐘ヶ坂トンネル」や阪鶴鉄道の開通などに尽くし、「丹波開発の父」と言われた柏原町出身の田艇吉である。艇吉は明治12年、県会議員に当選。当時は、県会議員を地方官に採用する方針だったことから、同年10月、2代目の水上郡長となった。27歳だった。艇吉も省斎の教え子の一人である。

艇吉は明治23年2月までの10年4カ月間、水上郡長を務めている。「明治の鐘ヶ坂トンネル」の工事にかかったのが明治13年12月であり、完成したのが16年なので、艇吉はこの郡役所で難事業の指揮を執ったことになる。郡長としての艇吉の功績ははなは

だしいものがあり、郡長を退いた後の明治24年には衆議院議員に当選している。

明治22年、町村制が施行された。自治体が成立したのに伴って各町村に役場が置かれ、町長や村長が登場した。小さな地域に町村長がいて郡長もいるという二重行政のシステムが生まれた。そのひずみが高じたためか、大正15年（1926）の地方制度の改正で郡長が廃されることになり、氷上郡役所はこの年、廃止となるのだが、旧崇広館を郡役所として



「上小倉物品庫」に保管されている旧崇広館（旧氷上郡役所）の建築部材

活用したのは明治41年までであった。今のたんば黎明館にあった郡立病院が、郡役所の建物に移ることになり、押し出される形で郡役所は明治41年、柏原大手町にできた新庁舎に移った。余談だが、郡

立病院はこの年、町立柏原病院に変わった。

崇広館として生まれた建物は、郡役所、町立柏原病院となったのち、キリスト教会となった。昭和9年（1934）には、隣接の柏原高等女学校の講堂建築のため、用地を譲り渡すことになり、柏原・大手通りに建物を移築。その後、統計調査事務所、ことばの教室などに活用された。そして、旧崇広館の建物がたつていた地に現在の法務合同庁舎を建築するため解体することになり、安政5年、藩校として開校以来、“住居人”は変遷したものの、姿をとどめていた旧崇広館の建物はついに消え失せた。

兵庫県内で現存している藩校の遺構は、姫路林田藩の敬業館（姫路市）と姫路藩の申義堂（高砂市）の2件しかなく、全国的には20件ほどという。また、現存する郡役所の遺構は県内で、出石郡役所（明治20年建設）、神崎郡役所（明治19年建設）、美方郡役所（明治27年建設）、三原郡役所（明治25年建設）の4件。藩校、郡役所ともに希少であることがわかる。

丹波市議会の広報紙7月号（2021年）に、旧崇広館の建築部材が上小倉物品庫から移されることをめぐって6月の総務文教常任委員会と議員と市教育委員会との間で交わされた質疑応答が掲載されている。それによると、議員からの「そもそも文化財としてどれほどの価値があるのか。活用する予定がないなら保管しなくてもよいのではないか」との質問に、教育委員会は「『崇広館は藩校建築として貴重である』と丹波市文化財保護審議会からの答申を受け保管しました。昨年度末に開催した同審議会でも『保存しておくだけでも価値がある』との意見を受けたところです。具体的な文化財の活用方法については、これまで十分な検討ができておりませんでしたので、今回の移転を契機に文化財の価値を再度検証し、活用の方向性を検討します」と答えている。藩校としての価値、郡役所としての価値。二つの価値を併せ持った建物が貴重なものであることは言うまでもない。教育委員会の答弁にあるように、文化財としての価値を検証し、活用の方向性を検討していただきたいものだ。



撮影・岡 吉明

山ざる研究

四代にわたる江戸時代の 香典帳

徳田 八郎衛（浦安市）



柏原町母坪はつばの土蔵から江戸時代中期より明治初期に至る四代・五人の香典帳が現れた。

①宝暦7年（1757）二世八郎兵衛、行年61歳

②安永6年（1777）二世妻、新郷中町の出、行年

73歳

③文化2年（1805）三世八郎兵衛、行年71歳

④文化12年（1815）四世妻、稲畑の出、行年34歳

⑤明治16年五世八郎兵衛、行年84歳。幕末に堺で南蛮

貿易に携わり、明治初期に庄屋を務めた。

現在までに判明した概要は次のとおりである。

1 参列者の数と地域分布

二世の記帳者がほぼ230名で一番多い。同伴者も含めれば参列者は300名以上か？隣接する田路、稲継、見田（明治以降は大字稲畑に編入）等に加え、加古川下流の谷村・小野・野坂等からの参列が多い。妻が新郷出身なのに新郷からは8名で谷村は30名、小野は14名である。これは加古川水運を通じてのご縁なのか？それとも徳田家の血縁がたまたま多いのか？そこで過去帳で婚姻関係を見ると、一世妻は小野、三世妻は成松が出所で、二世五女は谷村、三世長女は小野へ嫁ぎ、柏原や黒井でなく加古川流域に血縁が多い。だから解答は「両方」であり、加古川流域との交流が進んだので、そちらとの婚姻関係も深まったといえるだろう。

とはいえ半世紀後の三世や四世妻の葬儀では下流からの参列は減り、逆に柏原や成松からが増えている。「以前は8艘の高瀬舟が母坪へ入港していたが、昔のことである」と記す丹波志（1794年刊行）も、何時からそうなったかを記していないが、二世が活躍していた18世紀前期は未だ母坪へ高瀬舟が来ていて、交流も深かったのではないだろうか。

ところで二世には4里離れた播磨国多可郡黒田庄船

町（今の西脇市）や7里離れた加東郡滝野村（今の加東市）からの参列もある。二世の時代での交流の深さを物語るともいえるが、二世没後も、その妻の葬儀には船町から二人も参列し、下流からの参列がさらに減っていく三世や四世妻の葬儀でも二人参加は続くのだ。もう港は無くなっても、流通業者として徳田家、あるいは二十五戸の小村である母坪村が強い絆を田高船座の所在地、船町（舟町）と保っていたことになる。「武士の家計簿」ならぬ「商家に変身していく農家の家計簿」である大福帳も土蔵から沢山出てきたので、農村経済史に興味を持つ研究家の解析を待ちたい。

なお故人の経歴も参列者に反映する。五世は、働き盛りの年代を堺で過ごし、安産の妙薬「安枕散」のパテントを買い取り、製薬業者となつて明治初期に帰村した人なので加古川流域からの参列者は少ないが、大阪や三田からの参列は多かつた。

2 香典とお供え

驚くのは香典やお供えの質素さである。近隣の村（といつても今の自治会単位）からの参列者は申し合させたように3文だ。庄屋や年寄でも同じ額だ。今の



播州滝野村からミカン60個とタラコ10セットのお供え

百円か？米やみそ、練香等の実用的なお供えに加え直ぐに役立つ煮しめもある。「香典なし」も村と名前を堂々と残す。おおらかな時代だ。幕末になると酒も登場する。

無理してするのは？

と気になるのが、母坪村の方々。最低でも銀札3〜5匁。今の5000円以上だ。出費の多い冠婚葬祭を助け合う慣習なのか？「株内」と称する同族だと、さらにお供えが付く。もつと大変なのは新しい親戚だ。筆者が大学へ入学した際、礼儀正しい学生がやってきて、「工學部の浅香といいますが我々は親戚なのです。出身は市岡高校ですが郷里は谷村。大昔に徳田家から嫁いできています」と述べたが、二世の六女が嫁いだ谷村・浅香喜右衛門は、米5斗と銀数匁をお供え下さつた。若い者に大八車を曳かせて参列したのだろうか。米の生産地とはいえ5斗だと今の2万円強だ。

他にも豪華なお供えはある。播州滝野村から二世へ

の五郎兵衛と浅右衛門のお供えは、瀬戸内から来たミカン60個と北国のタラコ10セットだ。数万円に相当するだろう。

香典の総額は如何ほどか。会計報告は記されていないが、中間報告が載っている。二世の場合、ほぼ2・3にあたる155人目で中締めがあり、銭5貫37匁2分7厘、銭札4匁2分(藩札であろうか)と記されている。金1両が銀60匁及び銭4貫文(4000文)に相当し、ある史家によれば現代の16万円の感覚ということから、銅銭だけでも20万円相当が集まったことになる。高額なのは銀札であるが、銀1包と纏められているので額は判らない。お供えの米は1石5斗7升に達する。二世妻の場合も同じく155人目で中締めがあり、こちらは銅銭については不明だが、銀札は99匁9分、即ち約100匁。史家により評価は26万円だったたり40万円だったりと様々だが、かなりの額といえる。

3 地名の考察

「どの旧家にも香典帳は残っているだろう。比較したい」と思ったが、「そんな家は滅多にない」と郷土史家がいう。会津・松平家や京都・冷泉家の当主に

伺っても「武家や公家にも香典帳など残っていません。お大事に」との仰せである。丹波市教委にお預けしたが、光秀や俳人の話でないと誰も見向きもしない。

筆者に民俗学の素養はないが、地元民だから地名の考証はできる。二世の葬儀と二世妻以降の葬儀で明確に違うのは、小字への愛着だ。新郷と記帳したのは二人だが、大路新郷が二人、新郷大路が一人いる。小字を上につけるのは奇妙だが、よほど愛着が強いのだろう。同様に谷村朝日と記さず、朝日とだけ記す人もいる。困るのは大森で、新郷大森なのか谷村大森なのか判別できない。逆に大字の新郷への愛着で新郷谷村と記す人もある。赤井一族の武將、谷氏が要求して新郷の半分を領有した結果、谷村が誕生してから200年経つのだが。

「新郷上市ハ」とあるのは新郷上市場のことらしい。「たい」とあるのは田井であり、氷上町加茂の小字の北田井、南田井、西田井のどれかであろう。「尾髭村」と村までついているが、南多田の小字である。戸数は18戸の見田村にも谷屋という小字があるが、そこから参列者も小字だけを記している。

西町とあるのは、成松の小字の一つである。また柏

原には早くも新町が登場し、柏原新町という記帳がある。また和田村は商業的にも活発な地域だが、堂々と和田町と記されている。一方、「村」と記するのは「母坪村」のことだが、「町」と記された人もいる。新郷に「町」という小字の存在を沼貫村史は伝えるが、どこの街なのかよく判らない。

ところが小字に愛着を持つ人々は、二世妻の葬儀以降では消滅する。意識の改革でもあったのか？ 柏原藩等の公的史料だけでは知ることのできない現象である。

4 寺院の興亡

菩提寺の青蓮寺（水上町横田）や曹洞宗で水上郡内筆頭寺院の圓通寺（同御油）以下、近隣の曹洞宗寺院の住職が参集しているが、今も存在するのは宝光寺（同稲畑）、仏現寺（同大崎）、無量寺（同小野）、瑞雲寺（青垣町東芦田）ぐらいで、稲畑、稲継、谷村、中山等の曹洞宗寺院は消滅している。維新後の廃仏毀釈に伴う寺院興亡は、仏教界自身も触れたくない悲劇であろう。だが代々の香典帳には、遠い春日町中山の魯通寺を招聘したことが記されている。二世葬儀の場合だと、僧侶運搬に人足6名が派遣され600文が支払



各寺院への布施

われた。人件費が安い当時のこと、2千〜3千円程度の日当で駕籠を輪番で担ぎ、法具も運んだのであろう。

では寺院への布施は？ 写真に見る通り青蓮寺へ銀1匁（1200円程度？）、宝光寺等へは銀5分（600円程度？）と質素だ。但し仏具を運ぶ人足は付けている。歴史小説家の伝える江戸の物価とは異なることが判る。

香典帳解読に徒手空拳で挑んだ筆者は、書家の藤原ひさ子会員には並々ならぬご指導を頂いた。また地名に精通した郷土史家の上島成和様にも数々のご教示を賜った。併せて御礼申し上げるとともに、松倉や上滝大阪や京都から遠路参列下さった方々へも先祖に代り「かたじけない」とお伝えしたい。

（終り）

（満州奉天市生まれ／柏原町出身／元防衛省勤務／（財）平和・安全保障研究所客員研究員）



■郷土について書かれた本

文藝春秋特別編集

半藤一利の昭和史

文春ムック（2021年3月10日刊）

定価本体1500円＋税

半藤一利氏は、昭和史の語り部の第一人者とされ、自らも昭和20年3月10日の東京大空襲に遭い、ただ逃げ惑うしかない経験をしている。令和3年1月12日90歳でその生涯を閉じた。

御逝去を惜しんで刊行された本書では、昭和6年9月18日奉天郊外で起きた南満州鉄道爆破事件から終戦の昭和20年8月までの昭和の戦史を貴重な秘蔵の写真とともに説き起こしている。



柏原町木の根橋付近

昭和12年暮れの「南京陥落」を祝う写真の中に「氷上郡柏原町の祝勝」として切り込み写真（66頁）がある。柏原町の木の根橋で幟と日の丸の小旗で祝勝する群衆が写されているが、故・半藤一利氏は、一地方の貴重な写真をどのような経過で秘蔵されるようになったのだろうか、と問いかけてみたくなる一枚である。一人ひとりの顔までは特定できないが群衆の中に今も健在の方が居られるのだろうか？それは何人

だろうか？と限りなく興味を駆り立てられる。旧・柏原町役場庁舎と楠の大木もはつきり写っており、いかにも歴史を偲ばせるセピア色の懐かしい写真である。

本書にはそのほか「半藤一利氏の鑑定つき『昭和人物列伝』」の項に、海軍中将・大西瀧治郎（丹波市青垣町出身）の解説が掲載（128頁）され、さらに「半藤一利と東大生の対談」記事（155頁）の中にも、大西瀧治郎と特別攻撃隊について語られている（157頁）。

（足立敏昭）



撮影・岡田昌子



■郷土について書かれた本

保坂正康著

陰謀の日本近現代史

朝日新書 (2021年1月30日刊)

定価本体890円+税

著者は、ノンフィクション作家で「昭和史を語り継ぐ会」を主宰。必敗の対米開戦を決定づけた「空白の一日」、ルーズベルトが日本に仕掛けた「罨」、大杉栄殺害の真犯人、瀬島龍三が握りつぶした極秘電報の中身―等、歴史は陰謀に満ちているとして昭和の戦争を中心に明治以降の重大事件の裏面を検証し、真実を明らかにしている。

書中の、第4章「歴史の闇を照射する」記録と証言(6)大西瀧治郎はどのように「特攻の責任者」にされたか(282頁以下)、において、著者は、海軍中将・大西瀧治郎(丹波市青垣町出身)の考え方やどのような行動を取ったかについて詳しく述べている。大

西は、最初特別攻撃隊を「統率の外道」と評していたように、この作戦がいかにか戦略に反しているかよく知っていた。大西に全責任があるかのように話しを作り上げるからくりとそれが流布されていることに極めて作偽的な動きを感じてならないとしている。特攻作戦は、大西瀧治郎によって発案され、実際に実行されたという神話である。確かに大西は積極的はこの作戦を進めた一人ではあるが、大西の意向だけではこの作戦が全て行われたわけではなかった。むしろ大西は声が大きく、そして戦後になってその責任を取って自決したが故に大西に責任を押し付けるような形での物語がつけられた、と詳細に当時の動きを時系列的に解説している。

最後の結びで、特攻隊慰霊顕彰会は、特別攻撃隊での全戦死者数は海軍が4156人、陸軍は1689人とし、この中には特攻隊員としての訓練中に事故死した者も含まれるとしているが、

本書では体当たり攻撃を行ったと思われる航空特攻での戦死者は海軍が2431人、陸軍が1417人、合計3848人が体当たり攻撃を行った隊員の総数と結論付けている。

海軍中将・大西瀧治郎と特別攻撃隊の関係を、海軍内の動きの面から知る上で、是非一読してみたい本である。

(足立敏昭)





■会員が書いた本

石橋順子著

東男に京女、

峠の茶屋でひと休み

朝日新聞出版 定価本体1500円＋税

『月日は百代（はくたい）の過客（くわかく）にして、行（ゆき）かふ年も又旅人也。』で始まる『おくのほそ道』は紀行文学の頂点をなす作品であるが、本書も又、著者の人生の旅の年月を振り返ったある種の紀行文になっている。芭蕉翁は、人を漂泊の旅に誘う神々、すなわち『そぞろ神』にしっかりと取り憑かれていたが、翁を畏敬する著者も又、三歳の娘を義父母に預け、夫を置いて英国にひと月語学留学したり、六十代にして再び英国に語学留学でホームステイに行く等、なにがしか、『そぞろ神』の影響を受けている様に思える。

ただそれは又、若い頃から生き方に

憧れていたと言う、7人の子供を置いてシベリア鉄道でパリの夫の元に行つた与謝野晶子とも相通じるエネルギー

でひと休み』は『はじめに』に出てくる話から来ているが、著者のストーリーテラーとしての才能を感じさせ、読者をいつ気にも本書に引き込む出だしで秀逸である。団塊の世代として丹波で

生まれ、時代の変遷の中でしっかり足元を見つめ、学生運動が吹き荒れた学生時代、結婚、子育て、夫の転勤に伴う家族でのドイツ、フランスでの生活を経て、英語教師という天職を得、時代の中でどのように行動し、何

を考えて生きて来たかが素直に綴られている。

特に一章を割いている高校教師としての部分は、学校生活での教師と生徒が生き生きと語られていて興味深い。著者の教師として高校生を見る目は優しく、常に若い人と共に居るといふ事、それだけで柔らかな頭と若さを保つ秘訣かもしれないと思わせる部分でもある。

内容は古典から料理、新型コロナ禍での生活まで多岐に渡り、読み手を飽きさせない。学ぶ姿勢、幅広い視点、古典への理解、物事の見方、心の整理の仕方等々、良い本に出合えたという読後感がある。例えて言えば、波瀾万丈の石井好子さん、潔く背筋が伸びていた沢村貞子さん、肩ごしに覗き込むと言われた向田邦子さん、人生諸般への鋭く心ある洞察を見せた白洲正子さん等の随筆を彷彿とさせる一冊である。



(山口敏之)



■会員が書いた本

安井孝一著

2035年「ガソリン車」消滅

青春出版社 定価 本体9,000円＋税

車とは縁遠いライフスタイルでした。後期高齢者になって早々に、免許返上したほど。

この書評の依頼を受けてすぐ、「断らなければ」と思ったのですが、ふと名案を思いつきました。私が関わるNPOの会員（いずれも70歳代男性）から感想を募ってみようと。お得意の「人の輝で相撲を取る」というスタイルです。ご寛恕ください。

この書評を読んで、「ガソリン車消滅」を読んでみようと思われる方が一人でも多く出ることを願っています。

(上 高子)

「未来社会への道を示す」

単なる自動車業界の話ではなく、未来の「真のグリーンモビリティ社会」への道を示していて非常に刮目に値す

る。トヨタの「ウーブン・シティ」構想などは一企業に任せるのではなく、省庁縦割りを排して国家事業として大規模にやるべき実験ではないか。できれば、業界のみならず国として世界のリーダーシップをとれなくなる恐れがあると案じる。2035年には、カーボンニュートラルは果たして実現出来て地球を救えるのか、その先どんな社会が待っているのか？何とか生き残り、見たいものだ。（鈴木一美さん）

「GS車消滅に備える啓蒙書」

脱炭素社会を目指すために、最大限再生可能エネルギーを導入し、ガソリン車の消滅に備えることを啓蒙する当書を歓迎する。一方、人と自然の共存社会を目指すのに、自動車のさらなる普及と発展は必要なのか、と疑問を持つ。近年の環境破壊の現実の前には、脱成長社会への移行へ切り替えるべきでは、と思っている。（奥山正昭さん）

「良書に出会え感謝」

カーボンニュートラル実現を目指し、自動車用新動力の開発はいかにあるべ

きかを客観的視点から論じたもの。白黒二元論ではなく、多面的な思考が意思決定に役立つとの筆者の考えに与する。最たる懸念は国の電源開発である。カーボンニュートラル実現には、すみやかに火力発電依存から脱却し、エコ電源化を急ぐべきである。良書に出会えて感謝。

(元自動車会社勤務・松野芳夫さん)

「さながら吉川三國志」

行間から、エンジニアの苦闘や窮地に立たされた経営者の息遣いが聞こえてくる感じがした。活写された自動車業界の生き残りの戦いから、さながら吉川英治の「三國志」を読んでいるような読後感を味わった。経歴からは、所属する部署は異なるが10年近く同じ職場の後輩のよう。私は社を定年退職後八ヶ岳山麓で畑を耕しながら、人里離れた田舎暮らし。頼りは廃車寸前のオンボロ車。自動運転の車があれば、と交通弱者に転落したわが身をなげいて、嘆息をついたものだった。

(元朝日新聞記者・松浦康彦さん)



■郷土について書かれた本

上島成和著

古文書の語る加古川の舟運

本書は私費出版であるが、丹波市立中央図書館をはじめ兵庫県下の主要な図書館で閲覧できる。江戸時代初期から明治末期までの400年間、加古川水運を最上流で担った氷上町本郷育ちの著者は、平成7年に教育界から退職するや、加古川水運の研究に没頭する。不思議なことに膨大な「本郷村区有古文書」に肝心の本郷船座や舟運関係資料がないのだ。著者は400年間の瀧野船座支配人阿江家へ向い、元和9年(1623)以来の阿江家文書が小野市好古館に保管されているのを知る。

奥地の領主の都合だけでなく、産物を都市へ運びたい民の願いもあったことを実証する。

次に「本郷川の開発と舟座」では、本郷船座が独立したものでなく、下流の田高船座(舟町)の出先機関と見るべきと史料から説く。この後は本郷船座からは離れ、田高・瀧野両船座の運営や多可郡荷主と瀧野船座支配人との葛藤が記される。生野銀山や多可郡銅山の鉱産物も、この舟運で搬出されたのだ。

「筏座の分裂」では、田高船座が船座と筏座に分かれる背景が描かれる。この筏座の運営を先ず請け負ったのは多可郡の下新田村と船町村の百姓だが、やがて氷上郡の小野村や上新庄村の百

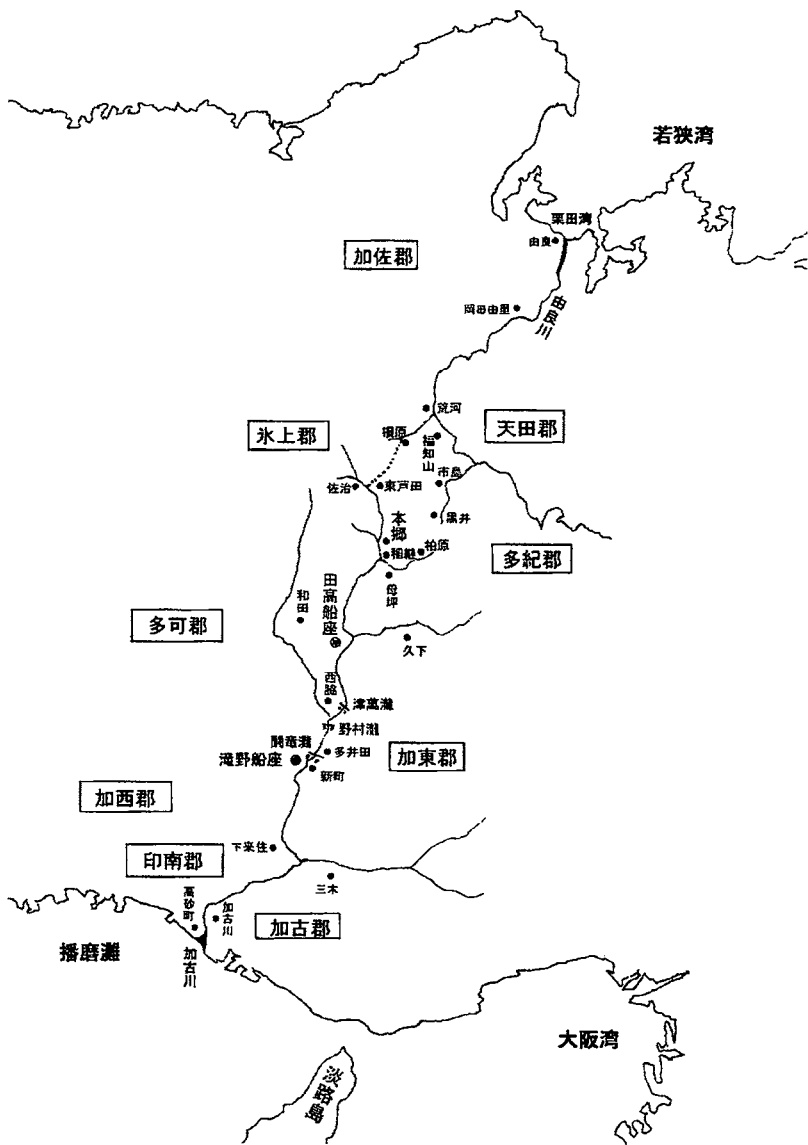
姓も加わる。

氷上回廊を利用して南北を結ぶ構想で丹波人に馴染み深いのは、明治初期に多可郡の村上清次郎が提案した「氷上回廊通船運河開削計画」であるが、著者が追うのは18世紀初頭、事業家、岡本善八の説く「天田郡榎原村―氷上郡東芦田村間だけは陸送し、後は由良川・加古川の舟運を利用して北国米を大阪へ運ぶ」計画だ。通説では岡本は大阪商人だが、この事業のために大阪へ移った江戸商人と著者は看破する。計画倒れとなったのは、米価の下落が続き、通船計画への投資が回収できないからだと見る。その裏には、日本海沿岸へも出向く史料収集と解説があったのだ。

評者の柏原高校化学班先輩である著者に、教員免許の教科を問うと数学であった。古文書に取り組む人に理系が多いとのことである。

(徳田八郎衛)

古文書の語る
加古川の舟運



図表-1 加古川・由良川舟運関係図

◆井本 京子

年末から大雪の便りがあちこちで聞かれ丹波の冬も案じられます。マスク生活で遠方の旅行もできませんが、東京は晴れの日が多くパンジーや早咲きの水仙など色美しく咲き心が和みます。料理好きの私は毎日のようにおいしい冬野菜を使つて調理してご近所や娘宅に届けたりしています。「山ざる」の記事は亡くなった主人にも読んであげるので。

◆影山 一恵

秋も深まつてまいりました。日頃は「山ざる」発行に一方ならぬご尽力を頂きありがとうございます。今般は「山ざる」にご掲載頂きありがとうございます。ごさいました。(編集注、51号文中31頁上段最初の行、「居して」を削除・失礼しました)お陰様で今回掲載して頂き友人から連絡があり情報が分かり感謝しています。「山ざる」の今後一層のご発展をお祈りしつとお礼のお便り

とさせていただきます。

◆喜田 綾子

一人での生活が困難になり、生まれ育つた西宮に帰りました。

◆木呂子 恵美子

先日はコロナで大変な中充実した「山ざる」を送つて頂きどうもありがとうございました。私は10月末から膝の手術で入院しご本を受け取つた御礼が遅れまして申し訳ございません。

◆近藤 利春

お世話になつております。最近地域のバス停をお掃除しています。少しづつゴミが少なくなつてきた感じがします。先日太平洋のプラスチック調査の新聞記事がありました。皆で出来る所から一つでも綺麗にしていきましよう。「一つ拾えば、一つだけきれいになる」と鍵山秀三郎言

◆坂上 登

2020年はコロナウイルスで明けコロナ禍でくれました。目に見えない細菌との戦いには如何に対応すべきか処方があります。せめて三密を避けマスクをして過ごす、ということになります。じつと我慢の暁には良き解決法が待っていることを期待して新しい年を迎えたいと思います。

◆正呂地 悟

関東氷上郷友会の皆様、コロナ恐怖の中如何お過ごしでしょうか？私は毎月定例となつていた横浜のお寺参詣がコロナのお陰(?)で全く動けず自宅に籠っています。飼っている猫達も外出禁止令でストレス大、家の中で運動会を行っています。コロナの早い終息を願いつつ近況の報告とします。会員の皆様のご健勝をお祈りします。

◆田中 一美

いつも「ふるさとの会」のご案内や

「山ざる」を送って頂きありがとうございます。失礼ばかりしてはいますが立派な「ふるさとのかい」があることを誇りに思っています。今年が開催されず本当に残念でございました。「山ざる」を興味深く読ませて頂きました。

◆中松 美年子

「山ざる」ありがとうございます。7月以前より考えておりました高齢者マンションに転居いたしました。都内とは違い2部屋の広い居室で、外出も自由で、職員の方も入居者の人々も穏やかで、転居してよかったですとおります。来春で90歳！まだまだ元気で7階の食堂も利用せず自炊しています。当分の間この生活を続けたいと思っております。まずは近況報告迄。

◆西川 宣孝

令和元年度の祝寿会ありがとうございました。いつも「山ざる」楽しく拝読しています。丹波で遠慮なく「東京

ナンバー」車を転がせる日を待ち望んでいます。

◆林 孝男

いつも楽しく、懐かしく読ませて頂いています。今回も徳田さんの写真や上高子さんの投稿を楽しく拝見させて頂きました。年会費と寄付金払い込ませて頂きました。

◆廣瀬 安伸

コロナ禍の現況から判断され致し方ありませんが、残念ですね。来秋の125周年記念総会で再会出来ることを楽しみにしております。郷友の皆さまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

◆山口 とき代

何時もご丁寧な諸連絡ありがとうございます。令和3年3月より山形県米沢市に転居いたします。宜しくお願いたします。

◆山口 敏之

8年半のオランダ単身赴任に別れを上げ、ようやく10月末に帰国いたしました。やっぱり日本が一番です。

◆吉見 弘文（阪神支部）

今年コロナ禍で全ての行事が中止され、皆様ともお会い出来ないことがとても残念です。来年はコロナが終息して125周年記念総会が盛大に開催されます事を祈念しております。そして元気に再会できますように。



撮影・岡田昌子

令和3年度柏陵同窓会東京支部の総会・懇親会開催の中止決定と今後の支部活動

令和3年度柏陵同窓会東京支部の総会・懇親会は、7月11日(日)に学士

会館の開催を予定していましたが、コロナ禍の蔓延拡大により無念にも前年に続き中止決定の判断となりましたので、ご報告いたします。

1. 令和2年度総会の突然の中止決定

令和2年は年初にコロナ禍が発生しましたので、東京支部の活動も本部・他支部と連絡を取りながら未知の事態に手探りの対応を行ってきました。会場の学士会館との情報共有など東京オリピックの1年延期報道など世間も横目に、慌ただしく4月の書面理事会に総会中止を提案し決定いたしました。年初までは7月の総会開催に向け幹事学年の皆さんと準備を進めて来ましたが、突然の総会中止を決定せざるを得ない事態になり支部活動は目標

を失い半年間の眠りに入りました。

2. 11月支部活動再開

中止決定から半年が経過した令和2年11月、幹事学年(26回)と正副支部長などで構成する役員会で眠りから目覚め、2年続く中止は回避しよう、を合言葉に知恵を絞って開催準備を進めることを確認しました。学士会館でもコロナ対応が進み、手洗いと消毒、三密対応や換気の実施などの防疫施策と共に、会場の定員を従来の150名から75名に減員するなどの宴会対応の基準が定められていました。

引続きコロナ禍の影響が残ることを覚悟しないとイケませんので、開催準備にはリスクの軽減策がポイントになります。そうした検討の一つが、オンラインの活用です。企業のリモート会議の推進も話題に上り始めていました

が、支部の現有役員にはこの分野の知見に乏しいことから、新たに山口敏之(25回)と安井孝之(28回)の両氏にも加わって頂き7月開催の総会準備が整いました。

3. 役員会のZOOM開催を試行

山口・安井両氏の提唱で始めたのが、役員会のZOOM開催です。二人はZOOM管理者の資格を保有されているので、2月のZOOM役員会開催に向け2度の事前練習会の開催など指導を受けることにしました。支部長をはじめ大半の役員はZOOM会などの経験がありませんので、恐る恐る練習会に臨み会話が繋がるかどうかも未知数に感じたことを思い出します。

然しながら、そうした不安も二人の好指導により払拭され十二分に会議を機能することを認識出来ました。オンラインの採用という課題も見えてきましたので、次回に一定の結論として整理することに漕ぎ着けた次第です。

同窓会だより

4. 3月のZOOM役員会で中止を協議

3月の役員会もZOOM会議を採用しました。もうりモート会への不安はありませんが、総会の開催をめぐることは議事が紛糾し、最終的には令和3年度の開催も見合わせることを4月開催の理事会に諮ることを申し合わせました。

学士会館のコロナ対応とオンライン総会の組み合わせなど複数案について検討を重ね、総会の議事、支部関係者やご来賓の挨拶、セミナー（講演）などは、十分に機能できる確証を掴めていました。然しながら、支部会員が総会に参加しようと考えるきっかけについて飲食や会話が制約を受ける懇親会では魅力が半減する、などの意見が多く、オンラインの活用では解消できない動機づけと理解せざるを得ませんでした。

5. ZOOM理事会と総会中止の決定

4月18日（日）にZOOMで開催された東京支部の理事会では、支部長の2年続けての総会中止の提案が了承され

ました。無念ではありましたが、同窓会に出席する魅力を再確認できたことは収穫であり、今後の運営に向け理事・監事の皆さまにもご理解を頂きました。

また、支部として初めてのZOOM理事会の提案に対し、定員の半数を超える32名の理事・監事の皆さまにご出席を頂いたことも大収穫です。思った以上に活発な発言が多く議論が出来て良かった、等の感想を多く頂き、支部活動へのオンラインの活用にもたくさんの力強いご支援の言葉で励まされました。感謝申し上げます。東京支部には高見顧問が支部長時代に推進されたホームページがありますので、ZOOMなどと併せオンラインの活用を多角的に進めてまいります。引続きのご支援を頂ければと思います。

6. 令和4年度の総会の開催

令和4年度の東京支部総会・懇親会は7月10日（日）を予定しています。コロナ禍の動向は予断を許しませんの

で、学士会館とも連携し飲食とオンラインのハイブリッドな組合せを目指したいと考えます。幹事学年は26回と27回の皆さんにお願いいたしますので、ご出席をお待ちいたします。

（柏陵同窓会東京支部長 谷 敬三）



4月18日（日）に開催された東京支部理事会のZOOM会の様子



柏陵同窓会HP
QRコード

インフォメーション

展覧会

●「心やすらぐ光の情景」

《笹倉鉄平画業30周年記念展》開く

本誌の表紙に毎号素晴らしい絵を頂いている、笹倉鉄平さんが、画業30周年を記念して、本年1月23日から2月1日まで、上野の森美術館全館貸し切りにて記念個展を開かれました。開催の趣旨や画伯の思い入れなどについては本誌51号に、ご本人が「30年という長い年月、支えて下さった沢山の方々への御礼の想いと節目を、何か形にした」と思っておりました。それが、これまでで最も大きな展覧会として、年明け1月末から『上野の森美術館』にて開催を予定しております。『画業30周年記念展“です”』と述べられています。折悪しく新型コロナ禍の嵐の最中のこととて、来館者の足並みが気に懸るとこ

ろでしたが、鉄平ファンは根強く、客足は引きも切らない盛況でした。

展示の作品数は、絵画・ポスターなど150点。館内のじじまの中、鑑賞者たちは、その「光の情景」に暫し酔い痴れているようでした。(S)



◎寄附者芳名(令和二年度)

笹倉 靖幸殿	二八、〇〇〇円	足立 義雄殿	三、〇〇〇円	梶原 やす子殿	二、〇〇〇円
岸本 勲殿	二〇、〇〇〇円	石橋 昭彦殿	三、〇〇〇円	久保 良雄殿	一、〇〇〇円
藤田千治・玲子殿	一三、〇〇〇円	上野 高子殿	三、〇〇〇円	徳舛 雅孝殿	二、〇〇〇円
中居 篤子殿	一〇、〇〇〇円	影山 一恵殿	三、〇〇〇円	本城 英明殿	一、五〇〇円
中山 昇殿	一〇、〇〇〇円	木寺 昭三殿	三、〇〇〇円	足立 武夫殿	一、〇〇〇円
廣内 卓生殿	一〇、〇〇〇円	絹川 正殿	三、〇〇〇円	足立 東一郎殿	一、〇〇〇円
堀井 隆川殿	一〇、〇〇〇円	坂上 豊殿	三、〇〇〇円	足立 美都子殿	一、〇〇〇円
島津 和子殿	八、〇〇〇円	直田 正殿	三、〇〇〇円	稲岡 俊一殿	一、〇〇〇円
山口 敏之殿	八、〇〇〇円	勢 正彦殿	三、〇〇〇円	井上 京子殿	一、〇〇〇円
安達 健一郎殿	六、〇〇〇円	千葉 淳子殿	三、〇〇〇円	内田 佳邦殿	一、〇〇〇円
大野 義昭殿	五、〇〇〇円	塚口 恭一殿	三、〇〇〇円	粕谷 迪子殿	一、〇〇〇円
金出 一郎殿	五、〇〇〇円	鶴田宏・ゆき子殿	三、〇〇〇円	貴志 典子殿	一、〇〇〇円
小笠 多嘉子殿	五、〇〇〇円	野垣 有殿	三、〇〇〇円	小林 和子殿	一、〇〇〇円
谷口 捷殿	五、〇〇〇円	林 孝男殿	三、〇〇〇円	杉岡 明美殿	一、〇〇〇円
谷口 浩章殿	五、〇〇〇円	原 利允殿	三、〇〇〇円	正呂地 悟殿	一、〇〇〇円
中村 みより殿	五、〇〇〇円	廣瀬 安伸殿	三、〇〇〇円	谷垣 浩樹殿	一、〇〇〇円
三浦 和子殿	四、〇〇〇円	藤田 純殿	三、〇〇〇円	西川 宣孝殿	一、〇〇〇円
赤井 正洋殿	三、〇〇〇円	細見 充彦殿	三、〇〇〇円	原川 美恵子殿	一、〇〇〇円
足立 啓介殿	三、〇〇〇円	山下 雅弘殿	三、〇〇〇円	村上 利男殿	一、〇〇〇円
足立 敏晤殿	三、〇〇〇円	吉見 弘文殿	三、〇〇〇円	山岸 幸子殿	一、〇〇〇円
		井出 恭子殿	二、〇〇〇円	山本 述子殿	一、〇〇〇円
				余田 幸夫殿	一、〇〇〇円

本誌にご協力有難うございます ❖

YOKOHAMA

安心感で選ぶなら
ウェット「a」

雨に強いウェット性能「a」ラインアップ



ADVAN
Sport
V102



ADVAN
dB
V552



ADVAN
FLEVA
1700



BluEarth-GT
225



BluEarth 1
1700



BluEarth
RV-02



BluEarth XT
225

※V105/V552には一層「a」でないサイズがございます。詳しくはカタログ、WEBをご覧ください。



❖ 本誌にご協力有難うございます

○ 損保ジャパン

SOMPO Innovation for Wellbeing

「安心でいたい」

「安全でいたい」

「健康でいたい」

それはきっと、誰もが抱く切なる願い。

そして私たちの願いは、

人々の普遍の想いに寄りそう。

パートナーであり続けること。

変化の先を常に予想し

捉えることは、私たちの使命。

「最高品質のサービス」で、

すべての人にお応えします。

保険の先へ、挑む。

損害保険ジャパン株式会社 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 Tel:03-3349-3111 <https://www.sompo-japan.co.jp/>

ひょうご出会いサポート 東京センター

婚活を兵庫県がサポートします。



東京都千代田区平河町2-6-3
都道府県会館13階

NPO法人アジアの新しい風 理事長代行
<http://www.npo-asia.org>

上 高 子 (氷上町出身)

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻 2-18-22-414
TEL / FAX 03-5426-6714
e-mail takako-ue@t05.itscom.net

「日本についてもっと知りたい」「日本の大学へ留学したい」「日本企業に就職したい」など日本愛を語る学生たちに、メールで日本語のサポートをしていただけませんか。この交流を通して自己啓発が促されたという会員が多く、日本文化への開眼のみならず、アジア、世界の目が啓かれます。詳しくは、ホームページをご参照ください。

地元兵庫県産の酒米と神地寺山伏流水を用いた古式和釜、三段仕込み、槽搾りの創業以来ほとんどスタイルを変えない伝統的な仕込み方法と、江戸時代より続く寒仕込みにこだわる

丹州氷上之地酒

奥丹波

時代を経ても変わらない深い味わいと穏やかな香りの純米酒
そして、現代の酒造りの粋を極めた純米吟醸酒・純米大吟醸酒を中心に仕込んでいます



創業江戸享保元年

山名酒造株式会社

TEL 0795-85-0015
<http://www.okutamba.co.jp>

関東氷上郷友会の益々のご発展を
祈念いたします。



山あれば
川がある
ふるさとよ
山にきつね
川にごんろく
まだ居るか
ふるさとよ

ふるさとを離れたあなたに、ふるさとの土の匂いを伝えます。

丹波新聞社

〒669-3309 丹波市柏原町柏原201

tel.0795-72-0530 fax.0795-72-1956

E-mail tanba@tanba.jp

丹波新聞

検索

携帯サイトは
こちら⇒



あなたの町の「石屋さん」
そんな石屋をめざしています！！

墓石・霊園・建築石材・造園石材

(株) 丹波総合石材

代表取締役 堀 公二 柏高 昭和 36 年卒

いしやは ここよ

☎ 0120-1480-54



事務所 〒669-3311 丹波市柏原町母坪425
工場 〒669-3314 丹波市柏原町拳田13-1
TEL 0795-72-3032
FAX 0795-72-4343
<http://www.tanba-sekizai.com>

今、求められている

新しいスタイルの物流トータルサービスをあなたに

情報誌・SP販促物などの梱包・発送管理、DM発送
データ入力等の情報処理、コールセンター、
事務局代行、在庫管理など一連業務を代行いたします

————— いつでもよりよいサービスを —————

BSS

株式会社ベターサービス

代表取締役 絹川 正 (山南町池谷)

本社：〒262-0003 千葉県花見川区宇那谷町 1501-2
TEL：043-257-0414 FAX：043-257-2865
<http://www.betterservice.co.jp>
e-mail：kinugawat@betterservice.co.jp

❖ 本誌にご協力有難うございます

関西丹波市郷友会会報

たんば 第6号

(11月発行予定)

郵送料のみご負担にて配布致します。

[申し込み先] 関西丹波市郷友会

[事務局] 丹波市柏原町柏原1747-2

山中邦雄方 (tel.090-3623-6903)

令和3年度総会は、新型コロナ禍のため見送りますが、会報は例年通り発行します。

関西丹波市郷友会会報
第6号 2021.11.1

丹波と東京を繋ぐ丹波のコンセプトショップ 丹波の心を伝える 田舎は心 TAMABA HANAGAWA Brand



春日局様の生誕の地「丹波市春日町」と、眠る地「東京都文京区」を繋ぐ丹波のコンセプトショップとして平成30年9月に

「丹波風土 東京春日店」を開業いたしました。弊社は丹波市春日町で丹波の栗・黒豆・大納言小豆を中心にした加工品を製造し、更にその加工品と丹波産の卵、牛乳、米、酒、フルーツ等を使った和洋菓子を製造販売しています。今後丹波ブランドを守り広げる為に、田舎の生産地と東京の消費地を結ぶ役割が担えたらと思っています。関東氷上郷友会の皆様にも是非ご利用くださいますようお願い申し上げます。

株式会社 **やながわ** 兵庫県丹波市春日町野上野209-1



風丹
土波
東京春日店

〒113-0033
東京都文京区本郷1丁目35-26
ラレーブ文京本郷ビル1階
TEL 03-3868-5610

都営地下鉄 大江戸線 三田線 東京メトロ丸ノ内線 南北線
「春日」A1. A2. 出口より徒歩 「後楽園」4B 出口より徒歩5

郷友の皆様へお願い

▼同じふるさとをもつ者の親しさは、親兄弟にも似て快よく、その気がねのない交りは、互いに清新なげみを呼びおこします。そんな仲間のひろがりをも、この小誌は求めつづけます。

▼この雑誌は毎号全会員に贈ります。同郷者の全員が会員ですから、登録のない方や住所変更等がありましたらぜひお知らせください。

▼関東水上郷友会は、すべて有志のボランティア活動によって運営されています。『山ざる』誌や通信費等の資金源も、有志の寄付、協賛広告料、郷友会会費等によって支えられています。

▼広告料は名刺広告五千円、半頁広告一万五千円、全頁広告三万円です。何卒ご協力お願い致します。

▼年会費の二〇〇〇円は会の運営を支える重要な資源です。同封振込用紙にてお振込みください。よう願ひ上げます。

▼これだけ充実した会誌をもつ同郷会はないとうらやましがられるたびに、“丹波のきずな”の強さを思います。

(山ざる編集部)

医療法人社団 順孝会 理事長／医学博士
順天堂大学眼科 非常勤講師

足 立 和 孝

〒 347-0015 埼玉県加須市南大桑一六二〇―一
TEL 〇四八〇―六五五九八八
FAX 〇四八〇―六五一六〇九七
E-mail: kazu358@pastel.ocn.ne.jp

株式会社ナレッジリンク
足立国際会計事務所

代表取締役

税理士・米国公認会計士 (Certificate)

足 立 知 佳 子

〒 152-0035 東京都目黒区自由が丘一―三―四 U I W I I 自由が丘ビル六〇二
TEL 〇三―三七一八―八〇四七 FAX 〇三―三七一八―八一四七
E-mail: cadachi@ata.gr.jp

足 立 静 雄

神奈川県立高校英語科講師
英検一級、全国通訳案内士 (英語)

石 橋 順 子

E-mail: ykmarch@ab.cyberhome.ne.jp

PCC大洋

岡 吉 明

〒 351-0014 朝霞市膝折町四―四―三〇
TEL 〇四八―四六〇―一六〇一
FAX 〇四八―四六〇―一三九七
http://www.pcc-taiyo.co.jp

岡 田 昌 子

岸
田
勇

上
武
正
次

金
出
一
郎

坂
上
明

くすの木 14 (14回生部会)
にれの木 20 (20回生部会)

木
呂
子
惠
美
子

仲
一
聰

坂
上
豊

坂
上
勝
朗

谷
敬
三

東京都 豊島区池袋本町四―二二―十七
TEL 〇三―三九七―七八二六
携帯TEL 〇八〇―三三九九―七二四七

柏陵同窓会東京支部 支部長

高
見
秀
史

いい眠りのためのNPO法人..
SASネットメールマガジン
magazine@sas-j.org をご覧ください。

合唱指揮者

笹
倉
強

〒 352 | 0014 新座市栄四―五―二五
TEL・FAX 〇四八―四七七―五六四〇

谷 口 浩 章

鶴 田 宏

土 井 聖 司

エネクスフリースト株式会社
西日本支店 執行役員 支店長

〒813-0018

福岡県福岡市東区香椎浜ふ頭

三十一一十四

電話 〇九二一六八一六八〇二

日本舞踊
西 崎 祥 妙
端 唄
根 岸 妙

〒224-0032

横浜市都筑区茅ヶ崎中央五六一九一七二二
電話 〇九〇一九九七七七七七九三

西 山 裕 三

〒669-4302

兵庫県丹波市市島町

中竹田一七一一

田 中 忍

かおりよし農園
こしひかり他うるち米・紫黒米・雑穀米・生産販売

〒669-3642

丹波市氷上町香良三二三

電話 〇九〇一二五九四一〇七四六

原谷洋美

株式会社
メイク

代表取締役

広瀬

寿和

〒160-0003

東京都新宿区本塩町二十三第二田中ビル
電話 〇三―三三三五四―〇二二一
FAX 〇三―三三三五四―二二二一

藤原ひさ子

エネクスフリースト株式会社
関東支店 支店長

古池竜也

〒346-0003

埼玉県久喜市久喜中央一―一二十
久喜駅前西口再開発ビル五階五〇九号
電話 〇四八〇―二九一―〇六〇

青葉山 真照寺 都立八王子霊園隣り
八王子 青葉霊苑 第二期墓地分譲案内中
和合廟(永代供養墓)受付中

住職 堀井隆川

〒193-0821

東京都八王子市川町四九三―二
電話 〇四二―六五二―〇二二一
FAX 〇四二―六五二―〇三三三

Gemba Lab 株式会社

代表 安井孝之

〒101-0026

東京都千代田区神田佐久間河岸七〇
第二田中ビル三八号室

編	集
後	記

★初詣の神社に大きな「輪っか」があり、「くぐる」と無病息災」の説明書き。後に「茅の輪」で疫病退散を願ったものを知った。昔の人の非科学的な思いは2年続きのコロナ禍で気持ちがよくなった。科学や医学が長足の進歩を遂げているのにコロナの疫病に負けそうな人類。何かにすがれば不安な心は和らぐが疫病は身体だけでなく心も蝕む。カミュの「ペスト」に似たようなことが書かれていた。ワクチンでささくれだった心も癒されることを願うばかり。(石橋)

★八十路となれば帰省しても浦島太郎！しかし早朝の保月城址は別です。あちこちから「まだ生けつとちやったんですか」と遠慮のない声がかかりますから。(徳田)

★トイレットペーパーの芯で作った双眼鏡を左右に動かしながら四歳児はオリソニック観戦。なかなか愉快な図。五輪開催とコロナ感染爆発拡大の因果応報をどのように摺り合わせるよののだから。喧しいマスコミ情報を独自の智見で解くこと大事と、四歳児に倣い双眼鏡を手作りして覗いている。(原谷)

★7月末に丹波に帰り市島町の野球場で開かれていた全国高校女子野球選手権、いわゆる「女子高生の甲子園」を取材し、男子よりもきびきびしているのではないかと感心。いずれ大きくブレークすると思います。丹波市での開

催はすでに25回目ですが地元元の盛り上がりはイマイチです。もつと丹波市はPRすべきかと思えばかりです。(安井)

★「山ざる」50号発行の時には、創刊をご存知の読者から「50号ですかよく続いたものです」と感慨の言葉をいただき、今年寄稿して下さった方からは、「山ざる100号に向かって頑張つて下さい」と励ましをいただきました。ありがたいことです。(本城)

★オリソニックが1年延びて喜んだ人、泣いた人。パリまで残り3年。悲喜ごもごも。そんなことを考えながらこの編集後記でした。(井徳)

★「今日は何月何日?」「一日は何回も確認。家に籠っているので読み物や見るものの情報で頭が一杯。若い時なら記憶に残って知識が増え賢くなるのでしょけど最近はずくに忘れる。その内読んだことも見たことも忘れる?そういう時が近づいているような...あな魂ぞろしや。」(上)

★今年も「ふるさと」の会」が開催出来ます。その中でも皆様のお力添えで「山ざる」が発行でき、担当の「マイギャラリ」も立派な紙面を飾ることが出来ました。次年度もご自分の作品(趣味)の歴史としては是非ご投稿下さい。又例年は総会出欠葉書の近況を「会員だより」に記載させていただいていましたが2年続けての返信不要となり、皆様のお便りが少なくなっています。「元気に過ごしているよ」との近況報告はきつと皆さんお待ちになっていると思

ます。併せて是非今年も皆様の情報が頂けることを期待しています。(岡)

★今号は企画からPCでの対応。優秀揃いの編集委員は颯爽と実行。会員の皆様始め丹波からも快くご寄稿いただき、今年も知性豊かな読み応え見応え十分の素晴らしい内容になりました。会員の皆様、表紙の世倉鉄平画伯、広告や寄付等にてご協力いただきました皆様方に感謝申し上げます。足立敏昭さん・岡吉明さんのご尽力により「山ざる」は33号から国会図書館に納入されています。「山ざる」の歴史をご覧いただければ幸いです。(岡田)

山ざる 第52号 定価500円

令和三年十一月一日発行

- 委員 井徳正吾 石橋順子 上高子
岡吉明 岡田昌子 坂上勝朗
編集 徳田八郎衛 原谷洋美 藤原ひさ子
編集 本城英明 安井孝之

発行者 関東水上郷友会会長岸本 勲

〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町4-4-30

関東水上郷友会事務局(岡吉明)

☎048(四六〇)一六〇一

振替01101-311-33130

製作 株式会社二女社

編集協力 ダイワコムズ



人と、社会と、
その先へ。



HINO
PROFIA

南関東日野自動車株式会社

本社:東京都港区新橋5丁目18-1
TEL 03-3578-3955(代表)



附録DVD: コンピュータ上で全頁閲覧可能!

B5判変型 (260×190mm)・上製布貼表紙・函入・総3056頁 ● **52,800円** (10%税込)

書体字典の最高峰。未曾有の21万字収録!

大書源

[全三巻+索引冊]
DVD、書道史年表附録

二玄社編集部 編

殷の甲骨・金文から清末の齊白石まで、あらゆる時代の様々な書体に加え、飛鳥から平安に至る日本の名跡も収録。21万を超える史上最多の字例を収めた書体字典の決定版。附録のDVDに全頁のデータを完備。

楷・行・草・かなを、編者の美しいペン字で収録!

標準硬筆字典 改訂新版

石川芳雲 編

改定常用漢字・人名用漢字ほか頻用される漢字3053字を、楷行草の三体および旧字体・書写体の最も標準的な字例で収録。見出し字は主要な音訓によって五十音順に配列し、かな一覧も付録。硬筆書写検定に最適。


A5判・320頁・函入

● **3300円** (10%税込)



リ ー リ ウ ウ	懷 懷 懷 懷 懷	律 律 律 律 律	立 立 立 立 立	陸 陸 陸 陸 陸	離 離 離 離 離
明 治 時 代	龍 龍 龍 龍 龍	留 留 留 留 留	流 流 流 流 流	柳 柳 柳 柳 柳	略 略 略 略 略
現 代	龍 龍 龍 龍 龍	留 留 留 留 留	流 流 流 流 流	柳 柳 柳 柳 柳	略 略 略 略 略

株式会社二玄社 代表取締役 渡邊也寸美

 **二玄社**

〒113-0021 東京都文京区本駒込 6-2-1 Tel.03-5395-0511 Fax.03-5395-0515 <http://nigensha.co.jp>